

Dell™ PowerEdge™

T310 システム

ハードウェアオーナー
ズマニュアル



メモ、注意、警告



メモ：コンピュータを使いやすいするための重要な情報を説明しています。



注意：手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。



警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2009 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、および PowerEdge は Dell Inc. の商標です。MS-DOS、Microsoft、Windows および Windows Server は米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。Dell Inc. はデル以外の商標や社名に対する所有権を一切否認します。

目次

| | |
|----------------------|----|
| 1 システムについて | 11 |
| 起動中にシステムの機能にアクセスする方法 | 11 |
| 前面パネルの機能およびインジケータ | 12 |
| LCD パネルの機能 (オプション) | 15 |
| ホーム画面 | 16 |
| Setup (セットアップ) メニュー | 17 |
| View (表示) メニュー | 18 |
| ハードドライブインジケータのパターン | 19 |
| 背面パネルの機能およびインジケータ | 20 |
| 外付けデバイス接続のガイドライン | 22 |
| NIC インジケータコード | 22 |
| 電源インジケータコード | 23 |
| 診断ライト (オプション) | 25 |
| LCD ステータスメッセージ | 27 |
| ステータスメッセージの表示 | 27 |
| LCD ステータスメッセージの消去 | 27 |
| システムメッセージ | 40 |
| 警告メッセージ | 55 |
| 診断メッセージ | 55 |
| アラートメッセージ | 56 |
| その他の情報 | 56 |

| | | |
|---|--|-----------|
| 2 | セットアップユーティリティとUEFIブートマネージャの使い方 | 57 |
| | システム起動モードの選択 | 57 |
| | セットアップユーティリティの起動 | 58 |
| | エラーメッセージへの対応 | 58 |
| | セットアップユーティリティナビゲーションキーの使い方 | 58 |
| | セットアップユーティリティのオプション | 59 |
| | メイン画面 | 59 |
| | Memory Settings (メモリ設定) 画面 | 61 |
| | Processor Settings (プロセッサ設定) 画面 | 62 |
| | SATA Settings (SATA 設定) 画面 | 63 |
| | Boot Settings (起動設定) 画面 | 64 |
| | Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面 | 65 |
| | PCI IRQ Assignment (PCI IRQ 割り当て) 画面 | 66 |
| | Serial Communication (シリアル通信) 画面 | 66 |
| | Embedded Server Management (組み込みサーバー管理) 画面 (オプション) | 67 |
| | Power Management (電力の管理) 画面 | 68 |
| | System Security (システムセキュリティ) 画面 | 69 |
| | Exit (終了) 画面 | 71 |
| | UEFI ブートマネージャの起動方法 | 71 |
| | UEFI ブートマネージャのナビゲーションキーの使い方 | 72 |
| | UEFI Boot Manager (UEFI ブートマネージャ) 画面 | 72 |
| | UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定) 画面 | 73 |
| | System Utilities (システムユーティリティ) 画面 | 73 |
| | システムパスワードとセットアップパスワードの機能 | 74 |
| | システムパスワードの使い方 | 74 |
| | セットアップパスワードの使い方 | 77 |

| | |
|----------------------|-----------|
| 組み込みシステム管理 | 79 |
| ベースボード管理コントローラの設定 | 79 |
| BMC セットアップモジュールの起動 | 80 |
| iDRAC 設定ユーティリティ | 80 |
| iDRAC 設定ユーティリティの起動 | 81 |
| 3 システム部品の取り付け | 83 |
| 奨励するツール | 83 |
| システムの内部 | 83 |
| 前面ベゼル | 85 |
| 前面ベゼルの取り外し | 85 |
| 前面ベゼルの取り付け | 86 |
| 前面ベゼルカバー | 86 |
| 前面ベゼルカバーの取り外し | 86 |
| 前面ベゼルカバーの取り付け | 87 |
| EMI フィラーパネル | 88 |
| EMI フィラーパネルの取り外し | 88 |
| EMI フィラーパネルの取り付け | 89 |
| システムカバーの開閉 | 90 |
| システムカバーの取り外し | 90 |
| システムカバーの取り付け | 91 |
| 拡張カードスタビライザ | 92 |
| 拡張カードスタビライザの取り外し | 92 |
| 拡張カードスタビライザの取り付け | 92 |
| 冷却用エアフローカバー | 93 |
| 冷却用エアフローカバーの取り外し | 93 |
| 冷却用エアフローカバーの取り付け | 94 |

| | |
|--|------------|
| ハードドライブ | 95 |
| ハードドライブダミーの取り外し | 96 |
| ハードドライブダミーの取り付け | 96 |
| ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し | 97 |
| ホットスワップ対応ハードドライブの取り付け | 98 |
| ホットスワップ対応ハードドライブをハードドライブキャリアから取り外す方法 | 99 |
| ホットスワップ対応ハードドライブをドライブキャリアに取り付ける方法 | 101 |
| ケーブル接続式ハードドライブの取り外し | 101 |
| ケーブル接続式ハードドライブの取り付け | 103 |
| ケーブル接続式ハードドライブをハードドライブブラケットから取り外す方法 | 104 |
| オプティカルドライブとテープドライブ | 105 |
| オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外し | 105 |
| オプティカルドライブまたはテープドライブの取り付け | 107 |
| 電源ユニット | 110 |
| 冗長電源ユニットの取り外し | 110 |
| 冗長電源ユニットの取り付け | 111 |
| 非冗長電源ユニットの取り外し | 112 |
| 非冗長電源ユニットの取り付け | 113 |
| システムファン | 114 |
| システムファンの取り外し | 114 |
| システムファンの取り付け | 116 |
| システムメモリ | 116 |
| メモリモジュール取り付けのガイドライン | 117 |
| モードごとのガイドライン | 118 |
| メモリモジュールの取り付け | 119 |
| メモリモジュールの取り外し | 122 |

| | |
|--|------------|
| 拡張カード | 123 |
| 拡張カードの取り付けガイドライン | 123 |
| 拡張カードの取り付け | 124 |
| 拡張カードの取り外し | 127 |
| iDRAC6 Express カード (オプション) | 128 |
| iDRAC6 Express カードの取り付け | 128 |
| iDRAC6 Express カードの取り外し (オプション) | 130 |
| iDRAC6 Enterprise カード (オプション) | 131 |
| iDRAC6 Enterprise カードの取り付け | 131 |
| iDRAC6 Enterprise カードの取り外し | 133 |
| VFlash メディア (オプション) | 134 |
| VFlash メディアの取り付け | 134 |
| VFlash メディアの取り外し | 134 |
| 内蔵 USB メモリキー | 135 |
| プロセッサ | 137 |
| プロセッサの取り外し | 137 |
| プロセッサの取り付け | 140 |
| システムバッテリー | 141 |
| システムバッテリーの交換 | 141 |
| RAID バッテリー (オプション) | 144 |
| RAID バッテリーの取り外し | 144 |
| RAID バッテリーの取り付け | 146 |
| シャーシイントルージョンスイッチ | 146 |
| シャーシイントルージョンスイッチの取り外し | 146 |
| シャーシイントルージョンスイッチの取り付け | 148 |
| コントロールパネルアセンブリ | 148 |
| コントロールパネルアセンブリの取り外し | 148 |
| コントロールパネルアセンブリの取り付け | 151 |
| SAS バックプレーン | 151 |
| SAS バックプレーンの取り外し | 151 |
| SAS バックプレーンの取り付け | 154 |

| | |
|--|------------|
| 配電基板 | 155 |
| 配電基板の取り外し | 155 |
| 配電基板の取り付け | 157 |
| システム基板 | 158 |
| システム基板の取り外し | 158 |
| システム基板の取り付け | 160 |
| 4 システムのトラブルシューティング | 163 |
| 作業にあたっての注意 | 163 |
| システム起動エラーのトラブルシューティング | 163 |
| 外部接続のトラブルシューティング | 164 |
| ビデオサブシステムのトラブルシューティング | 164 |
| USB デバイスのトラブルシューティング | 164 |
| シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング | 166 |
| NIC のトラブルシューティング | 166 |
| システムが濡れた場合のトラブルシューティング | 167 |
| システムが損傷した場合のトラブルシューティング | 169 |
| システムバッテリーのトラブルシューティング | 170 |
| 電源ユニットのトラブルシューティング | 171 |
| システム冷却問題のトラブルシューティング | 171 |
| ファンのトラブルシューティング | 172 |
| システムメモリのトラブルシューティング | 173 |
| 内蔵 USB キーのトラブルシューティング | 175 |
| オプティカルドライブのトラブルシューティング | 176 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| テープバックアップユニットのトラブルシューティング | 177 |
| ハードドライブのトラブルシューティング | 178 |
| SAS または SAS RAID コントローラのトラブルシューティング | 179 |
| 拡張カードのトラブルシューティング | 181 |
| プロセッサのトラブルシューティング | 182 |
| | |
| 5 システム診断プログラムの実行 | 185 |
| オンライン Diagnostics (診断) の使い方 | 185 |
| 内蔵されたシステム診断プログラムの機能 | 186 |
| 内蔵されたシステム診断プログラムの実行が必要な場合 | 186 |
| 内蔵されたシステム診断プログラムの実行 | 187 |
| システム診断プログラムのテストオプション | 187 |
| カスタムテストオプションの使い方 | 188 |
| テストするデバイスの選択 | 188 |
| 診断オプションの選択 | 188 |
| 情報および結果の表示 | 189 |

| | | |
|---|--------------------|-----|
| 6 | ジャンパおよびコネクタ | 191 |
| | システム基板のジャンパ | 191 |
| | システム基板のコネクタ | 192 |
| | SAS バックプレーンボードコネクタ | 195 |
| | 配電基板コネクタ | 196 |
| | パスワードを忘れたとき | 197 |
| 7 | 困ったときは | 199 |
| | デルへのお問い合わせ | 199 |
| | 用語集 | 201 |
| | 索引 | 211 |

システムについて

起動中にシステムの機能にアクセスする方法

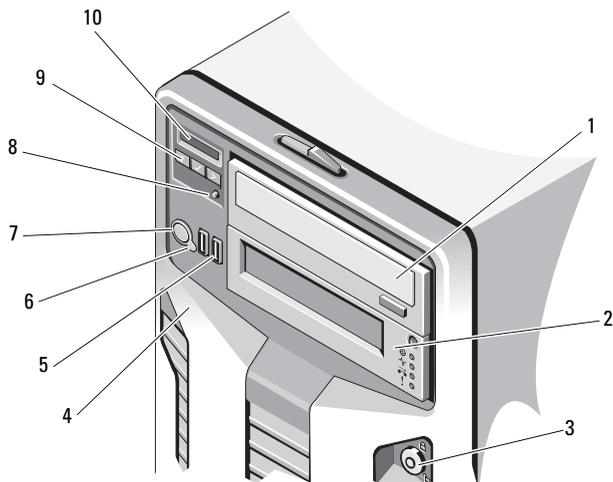
起動時に以下のキー操作を行うと、システム機能にアクセスできます。

| キーストローク | 説明 |
|-----------|---|
| <F2> | セットアップユーティリティが起動します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| <F10> | システムサービスが起動し、Unified Server Configurator が開きます。Unified Server Configurator を使用して、システム診断プログラムなどの内蔵されたユーティリティにアクセスできます。詳細については、Unified Server Configurator のマニュアルを参照してください。 |
| <F11> | システムの構成に応じて、BIOS ブートマネージャまたは UEFI ブートマネージャが起動します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| <F12> | PXE ブートが開始されます。 |
| <Ctrl><E> | ベースボード管理コントローラ(BMC)または iDRAC 設定ユーティリティが起動し、システムイベントログ(SEL)およびシステムへのリモートアクセスの設定にアクセスできます。詳細については、BMC または iDRAC のユーザーマニュアルを参照してください。 |
| <Ctrl><C> | SAS 設定ユーティリティが起動します。詳細については、SAS アダプタのマニュアルを参照してください。 |
| <Ctrl><R> | PERC 設定ユーティリティが起動します。詳細については、PERC カードのマニュアルを参照してください。 |
| <Ctrl><S> | NIC を PXE ブート用に設定するユーティリティが起動します。詳細については、内蔵 NIC のマニュアルを参照してください。 |

前面パネルの機能およびインジケータ

 **メモ**：お使いのシステムには、構成に応じて LCD パネルか LED 診断インジケータが備わっています。

図 1-1 前面パネルの機能およびインジケータ



| 項目 | インジケータ、ボタン、またはコネクタ | アイコン | 説明 |
|----|------------------------------|------|--|
| 1 | 前面ベゼルロック | | 前面ベゼルをシステムに固定します。 |
| 2 | テープドライブ / オプティカルドライブ (オプション) | | オプションのハーフハイト内蔵テープバックアップデバイスまたはオプティカルドライブ 1 台 |
| 3 | オプティカルドライブ (オプション) | | オプションの内蔵 SATA DVD-ROM または DVD+/-RW メモ ：DVD デバイスはデータ専用。 |

| 項目 | インジケータ、ボタン、またはコネクタ | アイコン | 説明 |
|----|--------------------|---|---|
| 4 | LED または LCD パネル | | <p>LED パネル — システムの起動中に、4 つの診断インジケータがエラーコードを表示します。25 ページの「診断ライト(オプション)」を参照してください。</p> <p>LCD パネル — システム ID、ステータス情報、システムエラーメッセージが表示されます。</p> <p>LCD は、通常のシステム動作中は青色に点灯します。システムに注意が必要な状況になると LCD が黄色に点灯し、LCD パネルにはエラーコードとエラーの内容を説明するテキストが表示されます。</p> <p>メモ：システムが AC 電源に接続されている状態でエラーが検出されると、LCD はシステムの電源がオンになっていなくても黄色に点灯します。</p> |
| 5 | LCD メニューボタン | | コントロールパネル LCD メニューの切り替えに使用します。 |
| 6 | システム識別ボタン |  | 前面パネルの識別ボタンは、特定のシステムの位置を確認するために使用します。このボタンを押すと前面の LCD パネルが青色に点滅し、もう一度押すと点滅が止みます。 |

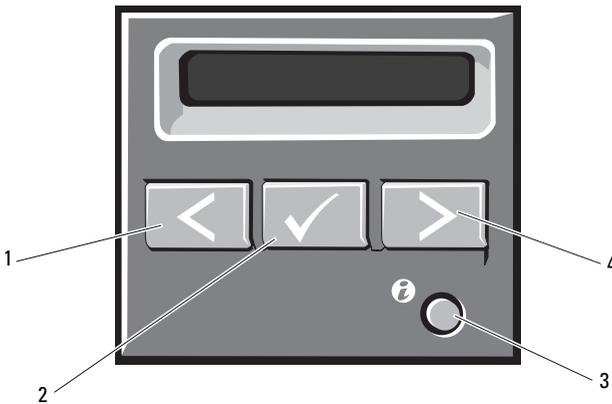
| 項目 | インジケータ、ボタン、またはコネクタ | アイコン | 説明 |
|----|--------------------|---|--|
| 7 | 電源インジケータ、電源ボタン |  | <p>電源インジケータは、システムの電源が入っている場合に点灯します。</p> <p>電源ボタンによってシステムへの直流電源の供給を制御します。</p> <p>メモ：システムに搭載されているメモリの容量によっては、システムに電源を入れてからビデオモニターに画像が表示されるまでに数秒から2分以上かかる場合があります。</p> <p>メモ：ACPI 対応の OS では、電源ボタンを使ってシステムの電源を切っても、システムの電源が切れる前にシステムが正常なシャットダウンを行うことができます。</p> <p>メモ：やむを得ずシャットダウンを強制する場合は、電源ボタンを5秒間押し続けます。</p> |
| 8 | NMI ボタン |  | <p>特定の OS を使用している際に、ソフトウェアエラーおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングを行います。このボタンは、ペーパークリップの先端を使って押すことができます。</p> <p>認定を受けたサポート担当者によって指示された場合、または OS のマニュアルで指示されている場合にのみ、このボタンを使用してください。</p> |
| 9 | USB コネクタ(2) |  | <p>USB デバイスをシステムに接続するときに使用します。ポートは USB 2.0 対応です。</p> |
| 10 | 前面ベゼル | | <p>システムのフロントローディング式ハードドライブを覆っています。</p> |

LCD パネルの機能（オプション）

システムの LCD パネルには、システム情報と、システムが正常に動作している場合、またはシステムに注意が必要な場合を示すステータスおよびエラーメッセージが表示されます。特定のステータスコードについては、27 ページの「LCD ステータスメッセージ」を参照してください。

LCD バックライトは、正常な動作状態では青色に、エラー状態では黄色に点灯します。システムがスタンバイモードのとき、LCD バックライトは消灯しますが、LCD パネルの選択ボタンを押すと点灯します。BMC または iDRAC ユーティリティ、LCD パネル、またはその他のツールを使用して LCD メッセージをオフにしている場合、LCD バックライトは消灯のままです。

図 1-2 LCD パネルの機能



| 項目 | ボタン | 説明 |
|----|--------|---|
| 1 | 左 | カーソルが後方に 1 つ分移動します。 |
| 2 | 選択 | カーソルによってハイライト表示されているメニュー項目を選択します。 |
| 3 | システム識別 | システム識別モードのオン(LCD パネルが青色に点滅)とオフを切り替えます。 すばやく押ししてシステム識別のオン / オフを切り替えます。POST 中にシステムがハングした場合は、システム識別ボタンを 5 秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。 |
| 4 | 右 | カーソルが前方に 1 つ分移動します。 メッセージのスクロール中に次の操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 回押すとスクロールが速くなります。 • 再び押すと停止します。 • もう 1 回押すとデフォルトのスクロール速度に戻ります。 • もう 1 回押すと同じ操作が繰り返されます。 |

ホーム画面

ホーム画面には、ユーザーが設定可能なシステム関連情報が表示されます。この画面は、ステータスメッセージやエラーメッセージがない通常のシステム動作中に表示されます。システムがスタンバイモードの場合、エラーメッセージがなければ、コンピュータを操作しない時間が 5 分間続くと LCD バックライトが消灯します。3 つのナビゲーションボタン（選択、左、右）のいずれかを押すとホーム画面が表示されます。

別のメニューからホーム画面に移動するには、ホームアイコン  が表示されるまで上矢印  を選択し続け、次にホームアイコンを選択します。ホーム画面から、**選択** ボタンを押してメインメニューに入ります。サブメニュー **Setup**（セットアップ）および **View**（表示）については、以下の表を参照してください。

Setup (セットアップ) メニュー



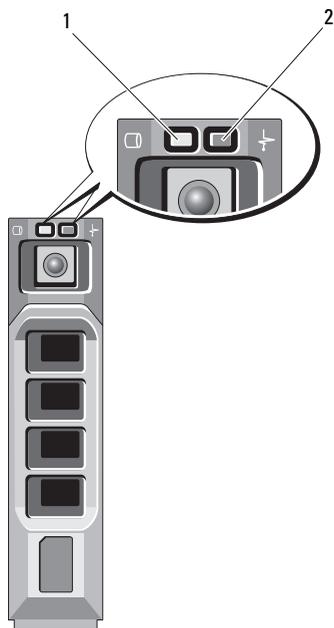
メモ: Setup (セットアップ) メニューでオプションを選択すると、次の動作に進む前にオプションの確認が求められます。

| オプション | 説明 |
|---|--|
| BMC または DRAC メモ: システムに iDRAC6 Express カードが取り付けられている場合、BMC オプションは DRAC に取って代わられます。 | ネットワークモードを設定するには、 DHCP または Static IP (静的 IP)を選択します。 Static IP (静的 IP)を選択すると、使用可能なフィールドは IP 、サブネット (Sub)、およびゲートウェイ (Gateway)です。 DNS を有効にしてドメインアドレスを表示するには、 Setup DNS (セットアップ DNS)を選択します。2 つの別々の DNS エントリが使用できます。 |
| Set error | LCD エラーメッセージを SEL 内の IPMI の説明に一致する形式で表示するには、 SEL を選択します。LCD メッセージを SEL エントリと一致させるには、これが有用です。 LCD エラーメッセージを簡潔で分かりやすい説明で表示するには、 Simple (簡易)を選択します。この形式のメッセージのリストについては、27 ページの「LCD ステータスメッセージ」を参照してください。 |
| Set home | LCD ホーム画面に表示するデフォルト情報を選択します。ホーム画面にデフォルトで表示されるように選択できるオプションとオプション項目については、18 ページの「View(表示)メニュー」を参照してください。 |

View (表示) メニュー

| オプション | 説明 |
|---|--|
| BMC IP または DRAC IP メモ ：システムに iDRAC6 Express カードが取り付けられている場合、BMC IP オプションは DRAC IP に取って代わられます。 | iDRAC6 の IPv4 または IPv6 アドレスが表示されます。アドレスには、 DNS (プライマリ および セカンダリ)、 ゲートウェイ 、 IP 、および サブネット があります(IPv6 にはサブネットはありません)。 メモ ：BMC IP は IPv4 アドレスのみをサポートします。 |
| MAC | DRAC 、 iSCSI <i>n</i> 、または NET <i>n</i> の MAC アドレスが表示されます。 メモ ：システムに iDRAC Express カードが取り付けられていない場合、MAC オプションは BMC 、 iSCSI <i>n</i> または NET <i>n</i> の MAC アドレスを表示します。 |
| Name | システムの ホスト 、 モデル 、または ユーザーストリング の名前が表示されます。 |
| Number | システムの Asset tag または サービスタグ が表示されます。 |
| Power | システムの電力出力が BTU/時 または ワット で表示されます。表示形式は、 Setup (セットアップ)メニューの Set home (ホームの設定)サブメニューで設定します。17 ページの「 Setup (セットアップ)メニュー」を参照してください。 |
| Temperature | システムの温度が摂氏または華氏で表示されます。表示形式は、 Setup (セットアップ)メニューの Set home (ホームの設定)サブメニューで設定します。17 ページの「 Setup (セットアップ)メニュー」を参照してください。 |

ハードドライブインジケータのパターン



1 ハードドライブ動作インジケータ
(緑色)

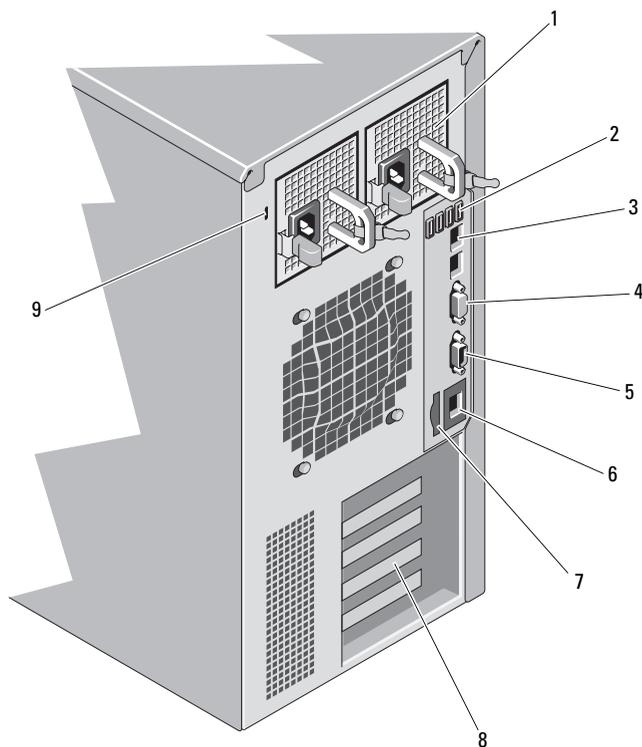
2 ハードドライブステータスインジ
ケータ (緑色と黄色)

| ドライブステータスインジケータのパターン (RAID のみ) | 状態 |
|--------------------------------|---|
| 1 秒間に 2 回緑色に点滅 | ドライブの識別 / 取り外し準備中 |
| 消灯 | ドライブの挿入または取り外し可 メモ: システム電源の投入後、すべてのハードドライブの初期化が完了するまで、ドライブステータスインジケータは消灯しています。この間、ドライブの挿入も取り外しもできません。 |
| 緑色、黄色に点滅し、消灯 | ドライブ障害の予測 |

| ドライブステータスインジケータのパターン (RAID のみ) | 状態 |
|--------------------------------|-------------|
| 1 秒間に 4 回黄色に点滅 | ドライブに障害発生 |
| 緑色にゆっくり点滅 | ドライブのリビルド中 |
| 緑色の点灯 | ドライブオンライン状態 |
| 緑色に 3 秒間点滅、黄色に 3 秒間点滅、6 秒間消灯 | リビルドが中断 |

背面パネルの機能およびインジケータ

図 1-3 背面パネルの機能およびインジケータ

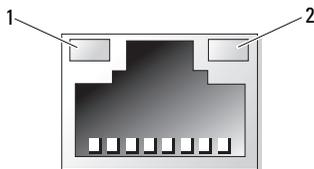


| 項目 | インジケータ、ボタン、アイコン またはコネクタ | 説明 |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | 電源ユニット(2) | <p>システムの構成に応じて、冗長電源ユニットか非冗長電源ユニットが備わっています。</p> <p>メモ：図 1-3 は冗長電源ユニットを備えたシステムを示しています。</p> <p>非冗長電源ユニット — 375 W 冗長電源ユニット — 400 W</p> |
| 2 | USB コネクタ(4) |  <p>USB デバイスをシステムに接続するときに使用します。ポートは USB 2.0 対応です。</p> |
| 3 | イーサネットコネクタ(2) |  <p>内蔵 10/100/1000 NIC コネクタ。</p> |
| 4 | ビデオコネクタ |  <p>VGA ディスプレイをシステムに接続します。</p> |
| 5 | シリアルコネクタ |  <p>シリアルデバイスをシステムに接続します。</p> |
| 6 | iDRAC6 Enterprise ポート(オプション) |  <p>オプションの iDRAC6 Enterprise カード専用の管理ポート。</p> |
| 7 | VFlash メディアスロット(オプション) |  <p>オプションの iDRAC6 Enterprise カード用の外付け SD メモリカードを取り付けます。</p> |
| 8 | PCIe 拡張カードスロット(5) | <p>PCI Express カードを 5 枚まで取り付け可能。Generation 2 の拡張カード。</p> |
| 9 | セキュリティケーブル スロット | <p>ケーブルロックをシステムに接続します。</p> |

外付けデバイス接続のガイドライン

- 新しい外付けデバイスを取り付ける前に、システムと外付けデバイスの電源を切ります。デバイスのマニュアルに特別な指示がない限り、システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます。
- 取り付けたデバイスの適切なドライバがシステムにインストールされていることを確認します。
- システムのポートを有効にする必要がある場合は、セットアップユーティリティを使用します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。

NIC インジケータコード



1 リンクインジケータ 2 アクティビティインジケータ

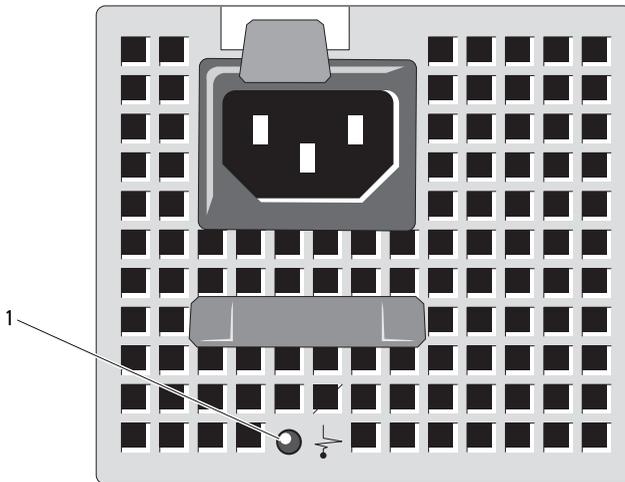
| インジケータ | インジケータコード |
|------------------------|---|
| リンクおよびアクティビティインジケータが消灯 | NIC がネットワークに接続されていません。 |
| リンクインジケータが緑色 | NIC が 1000 Mbps で有効なネットワークリンクに接続されています。 |
| リンクインジケータが黄色 | NIC が 10/100 Mbps で有効なネットワークリンクに接続されています。 |
| アクティビティインジケータが緑色に点滅 | ネットワークデータの送信中または受信中です。 |

電源インジケータコード

電源ユニットには、電力が供給されているか、または電源の障害が発生しているかを示すインジケータがあります。

- 消灯 — AC 電源が接続されていません。また、システムがスタンバイモードになっています。
- 緑色 — システムの電源が入っているとき、緑色のライトは、電源ユニットがシステムに DC 電力を供給していることも示します。
- 黄色 — 電源ユニットに問題があることを示します。
- 緑色と黄色が交互に点灯 — 電源ユニットのホットアッド時にこのシグナルが出た場合、電源ユニットがもう一台の電源ユニットと適合していないことを示します。インジケータが点滅している電源ユニットを、取り付けられているもう一台の電源ユニットとワット数が一致するものに交換してください。

図 1-4 冗長電源ユニットのステータスインジケータ

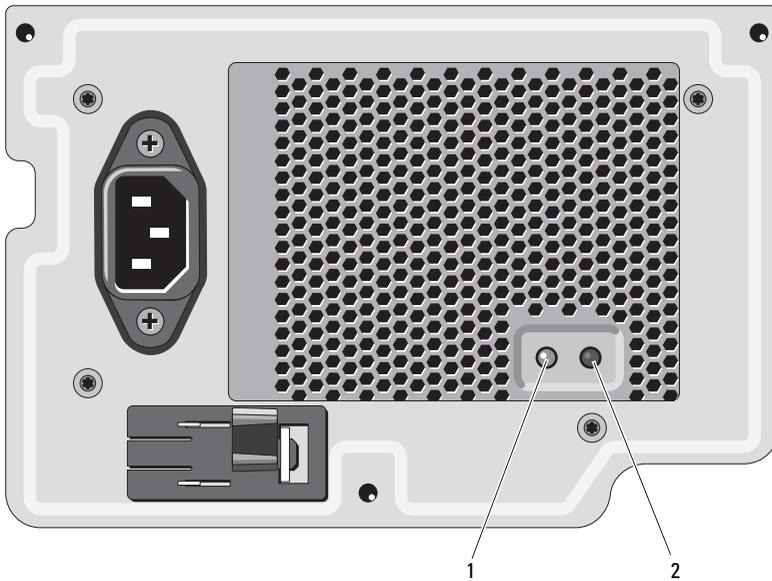


1 電源ユニットのステータスインジケータ

非冗長電源ユニットには、電力が供給されているか、または電源の障害が発生しているかを示す LED インジケータがあります。

- 消灯 — AC 電源が接続されていません。また、システムがスタンバイモードになっています。
- 緑色 — システムの電源が入っているとき、緑色のライトは、電源ユニットがシステムに DC 電力を供給していることも示します。

図 1-5 非冗長電源ユニットのステータスインジケータ



- 1 電源ユニットのステータスインジケータ 2 電源ユニットテストスイッチ

診断ライト（オプション）

システムの起動中に、システム前面パネルの4つの診断インジケータがエラーコードを表示します。表 1-1 に、エラーコードに関連する原因と可能な対応策を一覧表示します。ハイライトされている場合は点灯、ハイライトされていない場合は消灯を表します。

 **メモ**：LCD ディスプレイのあるシステムには、Diag LED はありません。

表 1-1 診断インジケータコード

| コード | 原因 | 対応処置 |
|------|---|--|
| ①②③④ | システムが通常のオフの状態、または BIOS に障害が発生している可能性があります。 システムが OS から正常に起動した後は、この診断ライトは点灯しません。 POST 後、システムが正常に動作しています。 | 正常なコンセントにシステムを接続し、電源ボタンを押します。 情報表示のみです。 |
| ①②③④ | BIOS チェックサム障害が検出されました。システムは復元モードです。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| ①②③④ | プロセッサに障害が発生している可能性があります。 | 182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ①②③④ | メモリ障害。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ①②③④ | 拡張カードに障害が発生している可能性があります。 | 181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ①②③④ | ビデオに障害が発生している可能性があります。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-1 診断インジケータコード（続き）

| コード | 原因 | 対応処置 |
|---------|--|--|
| ① ② ③ ④ | ハードドライブに障害が発生しています。 | ディスクドライブおよびハードドライブが正しく取り付けられていることを確認します。お使いのシステムに取り付けられているドライブについては、95 ページの「ハードドライブ」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | USB に障害が発生している可能性があります。 | 164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | メモリモジュールが検出されません。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | システム基板の障害。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | メモリの構成エラー。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | システム基板リソースおよびシステム基板ハードウェアのどちらかまたは両方に障害がある可能性があります。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | システムリソース設定エラーの可能性あります。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| ① ② ③ ④ | その他の障害。 | ディスクドライブ、オプティカルドライブ、およびハードドライブが正しく取り付けられていることを確認します。システムに取り付けたドライブの種類に応じて、163 ページの「システムのトラブルシューティング」を参照してください。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

LCD ステータスメッセージ

LCD メッセージは、システムイベントログ (SEL) に記録されたイベントに言及する短いテキストメッセージで構成されています。SEL およびシステム管理設定の詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

 **メモ**：システムが起動しない場合は、LCD にエラーコードが表示されるまで、システム ID ボタンを少なくとも 5 秒間押します。コードを書きとめ、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

ステータスメッセージの表示

システムエラーが発生すると、LCD 画面が黄色に変わります。エラーまたはステータスメッセージのリストを表示するには、**Select** (選択) ボタンを押します。左 / 右ボタンを使用してエラー番号をハイライト表示し、**Select** (選択) を押してエラーを表示します。

LCD ステータスメッセージの消去

温度、電圧、ファンなどセンサーに関する障害については、センサーが通常の状態に戻ると、LCD メッセージは自動的に表示されなくなります。その他の障害の場合、ディスプレイからメッセージを消去する処置を行う必要があります。

- SEL のクリア — このタスクはリモートで実行できますが、システムのイベント履歴は削除されます。
- 電力サイクル — システムの電源を切り、コンセントから外します。約 10 秒待ってから電源ケーブルを接続し、システムを再起動します。

 **メモ**：以下の LCD ステータスメッセージは、簡易形式で表示されます。

表 1-2 LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|---|--|---|
| E1000 | Failsafe voltage error. Contact support. | 重大なエラーイベントがないか、システムイベントログを確認します。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1114 | Ambient Temp exceeds allowed range. | 周囲温度が許容範囲を外れた。 | 171 ページの「システム冷却問題のトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1116 | Memory disabled, temp above range. Power cycle AC. | メモリの温度が許容範囲を超えたため、コンポーネントの損傷を防ぐために無効にされた。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 171 ページの「システム冷却問題のトラブルシューティング」を参照してください。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1210 | Motherboard battery failure. Check battery. | CMOS バッテリーがないか、または電圧が許容範囲外。 | 170 ページの「システムバッテリーのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1211 | RAID Controller battery failure. Check battery. | RAID バッテリーがないか、不良であるか、または温度が正常でないために再充電できない。 | RAID バッテリーコネクタを抜き差しします。 144 ページの「RAID バッテリー(オプション)」および 171 ページの「システム冷却問題のトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|---|--|---|
| E1216 | 3.3V Regulator failure. Reset PCIe cards. | 電圧レギュレータ(3.3V) に障害が発生した。 | PCIe 拡張カードを取り外して装着しなおします。 問題が解決しない場合は、 181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1229 | CPU # VCORE Regulator failure. Reset CPU. | 表示されているプロセッサ VCORE の電圧レギュレータに障害が発生した。 | プロセッサを抜き差しします。 182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」を参照してください。 問題が解決しない場合は、 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E122A | CPU # VTT Regulator failure. Reset CPU. | 表示されているプロセッサ VTT の電圧レギュレータに障害が発生した。 | プロセッサを抜き差しします。 182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」を参照してください。 問題が解決しない場合は、 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E122C | CPU Power Fault. Power cycle AC. | プロセッサへの電力供給中に電源の障害が検出された。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E122D | Memory Regulator # Failed. Reset DIMMs. | メモリレギュレータの 1 つに障害が発生した。 | メモリモジュールを抜き差しします。 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E122E | On-board regulator failed. Call support. | オンボード電圧レギュレータの 1 つに障害が発生した。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|---|---|
| E1310 | Fan ## RPM exceeding range. Check fan. | ファンの RPM が想定動作範囲を超えている。 | 171 ページの「システム冷却問題のトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1410 | System Fatal Error detected. | 致命的なシステムエラーが検出された。 | LCD をスクロールしてその他のメッセージを確認します。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1414 | CPU # temp exceeding range. Check CPU heatsink. | プロセッサの温度が許容範囲を超えている。 | プロセッサヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。 182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」および 171 ページの「システム冷却問題のトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1418 | CPU # not detected. Check CPU is seated properly. | プロセッサがないか不良であるため、システムはサポートされていない構成になっている。 | プロセッサが正しく取り付けられていることを確認します。182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E141C | Unsupported CPU configuration. Check CPU or BIOS revision. | プロセッサがサポートされていない構成になっている。 | お使いのシステムの『はじめに』のプロセッサ仕様で説明されているタイプに一致するプロセッサが使用されていることを確認します。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|---|---|
| E141F | CPU # protocol error. Power cycle AC. | システム BIOS によってプロセッサプロトコルエラーが報告された。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1420 | CPU Bus parity error. Power cycle AC. | システム BIOS によってプロセッサバスパリティエラーが報告された。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1422 | CPU # machine check error. Power cycle AC. | システム BIOS によってマシンチェックエラーが報告された。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1610 | Power Supply # (### W) missing. Check power supply. | 表示されている電源ユニットがシステムから取り外されているか、またはシステム内にない。 | 171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1614 | Power Supply # (### W) error. Check power supply. | 表示されている電源ユニットに障害が発生した。 | 171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1618 | Predictive failure on Power Supply # (### W). Check PSU. | 電源ユニットファンの障害、オーバーヒート状態、または電源ユニットの通信エラーが原因で、電源ユニットの障害発生が近いという予測的警告が出された。 | 171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|---|--|--|
| E161C | Power Supply # (### W) lost AC power. Check PSU cables. | 表示されている電源ユニットはシステムに取り付けられているが、AC 入力電源が失われている。 | 表示されている電源ユニットの AC 電源を確認してください。問題が解決しない場合は、171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1620 | Power Supply # (### W) AC power error. Check PSU cables. | 表示されている電源ユニットの AC 入力電源が許容範囲外。 | 表示されている電源ユニットの AC 電源を確認してください。問題が解決しない場合は、171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1624 | Lost power supply redundancy. Check PSU cables. | 電源ユニットのサブシステムの冗長性が失われた。もう一方の電源ユニットに障害が発生すると、システムが停止する。 | 171 ページの「電源ユニットのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1626 | Power Supply Mismatch. PSU1 = ### W, PSU2 = ### W. | システム内の電源ユニットのワット数が一致していない。 | ワット数の等しい電源ユニットが取り付けられていることを確認します。お使いのシステムの『はじめに』に記載されている仕様を参照してください。 |
| E1629 | Power required > PSU wattage. Check PSU and config. | 搭載されている電源ユニットでは、スロットリングを行っても、システム構成で必要とされる電力を供給できない。 | システムの電源を切り、ハードウェア構成を縮小するか、またはワット数の高い電源ユニットを取り付けて、システムを再び起動します。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|---|---|--|
| E1710 | I/O channel check error. Review & clear SEL. | システム BIOS によって I/O チャンネルチェックが報告された。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1711 | PCI parity error on Bus ## Device ## Function ## PCI parity error on Slot #. Review & clear SEL. | システム BIOS によって、バス ##、デバイス ##、機能 ## の PCI 設定スペースにあるコンポーネントについて、PCI パリティエラーが報告された。 システム BIOS によって、表示されているスロットにあるコンポーネントについて、PCI パリティエラーが報告された。 | PCIe 拡張カードを取り外して装着しなおします。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 PCIe 拡張カードを取り外して装着しなおします。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1712 | PCI system error on Bus ## Device ## Function ## | システム BIOS によって、PCI 設定スペースにあるコンポーネントについて、バス ##、デバイス ##、機能 ## で PCI システムエラーが報告された。 | PCIe 拡張カードを取り外して装着しなおします。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1714 | Unknown error. Review & clear SEL. | システム BIOS によってシステムにエラーが検出されたが、原因を特定することはできなかった。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|--|---|
| E1715 | Fatal I/O Error. Review & clear SEL. | システム BIOS がシステム内に致命的なエラーがあると判断した。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1716 | Chipset IERR Bus ## Dev ## Function ##. Review & clear SEL. | システム BIOS によって、バス ##、デバイス ##、機能 ## にあるチップセットについて内部エラーが報告された。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1717 | CPU # internal error. Review & clear SEL. | システム BIOS が、プロセッサに内部エラーがあると判断した。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E171F | PCIe fatal error on Bus ## Device ## Function ## | システム BIOS によって、PCI 設定スペースにあるコンポーネントについて、バス ##、デバイス ##、機能 ## で、PCIe の致命的なエラーが報告された。 | PCIe 拡張カードを取り外して装着しなおします。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1810 | Hard drive ## fault. Review & clear SEL. | 表示されているハードドライブに障害が発生した。 | 178 ページの「ハードドライブのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E1812 | Hard drive ## removed. Check drive. | 表示されているハードドライブがシステムから取り外された。 | 情報表示のみです。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|---|---|---|
| E1A14 | SAS cable A failure. Check connection. | SAS ケーブル A がないか、または不良。 | ケーブルを抜き差しします。問題が解決しない場合は、ケーブルを交換します。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E1A1D | Control panel USB cable not detected. Check cable. | コントロールパネルに USB ケーブルが取り付けられていないか、またはケーブルが不良。 | ケーブルを抜き差しします。問題が解決しない場合は、ケーブルを交換します。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2010 | Memory not detected. Inspect DIMMs. | システム内にメモリが検出されなかった。 | メモリを取り付けるか、またはメモリモジュールを抜き差しします。119 ページの「メモリモジュールの取り付け」または 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2011 | Memory configuration failure. Check DIMMs. | メモリが検出されたが、構成不能。メモリ構成中にエラーが検出された。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2012 | Memory configured but unusable. Check DIMMs. | メモリが構成されたが、使用不能。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2013 | BIOS unable to shadow memory. Check DIMMs. | システム BIOS がそのフラッシュイメージをメモリにコピーできなかった。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|-------------------------------|---|
| E2014 | CMOS RAM failure. Power cycle AC. | CMOS 障害。CMOS RAM が正常に機能していない。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2015 | DMA Controller failure. Power cycle AC. | DMA コントローラの障害。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2016 | Interrupt Controller failure. Power cycle AC. | 割り込みコントローラの障害。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2017 | Timer refresh failure. Power cycle AC. | タイマーリフレッシュのエラー。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2018 | Programmable Timer error. Power cycle AC. | プログラム可能インターバルタイマーのエラー。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2019 | Parity error. Power cycle AC. | パリティエラー。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|------------------------|---|
| E201A | SuperIO failure. Power cycle AC. | SIO 障害。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E201B | Keyboard Controller error. Power cycle AC. | キーボードコントローラの障害。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E201C | SMI initialization failure. Power cycle AC. | SMI(システム管理割り込み)の初期化障害。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E201D | Shutdown test failure. Power cycle AC. | BIOS シャットダウンテストエラー。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E201E | POST memory test failure. Check DIMMs. | BIOS POST メモリテストエラー。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| E2020 | CPU configuration failure. Check screen message. | プロセッサ構成エラー。 | 画面で具体的なエラーメッセージを確認します。 182 ページの「プロセッサのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|--|--|
| E2021 | Incorrect memory configuration. Review User Guide. | メモリ構成が正しくない。 | 画面で具体的なエラーメッセージを確認します。 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2022 | General failure during POST. Check screen message. | ビデオ初期化後の一般的なエラー。 | 画面で具体的なエラーメッセージを確認します。 |
| E2023 | BIOS unable to mirror memory. Check DIMMs. | メモリモジュールの障害または無効なメモリ構成が原因で、システム BIOS がメモリミラーリングを有効にできなかった。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2110 | Multibit Error on DIMM ##. Reseat DIMM. | スロット“##”のメモリモジュールにマルチビットのエラー(MBE)が発生した。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2111 | SBE log disabled on DIMM ##. Reseat DIMM. | システム BIOS がメモリ SBE(シングルビットエラー)の記録を無効にした。システムを再起動するまで、以降の SBE は記録されない。“##”は BIOS によって示されるメモリモジュールを表す。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| E2113 | Mem mirror OFF on DIMM ## & ##. Power cycle AC. | システム BIOS がミラーの片方にエラーが多すぎると判断したため、メモリのミラーリングを無効にした。“## & ##”は BIOS によって示されるメモリモジュールのペアを表す。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 問題が解決しない場合は、173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-2 (続き) LCD ステータスメッセージ

| コード | メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|-------|--|---|--|
| I1910 | Intrusion detected. Check chassis cover. | システムカバーが取り外されている。 | 情報表示のみです。 |
| I1911 | LCD Log Full. Check SEL to review all Errors. | LCD オーバーフローメッセージ。LCD には、最大 10 のエラーメッセージを連続して表示できる。11 番目は、イベントの詳細を SEL で確認するようユーザーに求めるメッセージ。 | イベントの詳細については、SEL を確認してください。 システムの AC 電源を 10 秒間切断するか、または SEL をクリアします。 |
| I1912 | SEL full. Review & clear log. | SEL がイベントでいっぱいになり、これ以上記録できない。 | 詳細をチェックしてから SEL をクリアします。 |
| W1228 | RAID Controller battery capacity < 24hr. | RAID バッテリーの残容量が 24 時間を下回ったという予報的警告。 | 残容量が 24 時間を超えるまで RAID バッテリーを充電します。 問題が解決しない場合は、RAID バッテリーを交換します。146 ページの「RAID バッテリーの取り付け」を参照してください。 |
| W1627 | Power required > PSU wattage. Check PSU and config. | 搭載されている電源ユニットでは、システム構成で必要とされる電力を供給できない。 | システムの電源を切り、ハードウェア構成を縮小するか、またはワット数の高い電源ユニットを取り付けて、システムを再び起動します。 |
| W1628 | Performance degraded. Check PSU and system configuration. | 搭載されている電源ユニットでは、システム構成で必要とされる電力を供給できない。ただし、スロットリングを行えば起動は可能。 | システムの電源を切り、ハードウェア構成を縮小するか、またはワット数の高い電源ユニットを取り付けて、システムを再び起動します。 |



メモ: この表で使用された略語の正式名称は、用語集を参照してください。

システムメッセージ

システムに問題がある可能性が検出されると、システムメッセージが画面に表示されます。

 **メモ**：表示されたシステムメッセージが表に記載されていない場合は、メッセージが表示されたときに実行していたアプリケーションのマニュアルや、OSのマニュアルを参照して、メッセージの説明と推奨されている処置を確認してください。

表 1-3 システムメッセージ

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|-------------------------------------|
| Alert! iDRAC6 not responding. Rebooting. | 正常に機能していないか、または初期化が完了していないために、iDRAC6 が BIOS 通信に 응답していない。システムが再起動する。 | システムが再起動するまで待ちます。 |
| Alert! iDRAC6 not responding. Power required may exceed PSU wattage. Alert! Continuing system boot accepts the risk that system may power down without warning. | iDRAC6 がハングしている。システムの起動中に iDRAC6 がリモートからリセットされた。 AC リカバリ後は、iDRAC6 の起動に通常よりも時間がかかる。 | システムの AC 電源を 10 秒間切断し、システムを再び起動します。 |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|--|---|
| Alert! Power required exceeds PSU wattage. Check PSU and system configuration. | プロセッサ、メモリモジュール、および拡張カードのシステム構成が電源ユニットによってサポートされていない可能性がある。 | いずれかのシステムコンポーネントをアップグレードした直後にこのメッセージが表示された場合は、システムを前の構成に戻します。このメッセージが表示されずにシステムが起動する場合は、交換したコンポーネントがこの電源ユニットでサポートされていません。 146 ページの「シャールシントレーションスイッチ」を参照してください。 |
| Alert! Continuing system boot accepts the risk that system may power down without warning. | | |
| Alert! System fatal error during previous boot. | エラーのためにシステムが再起動した。 | 考えられる原因に関するその他の情報については、ほかのシステムメッセージを確認してください。 |
| BIOS MANUFACTURING MODE detected. MANUFACTURING MODE will be cleared before the next boot. System reboot required for normal operation. | システムが製造モードになっている。 | システムを再起動して製造モードを解除します。 |
| BIOS Update Attempt Failed! | リモートでの BIOS のアップデートに失敗した。 | BIOS のアップデートをもう一度試みます。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|--|--|
| Caution! NVRAM_CLR jumper is installed on system board | NVRAM_CLR ジャンパがリアの設定で取り付けられている。CMOS がクリアされた。 | NVRAM_CLR ジャンパをデフォルトの位置(ピン 3 と 5)に移動します。ジャンパの位置については、図 6-1 を参照してください。システムを再び起動し、BIOS 設定を再入力します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| CPU set to minimum frequency. | 節電のためにプロセッサの処理速度が意図的に低く設定されている可能性がある。 | 意図的な設定でなければ、考えられる原因がないか、その他のシステムメッセージをチェックします。 |
| CPU x installed with no memory. | メモリモジュールが必要であるにもかかわらず、表示されているプロセッサのメモリスロットに取り付けられていない。 | 表示されているプロセッサのメモリモジュールを取り付けます。123 ページの「拡張カード」を参照してください。 |
| Current boot mode is set to UEFI. Please ensure compatible bootable media is available. Use the system setup program to change the boot mode as needed. | UEFI 起動モードが BIOS で有効に設定されており、起動 OS が非 UEFI であるため、システムが起動しなかった。 | 起動モードが正しく設定されており、正しい起動可能なメディアが使用可能であることを確認します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| Decreasing available memory | メモリモジュールに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | メモリモジュールを抜き差しします。173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|--|--|---|
| Embedded NICx and NICy: OS NIC=<ENABLED /DISABLED>, Management Shared NIC= <ENABLED /DISABLED> | OS の NIC インタフェースが BIOS で設定されている。 Management Shared NIC インタフェースが管理ツールで設定されている。 | システム管理ソフトウェアまたはセットアップユーティリティで NIC の設定をチェックします。問題が示された場合は、166 ページの「NIC のトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Error 8602 - Auxiliary Device Failure. Verify that mouse and keyboard are securely attached to correct connectors. | マウスまたはキーボードのケーブルが緩んでいるか、または正しく接続されていない。 マウスまたはキーボードの不良。 | マウスまたはキーボードのケーブルを抜き差しします。 マウスまたはキーボードが正常に機能することを確認します。164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Gate A20 failure | キーボードコントローラまたはシステム基板に障害がある。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| General failure | OS がコマンドを実行できない。 | このメッセージの後には通常、問題を特定する情報が表示されます。情報を参照し、適切な処置をとって問題を解決します。 |
| Invalid configuration information - please run SETUP program. | システム構成が無効なため、システムが停止した。 | セットアップユーティリティを実行し、現在の設定を確認します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| Keyboard controller failure | キーボードコントローラまたはシステム基板に障害があります。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|--|
| Keyboard data line failure Keyboard stuck key failure | キーボードケーブルコネクタの接続が正しくないか、またはキーボードが不良。 | キーボードケーブルを抜き差しします。問題が解決しない場合は、164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Keyboard fuse has failed | キーボードコネクタに過電流が検出された。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| Local keyboard may not work because all user accessible USB ports are disabled. If operating locally, power cycle the system and enter system setup program to change settings. | システム BIOS で USB ポートが無効に設定されている。 | 電源ボタンを使用してシステムの電源を切り、再び起動します。次にセットアップユーティリティを起動して USB ポートを有効にします。58 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。 |
| Manufacturing mode detected | システムが製造モードになっている。 | システムを再起動して製造モードを解除します。 |
| Maximum rank count exceeded. The following DIMM has been disabled: x | メモリの構成が無効。システムは使用できるが、表示されているメモリモジュールが無効。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |
| Memory address line failure at address, read value expecting value | メモリモジュールに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|--|
| Memory double word logic failure at address, read value expecting value | メモリモジュールに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Memory Initialization Warning: Memory size may be reduced | メモリの構成が無効。システムは使用できるが、物理的に使用可能なメモリの一部が使用されない。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |
| Memory odd/even logic failure at address, read value expecting value | メモリモジュールに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Memory write/read failure at address, read value expecting value | メモリモジュールに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Memory set to minimum frequency. | <p>節電のためにメモリの周波数が意図的に低く設定されている可能性がある。</p> <p>現在のメモリ構成は最低周波数のみをサポートしている可能性がある。</p> | <p>意図的な設定でなければ、考えられる原因がないか、その他のシステムメッセージをチェックします。</p> <p>高い周波数をサポートするメモリ構成になっていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。</p> |
| Memory tests terminated by keystroke. | スペースキーを押したために、POST メモリテストが終了した。 | 情報表示のみです。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|------------------------------------|---|--|
| MEMTEST lane failure detected on x | メモリの構成が無効。取り付けられているメモリモジュールが一致していない。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |
| No boot device available | オプティカルドライブサブシステム、ハードドライブ、またはハードドライブサブシステムに障害があるか、または取り付けられていない。または、起動可能な USB キーが取り付けられていない。 | 起動可能な USB キー、CD、またはハードドライブを使用します。問題が解決しない場合は、175 ページの「内蔵 USB キーのトラブルシューティング」、164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」、176 ページの「オプティカルドライブのトラブルシューティング」、および 178 ページの「ハードドライブのトラブルシューティング」を参照してください。起動デバイスの順序を設定するための情報については、57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。 |
| No boot sector on hard drive | セットアップユーティリティの設定が正しくない。ハードドライブに OS がインストールされていない。 | セットアップユーティリティでハードドライブの設定を確認します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。必要に応じて、ハードドライブに OS をインストールします。お使いの OS のマニュアルを参照してください。 |
| No timer tick interrupt | システム基板に障害がある。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|--|--|--|
| PCI BIOS failed to install | シャドウイング中に PCIe デバイス BIOS(オプション ROM)チェックサムエラーが検出された。 拡張カードのケーブルに緩みがある。拡張カードに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 拡張カードを抜き差しします。適切なケーブルがすべてしっかりと拡張カードに接続されていることを確認します。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| PCIe Training Error: Expected Link Width is x, Actual Link Width is y. | 表示されているスロットの PCIe カードに障害があるか、または正しく取り付けられていない。 | 該当するスロット番号の PCIe カードを抜き差しします。181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| Plug & Play Configuration Error | PCI デバイスの初期化中にエラーが発生した。システム基板上に障害がある。 | NVRAM_CLR ジャンパをクリアの位置(ピン 1 とピン 3)に取り付け、システムを再び起動します。ジャンパの位置については、図 6-1 を参照してください。問題が解決しない場合は、181 ページの「拡張カードのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Quad rank DIMM detected after single rank or dual rank DIMM in socket. | メモリの構成が無効。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|--|
| Read fault Requested sector not found | OS がハードドライブ、オプティカルドライブ、または USB デバイスからデータを読み取れない。ディスク上の特定のセクターが見つからなかったか、要求されたセクターが不良。 | オプティカルメディア、USB メディア、またはデバイスを交換します。SAS バックプレーン、USB、または SATA ケーブルが正しく接続されていることを確認します。システムに取り付けたドライブの種類に応じて、164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」、176 ページの「オプティカルドライブのトラブルシューティング」、または 178 ページの「ハードドライブのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| SATA Portx device not found | 表示されている SATA ポートにデバイスが接続されていない。 | 情報表示のみです。 |
| SATA port x device auto-sensing error | 表示されている SATA ポートに接続されているドライブに障害がある。 | 障害のあるドライブを交換します。 |
| SATA port x device configuration error | | |
| SATA port x device error | | |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|--|
| Sector not found Seek error Seek operation failed | ハードドライブ、USB デバイス、または USB メディアに障害がある。 | USB メディアまたはデバイスを交換します。USB または SAS バックプレーンケーブルが正しく接続されていることを確認します。システムに取り付けたドライブの種類に応じて、164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」または 178 ページの「ハードドライブのトラブルシューティング」を参照してください。 |
| Shutdown failure | 一般的なシステムエラー。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| The amount of system memory has changed | メモリが追加されたか、取り外されたか、またはメモリモジュールが不良の可能性はある。 | メモリの追加か取り外しが行われた場合、このメッセージは情報のみであり、無視してかまいません。メモリの追加や取り外しが行われていない場合は、シングルビットまたはマルチビットのエラーが検出されていないかどうか SEL を確認して、不良のメモリモジュールを交換します。173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|--|---|---|
| <p>The following DIMMs should match in geometry: x, x, ...</p> <p>The following DIMMs should match in rank count: x, x, ...</p> <p>The following DIMMs should match in size: x, x, ...</p> <p>The following DIMMs should match in size and geometry: x, x, ...</p> <p>The following DIMMs should match in size and rank count: x, x, ...</p> | <p>メモリの構成が無効。表示されているメモリモジュールは、サイズ、ランク番号、データレーンの数が一致していない。</p> | <p>メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。</p> |
| <p>Thermal sensor not detected on x</p> | <p>表示されているメモリスロットに熱センサーのないメモリモジュールが取り付けられている。</p> | <p>メモリモジュールを交換します。123 ページの「拡張カード」を参照してください。</p> |
| <p>Time-of-day clock stopped</p> | <p>バッテリーまたはチップに障害がある。</p> | <p>170 ページの「システムバッテリーのトラブルシューティング」を参照してください。</p> |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|--|---|---|
| Time-of-day not set - please run SETUP program | 時刻または日付が正しく設定されていない。システムバッテリーに障害がある。 | 時刻と日付の設定を確認します。57 ページの「セットアップユーティリティとUEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。問題が解決しない場合は、システムバッテリーを交換します。146 ページの「シャージイントルージョンスイッチ」を参照してください。 |
| Timer chip counter 2 failed | システム基板に障害がある。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| TPM configuration operation honored. System will now reset. | TPM 設定コマンドが入力された。システムが再起動してコマンドが実行される。 | 情報表示のみです。 |
| TPM configuration operation is pending. Press (I) to Ignore OR (M) to Modify to allow this change and reset the system. WARNING: Modifying could prevent security. | TPM 設定コマンドを入力すると、システムの再起動中にこのメッセージが表示される。続行するには、ユーザーの応答が必要。 | I または M を入力して続行します。 |
| TPM failure | 信頼済みプラットフォームモジュール(TPM)の機能に障害が発生した。 | 199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|--|---|--|
| Unable to launch System Services image. System halted! | System Services イメージがシステムファームウェア内で壊れているか、またはシステム基板の交換によって失われたことが原因で、F10 キーを押した後にシステムが停止した。 iDRAC6 Enterprise カードのフラッシュメモリが壊れている可能性がある。 | システムを再び起動し、Unified Server Configurator リボットリを最新のソフトウェアに更新して、全機能を復元します。詳細については、Unified Server Configurator のユーザーマニュアルを参照してください。 support.dell.com で入手可能な最新バージョンを使用してフラッシュメモリを復元します。フラッシュメモリのフィールド交換の手順は、iDRAC6 の『ユーザーズガイド』を参照してください。 |
| Unexpected interrupt in protected mode | メモリモジュールの取り付け不良、またはキーボード / マウスコントローラのチップの不良。 | メモリモジュールを抜き差ししします。173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |
| Unsupported CPU combination Unsupported CPU stepping detected | プロセッサがシステムによってサポートされていません。 | サポートされているプロセッサを取り付けます。137 ページの「プロセッサ」を参照してください。 |
| Unsupported DIMM detected. The following DIMM has been disabled: x | メモリの構成が無効。システムは使用できるが、表示されているメモリモジュールが無効。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|---|
| Unsupported memory configuration. DIMM mismatch across slots detected: x, x, ... | メモリの構成が無効。表示されているスロットでメモリモジュールが一致していない。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。 |
| Warning: A fatal error has caused system reset! Please check the system event log! | 致命的なシステムエラーが発生した結果、システムが再起動した。 | エラー発生中に記録された情報については、SEL を確認してください。SEL に記録されている障害の発生したコンポーネントについては、163 ページの「システムのトラブルシューティング」で、該当するトラブルシューティングの項を参照してください。 |
| Warning: Control Panel is not installed. | コントロールパネルが取り付けられていないか、ケーブル接続に問題がある。 | コントロールパネルを取り付けるか、またはディスプレイモジュール、コントロールパネルボード、およびシステム基板の間のケーブル接続をチェックします。148 ページの「コントロールパネルアセンブリ」を参照してください。 |
| Warning! No micro code update loaded for processor n | マイクロコードのアップデートに失敗した。 | BIOS ファームウェアをアップデートします。199 ページの「困ったときは」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ (続き)

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|--|--|
| Warning! Power required exceeds PSU wattage. Check PSU and system configuration. | プロセッサ、メモリモジュール、および拡張カードのシステム構成が電源ユニットによってサポートされていない可能性がある。 | いずれかのシステムコンポーネントをアップグレードした直後にこのメッセージが表示された場合は、システムを前の構成に戻します。このメッセージが表示されずにシステムが起動する場合は、交換したコンポーネントがこの電源ユニットでサポートされていません。 146 ページの「シャーシントラクションスイッチ」を参照してください。 |
| Warning! Performance degraded. CPU and memory set to minimum frequencies to meet PSU wattage. System will reboot. | | |
| Warning! Unsupported memory configuration detected. The memory configuration is not optimal. The recommended memory configuration is: <message> | メモリの構成が無効。システムは使用できるが、機能が低下する。 | メモリモジュールが有効な構成で取り付けられていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。問題が解決しない場合は、173 ページの「システムメモリのトラブルシューティング」を参照してください。 |

表 1-3 システムメッセージ（続き）

| メッセージ | 原因 | 対応処置 |
|---|---|---|
| Write fault Write fault on selected drive | USB デバイス、USB メディア、オプティカルドライブアセンブリ、ハードドライブ、またはハードドライブサブシステムに障害がある。 | USB メディアまたはデバイスを交換します。USB、SAS バックプレーン、または SATA ケーブルが正しく接続されていることを確認します。164 ページの「USB デバイスのトラブルシューティング」、175 ページの「内蔵 USB キーのトラブルシューティング」、および 178 ページの「ハードドライブのトラブルシューティング」を参照してください。 |



メモ： この表で使用された略語の正式名称は、201 ページの「用語集」を参照してください。

警告メッセージ

警告メッセージは、問題発生の可能性のあることを知らせ、作業を続行する前に対応策をとるよう求めます。たとえば、ディスクをフォーマットする前に、ディスク上のすべてのデータが失われるおそれがあることを警告するメッセージが表示されることがあります。警告メッセージは、通常、処理を中断して、y（はい）または n（いいえ）を入力して応答することを要求します。



メモ： 警告メッセージは、アプリケーションプログラムまたは OS によって生成されます。詳細については、OS またはアプリケーションプログラムに付属のマニュアルを参照してください。

診断メッセージ

お使いのシステムで診断テストを実行すると、システム診断ユーティリティがメッセージを表示することがあります。システム診断プログラムの詳細については、185 ページの「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

アラートメッセージ

システム管理ソフトウェアは、システムのアラートメッセージを生成します。アラートメッセージには、ドライブ、温度、ファン、および電源の状態についての情報、ステータス、警告、およびエラーメッセージが含まれます。詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

その他の情報

 **警告：** システムに付属のマニュアルで安全および認可機関に関する情報を参照してください。保証情報は、このマニュアルに含まれている場合と、別の文書として付属する場合があります。

- 『はじめに』では、システムの機能、システムのセットアップ、および技術仕様の概要を説明しています。
- システムに付属のメディアには、OS、システム管理ソフトウェア、システムアップデート、およびシステムと同時に購入したシステムコンポーネントに関するものを含め、システムの設定と管理用のマニュアルとツールが収録されています。
- USC (Unified Server Configurator) の『ユーザーズガイド』では、USCのセットアップ、ハードウェアとファームウェアの設定、OSの導入について説明しています。

 **メモ：** アップデートには他の文書の内容を差し替える情報が含まれている場合がよくありますので、support.dell.com/manuals でアップデートがないかどうかを常に確認し、初めにお読みください。

セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方

セットアップユーティリティを実行して、お使いのシステムと次のオプション設定についてよく理解してください。

- ハードウェアの追加または削除後に NVRAM 設定を変更する。
- ユーザー定義可能なオプションを設定または変更する。
- 内蔵デバイスの有効 / 無効を切り替える。

システム起動モードの選択

セットアップユーティリティでは、OS インストール用の起動モードを指定することもできます。

- BIOS 起動モード（デフォルト）は、標準的な BIOS レベルの起動インタフェースです。
- UEFI（Unified Extensible Firmware Interface）起動モードは、システム BIOS にオーバーレイする UEFI 仕様に基づく拡張 64 ビット起動インタフェースです。このインタフェースの詳細については、71 ページの「UEFI ブートマネージャの起動方法」を参照してください。

起動モードの選択は、セットアップユーティリティの画面の **Boot Mode**（起動モード）フィールドで行います。起動モードを指定すると、システムは指定された起動モードで起動し、そのモードから OS のインストールに進むことができます。それ以降は、インストールした OS にアクセスするには同じ起動モード（BIOS または UEFI）でシステムを起動する必要があります。ほかの起動モードから OS の起動を試みると、システムは起動時に直ちに停止します。



メモ：UEFI 起動モードからインストールする OS は UEFI 対応（Microsoft® Windows Server® 2008 x64 バージョンなど）である必要があります。DOS および 32 ビットの OS は UEFI 非対応で、BIOS 起動モードからのみインストールできます。

セットアップユーティリティの起動

- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
- 2 次のメッセージが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

<F2> = System Setup

<F2> を押す前に OS のロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

エラーメッセージへの対応

システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモしてください。メッセージの説明とエラーの修正方法については、40 ページの「システムメッセージ」を参照してください。

 **メモ**：メモリのアップグレード後、最初にシステムを起動する際に、メッセージが表示されるのは正常です。

セットアップユーティリティナビゲーションキーの使い方

| キー | 動作 |
|--------------------------------|--|
| 上矢印または <Shift><Tab> | 前のフィールドに移動します。 |
| 下矢印または <Tab> | 次のフィールドへ移動します。 |
| スペースキー、<Enter>、<+>、<->、および左右矢印 | フィールド内の設定値を順に切り替えます。多くのフィールドでは、適切な値を入力することもできます。 |
| <Esc> | セットアップユーティリティを終了し、設定を変更した場合は、システムを再起動します。 |
| <F1> | セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。 |

 **メモ**：ほとんどのオプションでは、変更内容は自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

セットアップユーティリティのオプション

メイン画面

| | | | |
|--|-------------------------|-------------|-----------|
| Dell Inc. <www.dell.com> - PowerEdge T310 BIOS Version xx.yy.zz [This is DOS Setup] | | | |
| Service Tag: xxxxxxxx | Asset Tag: xxxxxxxxxxxx | | |
| System Time00:00:00 System DateDAY/MO/DATE/YR | | | |
| Memory Settings<Enter> Processor Settings<Enter> | | | |
| SATA Settings<Enter> | | | |
| Boot Settings<Enter> | | | |
| Integrated Devices<Enter> PCI IRQ Assignment<Enter> | | | |
| Serial Communication<Enter> Embedded Server Management<Enter> | | | |
| Power Management<Enter> | | | |
| Up,Down Arrow to select | SPACE, +, - to change | ESC to exit | F1 = Help |

 **メモ：**セットアップユーティリティのオプションはシステム設定によって変わります。

| オプション | 説明 |
|--------------------|---|
| System Time | システム内蔵時計の時刻を設定します。 |
| System Date | システム内蔵カレンダーの日付を設定します。 |
| Memory Settings | 取り付けられているメモリに関連する情報が表示されます。61 ページの「Memory Settings(メモリ設定)画面」を参照してください。 |
| Processor Settings | プロセッサに関する情報が表示されます(速度、キャッシュなど)。62 ページの「Processor Settings(プロセッサ設定)画面」を参照してください。 |

| オプション | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| SATA Settings | 内蔵 SATA コントローラとポートの有効 / 無効を切り替える画面が表示されます。63 ページの「SATA Settings (SATA 設定)画面」を参照してください。 |
| Boot Settings | 起動モード(BIOS または UEFI)を指定する画面が表示されます。BIOS 起動モードでは、起動デバイスの指定も可能です。64 ページの「Boot Settings(起動設定)画面」を参照してください。 |
| Integrated Devices | 内蔵デバイスコントローラとポートの有効 / 無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行う画面が表示されます。65 ページの「Integrated Devices (内蔵デバイス)画面」を参照してください。 |
| PCI IRQ Assignment | PCI バス上の各内蔵デバイスに割り当てられている IRQ、および IRQ を必要とするすべての搭載済み拡張カードが変更できる画面が表示されます。66 ページの「PCI IRQ Assignment(PCI IRQ 割り当て)画面」を参照してください。 |
| Serial Communication | シリアルポートの有効 / 無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行う画面が表示されます。66 ページの「Serial Communication(シリアル通信)画面」を参照してください。 |
| Embedded Server Management | 前面パネル LCD のオプションの設定、およびユーザーが指定する LCD スtring の設定を行う画面が表示されます。67 ページの「Embedded Server Management (組み込みサーバー管理)画面 (オプション)」を参照してください。 |
| Power Management | 既存の設定またはカスタム設定により、プロセッサ、ファン、およびメモリモジュールの電力使用を管理できます。68 ページの「Power Management(電力の管理)画面」を参照してください。 |
| System Security | システムパスワードおよびセットアップパスワード機能を設定する画面が表示されます。69 ページの「System Security(システムセキュリティ)画面」を参照してください。 |
| Keyboard NumLock (デフォルトは On) | 101 または 102 キーのキーボードで、起動時に NumLock モードを有効にするかどうかを決定します (84 キーのキーボードには適用されません)。 |

| オプション | 説明 |
|---|--|
| Report Keyboard Errors (デフォルトは Report) | POST 中のキーボードエラーの報告を有効または無効にします。キーボードが取り付けられているホストシステムでは、 Report (報告する)を選択します。 Do Not Report (報告しない)を選択すると、POST 中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するすべてのエラーメッセージが省略されます。キーボードがシステムに取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作には影響しません。 |
| F1/F2 Prompt on Error (デフォルトは Enabled) | POST 中に検出されたエラー箇所ですべてシステムを休止できるため、通常の POST では見過ごしがちなイベントを確認できます。続行するには <F1> を、セットアップユーティリティを起動するには <F2> を押します。  注意 : このオプションを無効に設定すると、POST 中にエラーが発生してもシステムは休止しません。重大なエラーはすべて表示され、システムイベントログに記録されます。 |

Memory Settings (メモリ設定) 画面

| オプション | 説明 |
|--|---|
| System Memory Size | システムメモリの容量が表示されます。 |
| System Memory Type | システムメモリのタイプが表示されます。 |
| System Memory Speed | システムメモリの速度が表示されます。 |
| Video Memory | ビデオメモリの容量が表示されます。 |
| System Memory Testing (デフォルトは Enabled) | システム起動時にシステムメモリテストを実行するかどうかを指定します。オプションは Enabled (有効)および Disabled (無効)です。 |
| Error Logging Threshold Mode (デフォルトは Enabled) | エラーログを有効にします。 |

Processor Settings (プロセッサ設定) 画面

| オプション | 説明 |
|---|---|
| 64-bit | プロセッサが 64 ビット拡張をサポートするかどうかを示します。 |
| Core Speed | プロセッサのクロック速度が表示されます。 |
| Bus Speed | プロセッサバス速度が表示されます。 |
| Logical Processor (デフォルトは Enabled) | 同時マルチスレッディング(SMT)テクノロジーがサポートされているプロセッサでは、各プロセッサコアが 2 つまでの論理プロセッサをサポートします。このフィールドを Enabled (有効)に設定すると、BIOS で両方の論理プロセッサが報告されます。 Disabled (無効)に設定すると、BIOS で監視される論理プロセッサは 1 つだけになります。 |
| Virtualization Technology (デフォルトは Enabled) | メモ ：お使いのシステムで仮想化ソフトウェアを使用しない場合は、この機能を無効にしてください。 Enabled (有効)に設定すると、仮想化ソフトウェアがプロセッサに組み込まれている仮想化テクノロジーを使用できるようになります。 |
| Execute Disable (デフォルトは Enabled) | Execute Disable によるメモリ保護機能の有効 / 無効を切り替えます。 |
| Number of Cores per Processor (デフォルトは All) | All (すべて)に設定すると、プロセッサの最大コア数が有効になります。 |
| C States (デフォルトは Enabled) | Enabled (有効)に設定すると、プロセッサは使用可能なすべての電力状態で動作できます。 |
| Turbo Mode (デフォルトは Enabled) | ターボブーストテクノロジーをサポートしているプロセッサの場合は、 Turbo Mode (ターボモード)の有効 / 無効を切り替えます。 |
| Processor 1 Family - Model-Stepping | プロセッサのシリーズ、モデル、ステッピングが表示されます。 |

SATA Settings (SATA 設定) 画面

| オプション | 説明 |
|---------------------------------|---|
| SATA Controller | ATA Mode (ATA モード)に設定すると内蔵 SATA コントローラが有効になります。 Off (オフ)に設定するとコントローラが無効になります。 |
| Port A (デフォルトは Off) | Auto (自動)に設定すると、SATA ポート A に接続されているデバイスに対する BIOS サポートが有効になります。 Off (オフ)に設定すると、デバイスに対する BIOS サポートが無効になります。 |
| Port B (デフォルトは Off) | Auto (自動)に設定すると、SATA ポート B に接続されているデバイスに対する BIOS サポートが有効になります。 Off (オフ)に設定すると、デバイスに対する BIOS サポートが無効になります。 |
| Port C (デフォルトは Off) | Auto (自動)に設定すると、SATA ポート C に接続されているデバイスに対する BIOS サポートが有効になります。 Off (オフ)に設定すると、デバイスに対する BIOS サポートが無効になります。 |
| Port D (デフォルトは Off) | Auto (自動)に設定すると、SATA ポート D に接続されているデバイスに対する BIOS サポートが有効になります。 Off (オフ)に設定すると、デバイスに対する BIOS サポートが無効になります。 |
| Port E (デフォルトは Auto) | Auto (自動)に設定すると、SATA ポート E に接続されているデバイスに対する BIOS サポートが有効になります。 Off (オフ)に設定すると、デバイスに対する BIOS サポートが無効になります。 |

Boot Settings（起動設定）画面

| オプション | 説明 |
|--|--|
| Boot Mode (デフォルトは BIOS) |  注意：OS インストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えるとシステムが起動しなくなることがあります。 システムの OS が UEFI(Unified Extensible Firmware Interface)をサポートしている場合は、このオプションを UEFI に設定できます。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI 非対応の OS との互換性が有効になります。 メモ： このフィールドを UEFI に設定すると、 Boot Sequence （起動順序）、 Hard-Disk Drive Sequence （ハードディスクドライブの順序）、および USB Flash Drive Emulation Type （USB フラッシュドライブエミュレーションタイプ）の各フィールドが無効になります。 |
| Boot Sequence | Boot Mode (起動モード)が BIOS に設定されている場合、システムはこのフィールドにより、起動に必要な OS ファイルの保存場所を認識します。 Boot Mode (起動モード)が UEFI に設定されている場合は、システムを再起動し、画面の指示に従って <F11> を押すことで、UEFI ブートマネージャユーティリティにアクセスできます。 |
| Hard-Disk Drive Sequence | ハードドライブの順序。上下矢印キーを使用してハードディスクを選択します。 |
| USB Flash Drive Emulation Type | USB フラッシュドライブのエミュレーションタイプを指定します。 Auto (自動)では、デバイスにとって適切なエミュレーションタイプが自動選択されます。 |
| Boot Sequence Retry (デフォルトは Disabled) | このフィールドが Enabled (有効)に設定されていて、システムが起動に失敗した場合、システムは 30 秒後に起動を再試行します。 |

Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面

| オプション | 説明 |
|---|---|
| Integrated SAS Controller(デフォルトは Enabled) | 内蔵 SAS コントローラの有効 / 無効を切り替えます。 |
| User Accessible USB Ports (デフォルトは All Ports On) | ユーザーがアクセス可能な USB ポートの有効 / 無効を切り替えます。オプションは、 All Ports On (すべてのポートがオン)、 Only Back Ports On (背面ポートのみオン)、および All Ports Off (すべてのポートがオフ)です。 |
| Internal USB Port (デフォルトは On) | 内蔵 USB ポートの有効 / 無効を切り替えます。 |
| Embedded NIC1 and NIC2 | 内蔵 NIC の OS インタフェースの有効 / 無効を切り替えます。NIC にはシステムの管理コントローラからもアクセスできます。 |
| Embedded Gb NIC1 (デフォルトは Enabled with PXE) | 内蔵 NIC の有効 / 無効を切り替えます。オプションは、 Enabled (有効)、 Enabled with PXE (PXE ありで有効)、 Enabled with iSCSI Boot (iSCSI ブートで有効)、および Disabled (無効)です。PXE をサポートしている場合は、ネットワークからシステムを起動できます。 |
| MAC Address | NIC の MAC アドレスが表示されます。 |
| Embedded Gb NIC2 (デフォルトは Enabled) | 内蔵 NIC の有効 / 無効を切り替えます。 |
| OS Watchdog Timer (デフォルトは Disabled) | OS の動作を監視し、システムが反応しなくなった場合のリカバリに役立つタイマーを設定します。 Enabled (有効)に設定すると、OS からタイマーを初期化することができます。 Disabled (無効)に設定すると、タイマーは初期化されません。 メモ ：この機能は、ACPI 3.0b 仕様の WDAT 実装をサポートする OS でのみ使用できます。 |
| Embedded Video Controller (デフォルトは Enabled) | 内蔵ビデオコントローラ内の利用可能なビデオメモリの総容量が表示されます。 |

PCI IRQ Assignment (PCI IRQ 割り当て) 画面

| オプション | 説明 |
|-------------|---|
| <PCIe デバイス> | 所定のデバイスについて、<+> と <-> のキーを使用して IRQ を手動で選択するか、または、システム起動時に BIOS から IRQ 値を選択できるようにするには Default (デフォルト)を選択します。 |

Serial Communication (シリアル通信) 画面

| オプション | 説明 |
|--|---|
| Serial Communication (デフォルトは On without Console Redirection) | オプションは、 On without Console Redirection (コンソールリダイレクションなしでオン)、 On with Console Redirection via COM1 (COM1 を介してのコンソールリダイレクションでオン)、および Off (オフ)です。 |
| Serial Port Address | シリアルポートのアドレスを指定します。 |
| External Serial Connector (デフォルトは Serial Device1) | Serial Device 1 (シリアルデバイス 1)、 Serial Device 2 (シリアルデバイス 2)、または Remote Access Device (リモートアクセスデバイス)から外部シリアルコネクタにアクセスできるかどうかを指定します。 |
| Failsafe Baud Rate (デフォルトは 115200) | コンソールリダイレクションに使用されているフェイルセーフボーレートが表示されます。このレートは調節しないでください。 |
| Remote Terminal Type (デフォルトは VT100/VT220) | オプションは VT100/VT220 または ANSI です。 |
| Redirection After Boot (デフォルトは Enabled) | OS の起動後に BIOS コンソールリダイレクションを有効または無効にします。 |

Embedded Server Management (組み込みサーバー管理) 画面 (オプション)

| オプション | 説明 |
|-------------------------|---|
| Front-Panel LCD Options | <p>オプションは、User Defined String(ユーザー定義の文字列)、Model Number(モデル番号)、および None(なし)です。</p> <p>LCD ホームの画面を以上の 3 つのオプション以外に設定すると、オプションは BIOS に “Advanced”(詳細)として表示されます。この場合、BIOS 内でオプションを変更するには、別の LCD 設定ユーティリティ (BMC または iDRAC 設定ユーティリティ、または LCD パネルメニューなど)を使用して、オプションをあらかじめ User Defined String(ユーザー定義の文字列)、Model Number(モデル番号)、または None(なし)に戻しておく必要があります。</p> |
| User-Defined LCD String | LCD モジュール画面に表示されるシステムの名前または別の識別子をここに入力できます。 |

Power Management (電力の管理) 画面

| オプション | 説明 |
|--|---|
| Power Management (デフォルトは Active Power Controller) | <p>オプションは、OS Control(OS 制御)、Active Power Controller(アクティブパワーコントローラ)、Custom(カスタム)、または Maximum Performance(最大パフォーマンス)です。Custom(カスタム)設定以外のすべての設定では、BIOS はこの画面の電源オプションを次のようにあらかじめ設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• OS Control (OS 制御) では、CPU 電源が OS DBPM に、ファン電源が Minimum Power (最小電力) に、メモリ電源が Maximum Performance (最大パフォーマンス) に設定されます。この設定では、プロセッサのパフォーマンス情報のすべてが制御のためにシステム BIOS から OS に渡されます。OS は、プロセッサのパフォーマンスをプロセッサの使用率に基づいて設定します。• Active Power Controller (アクティブパワーコントローラ) では、CPU 電源が System DBPM (システム DBPM) に、ファン電源が Minimum Power (最小電力) に、メモリ電源が Maximum Performance (最大パフォーマンス) に設定されます。BIOS は、プロセッサのパフォーマンスをプロセッサの使用率に基づいて設定します。• Maximum Performance (最大パフォーマンス) を選択すると、すべてのフィールドが Maximum Performance (最大パフォーマンス) に設定されます。 |
| CPU Power and Performance Management | オプションは、 OS DBPM 、 System DBPM (システム DBPM)、 Maximum Performance (最大パフォーマンス)または Minimum Power (最小電力)です。 |
| Fan Power and Performance Management | オプションは、 Maximum Performance (最大パフォーマンス)および Minimum Power (最小電力)です。 |
| Memory Power and Performance Management | オプションは、 Maximum Performance (最大パフォーマンス)、設定頻度、または Minimum Power (最小電力)です。 |

System Security（システムセキュリティ）画面

| オプション | 説明 |
|---|--|
| System Password | パスワードセキュリティ機能の現在のステータスを表示し、新しいシステムパスワードの設定と検証ができます。 メモ ：詳細については、74 ページの「システムパスワードの使い方」を参照してください。 |
| Setup Password | セットアップパスワードを使用してセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。 メモ ：詳細については、74 ページの「システムパスワードの使い方」を参照してください。 |
| Password Status (デフォルトは Unlocked) | Setup Password (セットアップパスワード)を設定し、このフィールドを Locked (ロック)すると、システム起動時にシステムパスワードを変更したり無効にしたりできなくなります。 詳細については、74 ページの「システムパスワードの使い方」を参照してください。 |
| TPM Security (デフォルトは Off) | システムの Trusted Platform Module(TPM)(信頼済みプラットフォームモジュール)のレポートを設定します。 Off (オフ)に設定すると、TPM の存在が OS に報告されません。 On with Pre-boot Measurements (起動前測定ありでオン)に設定すると、TPM が OS に報告され、POST 中に起動前測定が TPM に保存されます。 On without Pre-boot Measurements (起動前測定なしでオン)に設定すると、TPM が OS に報告され、起動前測定は省略されます。 |
| TPM Activation (デフォルトは No Change) | Activate (有効にする)に設定すると、TPM がデフォルト設定の状態でも有効になります。 Deactivate (無効にする)に設定すると、TPM は無効になります。 No Change (変更なし)状態の場合、処理は何も実行されません。TPM の動作状態は不変です(TPM のすべてのユーザー設定が保存されます)。 メモ ：TPM Security (TPM セキュリティ) が Off (オフ) に設定されている場合、このフィールドは読み取り専用です。 |

| オプション | 説明 |
|---|---|
| TPM Clear (デフォルトは No) | <p>△ 注意 : TPM をクリアすると、TPM 内のすべての暗号化キーが失われます。このオプションを選択すると OS からの起動ができなくなり、暗号化キーが復元できない場合はデータが失われます。このオプションを有効にする前に TPM キーをバックアップしてください。</p> <p>Yes(はい)に設定すると、TPM の内容がすべてクリアされます。</p> <p>メモ : TPM Security (TPM セキュリティ) が Off (オフ) に設定されている場合、このフィールドは読み取り専用です。</p> |
| Power Button (デフォルトは Enabled) | <p>Enabled(有効)に設定すると、電源ボタンでシステムの電源を切ったり入れたりできます。ACPI 対応の OS では、電源が切れる前に正常なシャットダウンが行われます。</p> <p>Disabled(無効)に設定すると、電源ボタンはシステムの電源を入れる場合にのみ使用できます。</p> <p>メモ : Power Button (電源ボタン) オプションが Disabled (無効) に設定されていても、電源ボタンを使ってシステムをオンにすることは可能です。</p> |
| NMI Button (デフォルトは Disabled) | <p>△ 注意 : NMI ボタンは、OS のマニュアルで指示されているか、または認定を受けたサポート担当者によって指示された場合のみ使用してください。このボタンを押すと、OS が停止し、診断プログラム画面が表示されます。</p> <p>NMI 機能の有効 / 無効を切り替えます。</p> |
| AC Power Recovery (デフォルトは Last) | <p>電源が回復した場合のシステムの動作を設定します。Last(直前)に設定されている場合、システムは電源が中断される直前の電源状態に戻ります。On(オン)では電源回復時にシステムの電源が入ります。Off(オフ)では、電源が回復してもシステムの電源は切れたままです。</p> |
| AC Power Recovery Delay (デフォルトは Immediate) | <p>電源回復後にシステムが起動するタイミングを設定します。オプションは、Immediate(即時)、Random(ランダム)(30 ~ 240 秒のランダム値)、またはユーザー定義値(30 ~ 240 秒)です。</p> |

Exit (終了) 画面

セットアップユーティリティを終了するには <Esc> を押します。

Exit (終了) 画面には次のオプションが表示されます。

- Save Changes and Exit
- Discard Changes and Exit
- Return to Setup

UEFI ブートマネージャの起動方法

 **メモ**：UEFI 起動モードからインストールする OS は 64 ビット UEFI 対応 (Microsoft® Windows Server® 2008 x64 バージョンなど) である必要があります。DOS および 32 ビットの OS は BIOS 起動モードからのみインストールできます。

 **メモ**：UEFI ブートマネージャにアクセスするには、セットアップユーティリティで Boot Mode (起動モード) を UEFI に設定する必要があります。

UEFI ブートマネージャでは次の操作ができます。

- 起動オプションの追加、削除、配置
 - 再起動なしでのセットアップユーティリティオプションおよび BIOS レベル起動オプションへのアクセス
- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
 - 2 次のメッセージが表示されたら <F11> を押します。

<F11> = UEFI Boot Manager

 **メモ**：USB キーボードがアクティブになるまでシステムは反応しません。

<F11> を押す前に OS のロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

UEFI ブートマネージャのナビゲーションキーの使い方

| キー | 動作 |
|------------------------|---|
| 上矢印 | 前のフィールドに移動し、そのフィールドをハイライト表示します。 |
| 下矢印 | 次のフィールドに移動し、そのフィールドをハイライト表示します。 |
| スペースキー、<Enter>、<+>、<-> | フィールド内の設定値を順に切り替えます。 |
| <Esc> | UEFI ブートマネージャの画面を更新するか、または別のプログラムの画面から UEFI ブートマネージャの画面に戻ります。 |
| <F1> | UEFI ブートマネージャのヘルプファイルを表示します。 |

UEFI Boot Manager (UEFI ブートマネージャ) 画面

| オプション | 説明 |
|--------------------|---|
| Continue | システムは起動順序の先頭にあるデバイスから順に起動を試みます。起動が失敗すると、システムは起動順序内の次のデバイスから起動を試みます。起動が成功するか、起動オプションがなくなるまで処理は続行されます。 |
| <起動オプション> | 使用可能な起動オプション(アスタリスク [*] 付き)のリストが表示されます。使用する起動オプションを選択し、<Enter> を押します。 メモ： システムの電源を切らずに起動デバイスを追加した場合は、<ESC> を押して起動オプションのリストを更新します。 |
| UEFI Boot Settings | 起動オプションの追加、削除、有効 / 無効の切り替え、起動順序の変更、1 回限りの起動オプションの実行が可能です。 |
| System Utilities | セットアップユーティリティ、システムサービス USC (Unified Server Configurator)、Diagnostics(診断)、BIOS レベルの起動オプションが使用できます。 |

UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定) 画面

| オプション | 説明 |
|----------------------------|---|
| Add Boot Option | 新しい起動オプションを追加します。 |
| Delete Boot Option | 既存の起動オプションを削除します。 |
| Enable/Disable Boot Option | 起動オプションリスト内の起動オプションの有効 / 無効を切り替えます。 |
| Change Boot Order | 起動オプションリストの順序を変更します。 |
| One-Time Boot From File | 起動オプションリストに含まれていない 1 回限りの起動オプションを設定します。 |

System Utilities (システムユーティリティ) 画面

| オプション | 説明 |
|----------------------|---|
| System Setup | 再起動なしでセットアップユーティリティにアクセスします。 |
| System Services(USC) | システムが再起動し、USC にアクセスします。USC により、システム診断プログラムなどのユーティリティを実行できます。 |
| BIOS Boot Manager | 再起動なしで BIOS レベルの起動オプションリストにアクセスできます。診断プログラムが格納された起動可能な DOS メディアなど、非 UEFI の OS がインストールされているデバイスから起動する必要がある場合に、このオプションを使うと BIOS 起動モードに都合よく切り替えることができます。 |
| Reboot System | システムが再起動します。 |

システムパスワードとセットアップパスワードの機能

 **メモ**：パスワードを忘れた場合は、197 ページの「パスワードを忘れたとき」を参照してください。

お使いのシステムは、出荷時にはシステムパスワード機能が有効になっていません。システムパスワードによる保護を必ず有効にしてシステムを操作してください。

 **注意**：パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。

 **注意**：システムが無人で稼働中の場合は、システムに格納されているデータにだれでもアクセスできます。

システムパスワードの使い方

システムパスワードを設定すると、起動時にシステムパスワードの入力を求められるため、パスワードを知らないユーザーはシステムの全機能を使用することができません。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動して、**System Password**（システムパスワード）オプションを確認します。

システムパスワードが設定されている場合、**System Password**（システムパスワード）は **Enabled**（有効）です。**Password Status**（パスワードステータス）が **Unlocked**（ロック解除）の場合は、システムパスワードを変更できます。**Locked**（ロック）の場合は、システムパスワードを変更できません。システム基板上のパスワードジャンパを無効にすると、**System Password**（システムパスワード）が **Disabled**（無効）に設定され、システムパスワードの変更や新しいシステムパスワードの入力ができなくなります。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上のパスワードジャンパが有効の位置に設定されている場合、**System Password** (システムパスワード) は **Not Enabled** (無効) で **Password Status** (パスワードステータス) は **Unlocked** (ロック解除) です。システムパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
- 2 **System Password** (システムパスワード) オプションをハイライト表示して、<Enter> を押します。
- 3 新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードは半角の英数字で 32 文字まで入力できます。

フィールドには、入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。無効なキーの組み合わせもあります。無効な組み合わせで入力すると、ピープ音が鳴ります。文字を削除するには、<Backspace> または左矢印キーを押します。

 **メモ**：システムパスワードの設定を途中で中止する場合は、<Enter> を押して別のフィールドに移動するか、手順 5 を完了する前に <Esc> を押します。

- 4 <Enter> を押します。
- 5 パスワードを確認するために、もう一度同じパスワードを入力して、<Enter> を押します。

System Password (システムパスワード) が **Enabled** (有効) に変わります。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用します。

- 6 ここでシステムを再起動してパスワード保護機能を有効にするか、または作業を続けます。

 **メモ**：システムが再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

 **メモ**：セットアップパスワードを設定している場合（77ページの「セットアップパスワードの使い方」を参照）、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

Password Status（パスワードステータス）が **Unlocked**（ロック解除）に設定されている場合は、パスワードセキュリティを有効のままにしておくことも無効にすることもできます。

パスワードセキュリティを有効のままにしておくには、次の手順を実行します。

- 1 システムの電源を入れるか、または <Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
- 2 パスワードを入力し、<Enter> を押します。

パスワードセキュリティを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 システムの電源を入れるか、または <Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
- 2 パスワードを入力し、<Ctrl><Enter> を押します。

Password Status（パスワードステータス）が **Locked**（ロック）に設定されている場合は、再起動時に指示に従ってパスワードを入力し、<Enter> を押す必要があります。

間違ったシステムパスワードを入力すると、パスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。3回目までに正しいパスワードを入力してください。間違ったパスワードを3回入力すると、システムの停止を示すエラーメッセージが表示され、システムがシャットダウンします。

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。

 **メモ**：無許可の変更からシステムを保護するために、**System Password**（システムパスワード）と **Setup Password**（セットアップパスワード）オプションの他に **Password Status**（パスワードステータス）オプションも併用することができます。

既存のシステムパスワードの削除または変更

- 1 既存のシステムパスワードを無効にするには、パスワードプロンプトで <Ctrl><Enter> を押します。
セットアップパスワードを入力するよう求められた場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- 2 POST 中に <F2> を押して、セットアップユーティリティを起動します。
- 3 **System Security** (システムセキュリティ) 画面を選択して、**Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) に設定されていることを確認します。
- 4 システムパスワードを入力します。
- 5 **System Password** (システムパスワード) に **Not Enabled** (無効) と表示されていることを確認します。
System Password (システムパスワード) に **Not Enabled** (無効) と表示されている場合、システムパスワードは削除されます。**System Password** (システムパスワード) に **Enabled** (有効) が表示されている場合は、<Alt> キーの組み合わせを押してシステムを再起動し、手順 1 ~ 手順 5 を繰り返します。

セットアップパスワードの使い方

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、**Setup Password**(セットアップパスワード) が **Not Enabled**(無効)に設定されている場合にのみ設定できます。セットアップパスワードを設定するには、**Setup Password**(セットアップパスワード)オプションをハイライト表示して、<+> または <-> キーを押します。パスワードの入力と確認を求めるプロンプトが表示されます。

 **メモ**：セットアップパスワードとシステムパスワードを同じにすることもできます。2つのパスワードを別にした場合、セットアップパスワードはシステムパスワードの代わりに使用できます。システムパスワードをセットアップパスワードの代わりに使用することはできません。

パスワードは半角の英数字で 32 文字まで入力できます。

フィールドには、入力した文字の代わりに「*」が表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。無効なキーの組み合わせもあります。無効な組み合わせで入力すると、ビーブ音が鳴ります。文字を削除するには、<Backspace> または左矢印キーを押します。

パスワードの確認入力を行うと、**Setup Password**（セットアップパスワード）の設定が **Enabled**（有効）に変わります。次にセットアップユーティリティを起動すると、セットアップパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

Setup Password（セットアップパスワード）オプションの変更は、ただちに有効になります（システムを再起動する必要はありません）。

セットアップパスワード使用中の操作

Setup Password（セットアップパスワード）が **Enabled**（有効）に設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションは変更できません。

3 回までの入力ですべて正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティの画面は表示されますが、変更することはできません。次のオプションは例外です。**System Password**（システムパスワード）が **Enabled**（有効）に設定されておらず、**Password Status**（パスワードステータス）オプションを通じてロックされていない場合は、システムパスワードを設定できます。既存のシステムパスワードは、無効にすることも変更することもできません。



メモ：Setup Password（セットアップパスワード）オプションと Password Status（パスワードステータス）オプションを併用すると、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

既存のセットアップパスワードの削除または変更

- 1 セットアップユーティリティを起動して、**System Security**（システムセキュリティ）を選択します。
- 2 **Setup Password**（セットアップパスワード）をハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップパスワードウィンドウを開きます。<Enter> を 2 回押して、既存のセットアップパスワードをクリアします。
設定が **Not Enabled**（無効）に変わります。
- 3 新しいセットアップパスワードを設定する場合は、「セットアップパスワードの設定」の手順を実行します。

組み込みシステム管理

USC (Unified Server Configurator) は内蔵されているユーティリティで、サーバーのライフサイクル中、システムとストレージの管理タスクを組み込み環境から実行できるようにします。

USC は起動中に開始でき、OS に依存せずに機能することができます。

 **メモ**：一部のプラットフォーム構成では、USC の提供する機能の一部がサポートされない場合があります。

ベースボード管理コントローラ (BMC) を備えたシステムでは、USC の以下の機能がサポートされています。

- OS のインストール
- Diagnostics (診断) の実行 (メモリ、I/O デバイス、プロセッサ、物理ディスク、その他の周辺機器の確認)

オプションの iDRAC6 Express カードが取り付けられている場合、USC は以下の追加機能をサポートします。

- ファームウェアアップデートのダウンロードと適用
- ハードウェアとファームウェアの設定

USC のセットアップ、ハードウェアとファームウェアの設定、および OS の導入の詳細については、デルサポートサイト

support.dell.com/manuals で Dell Unified Server Configurator の『ユーザーズガイド』を参照してください。

ベースボード管理コントローラの設定

 **メモ**：システムに iDRAC6 Express カードが取り付けられている場合、BMC ユーティリティは iDRAC6 ユーティリティに取って代わられます。

BMC を使用すると、システムの設定、監視、リカバリをリモートで行うことができます。BMC には以下の機能があります。

- システムの内蔵 NIC を使用する。
- 障害の記録と SNMP 警告を有効にする。
- システムイベントログとセンサーステータスへのアクセスを提供する。
- 電源オンとオフを含むシステム機能の制御を可能にする。

- システムの電力状態や OS とは無関係に機能する。
- セットアップユーティリティ、テキストベースのユーティリティ、および OS コンソールに対するテキストコンソールリダイレクションを提供する。



メモ：内蔵 NIC を通じて BMC にリモートでアクセスするには、内蔵 NIC1 とのネットワーク接続が必要です。

BMC の使い方の詳細については、BMC とシステム管理アプリケーションのマニュアルを参照してください。

BMC セットアップモジュールの起動

- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
- 2 POST 後、プロンプトが表示されたときに、<Ctrl><E> を押します。
<Ctrl><E> を押す前に OS のロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

iDRAC 設定ユーティリティ

iDRAC 設定ユーティリティは、iDRAC6 と管理下サーバーのパラメータを表示および設定できる起動前の設定環境です。

iDRAC 設定ユーティリティには以下の機能があります。

- 障害の記録と SNMP 警告を有効にする。
- システムイベントログとセンサステータスへのアクセスを提供する。
- 電源オンとオフを含むシステム機能の制御を可能にする。
- システムの電力状態や OS とは無関係に機能する。
- セットアップユーティリティ、テキストベースのユーティリティ、および OS コンソールに対するテキストコンソールリダイレクションを提供する。

さらに、iDRAC 設定ユーティリティでは以下の操作もできます。

- 専用の iDRAC6 Enterprise カードポートまたは内蔵 NIC1 を介して、iDRAC6 LAN を設定したり、有効 / 無効の切り替えを行う。
- IPMI over LAN の有効 / 無効を切り替える。
- LAN PET (Platform Event Trap) の送信先を有効にする。
- 仮想メディアデバイスの取り付けまたは取り外しを行う。
- Administrator ユーザー名およびパスワードを変更し、ユーザー権限を管理する。
- システムイベントログ (SEL) メッセージを表示する、またはログからメッセージをクリアする。

iDRAC6 の使い方の詳細については、iDRAC6 とシステム管理アプリケーションのマニュアルを参照してください。

iDRAC 設定ユーティリティの起動

- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
- 2 POST 中に画面の指示に従って <Ctrl><E> を押します。

<Ctrl><E> を押す前に OS のロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

システム部品の取り付け

 **メモ**：お使いのシステムには、構成に応じて、ケーブル接続式またはホットスワップ対応のハードドライブ、冗長または非冗長電源ユニット、および LCD パネルまたは診断インジケータが取り付けられています。本項のイラストは、ホットスワップ対応ハードドライブと LCD パネルを搭載したシステムを示しています。

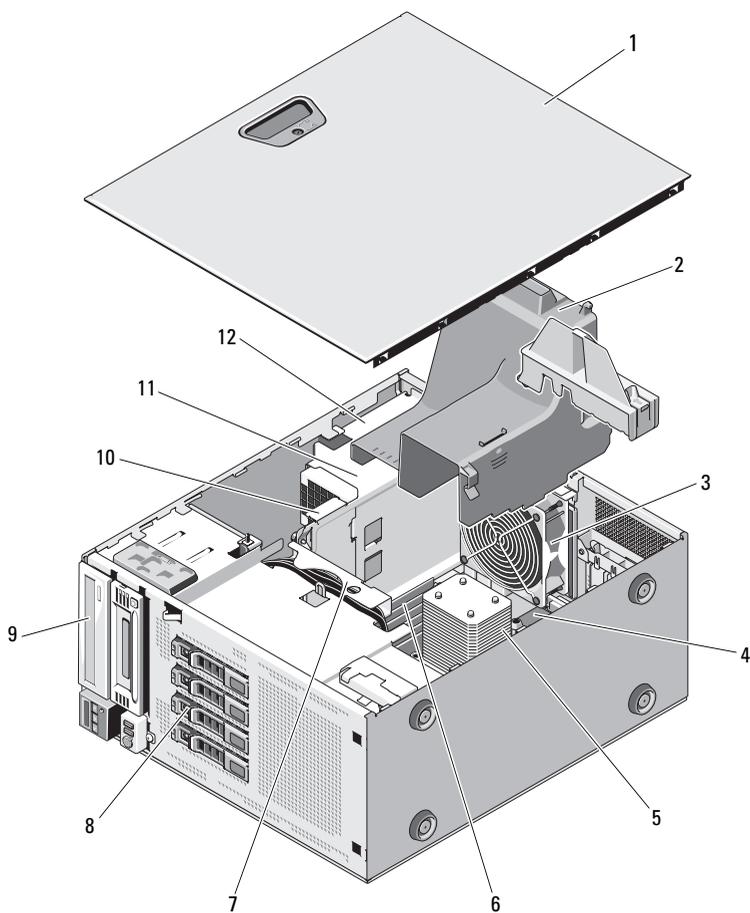
奨励するツール

- システムキーロックのキー
- #1 および #2 のプラスドライバ
- 静電気防止用リストバンド

システムの内部

 **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

図 3-1 システムの内部



- | | | | |
|----|--------------|----|---------------|
| 1 | システムカバー | 2 | 冷却用エアフローカバー |
| 3 | システム冷却ファン | 4 | 拡張カードスロット (5) |
| 5 | プロセッサとヒートシンク | 6 | メモリモジュール (6) |
| 7 | SAS バックプレーン | 8 | ハードドライブ (4) |
| 9 | オプティカルドライブ | 10 | 配電基板 |
| 11 | 電源ユニット | 12 | 電源ユニットベイ (2) |

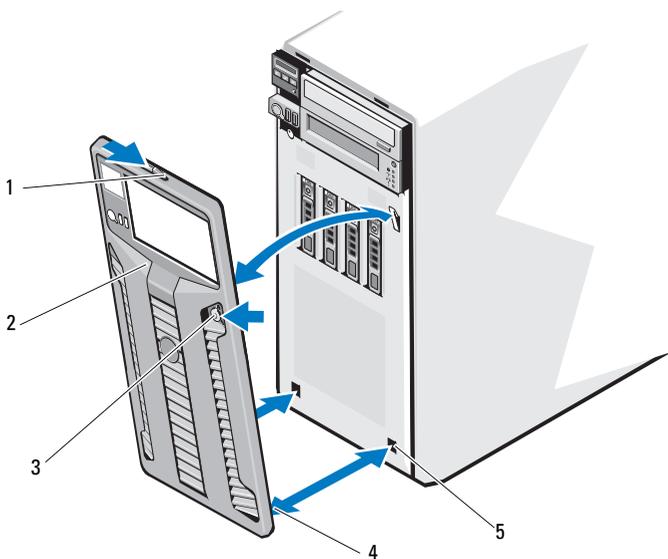
前面ベゼル

メモ：ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しまたは取り付けを行う場合は、前面ベゼルの取り外し中、システムの電源はオンで、まっすぐに立てたままで構いません。その他のシステムコンポーネントの取り外しまたは取り付けを行う場合は、システムの電源を切り、図 3-1 に示す向きにしてください。

前面ベゼルの取り外し

- 1 前面ベゼルがロックされている場合は、システムキーを使用してロックを解除します。
- 2 リリースラッチを矢印の方向にスライドさせ、ベゼルの上端をシャーシから離れる方向に傾けます。図 3-2 を参照してください。
- 3 シャーシからベゼルを持ち上げて外します。

図 3-2 前面ベゼルの取り外しまたは取り付け



- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | リリースラッチ | 2 | ベゼル |
| 3 | ベゼルキーロック | 4 | ベゼルタブ (2) |
| 5 | タブスロット (2) | | |

前面ベゼルの取り付け

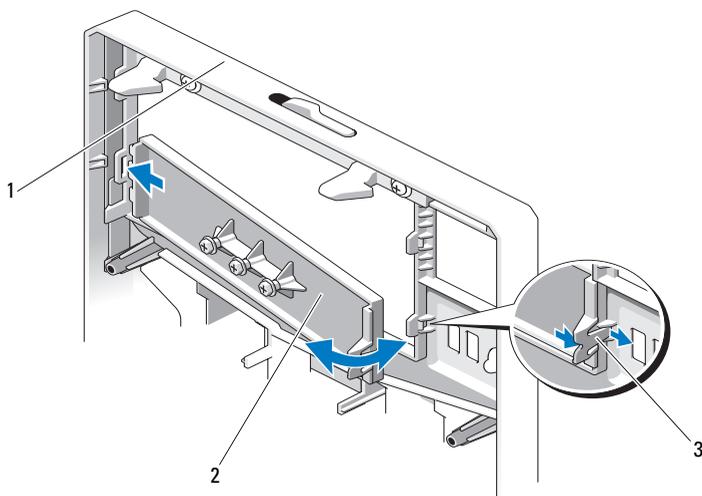
- 1 ベゼルタブをシャーシのベゼルタブスロットに挿入します。
図 3-2 を参照してください。
- 2 レバーが所定の位置に固定されるまで、ベゼルの上端をシャーシに押し込みます。
- 3 システムキーを使用して、ベゼルをロックします。

前面ベゼルカバー

前面ベゼルカバーの取り外し

-  **メモ**：1つまたは複数の前面ドライブベイにドライブを取り付ける前に、前面ベゼルのそれぞれ対応する位置に取り付けられているカバーを取り外します。
 -  **メモ**：ベゼルカバーには内側にネジが付いている場合があります。必要に応じて、新しいドライブにネジを取り付けてください。
- 1 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
 - 2 カバーのタブを押し、カバーをベゼルから外します。図 3-3 を参照してください。

図 3-3 前面ベゼルカバーの取り外しと取り付け



- 1 前面ベゼル 2 前面ベゼルカバー
3 カバーのタブ

前面ベゼルカバーの取り付け

メモ：1つまたは複数の前面ドライブベイからドライブを取り外す場合は、前面ベゼルのそれぞれ対応する位置にカバーを取り付けます。

- 1 ベゼルの背面から、カバーのタブをベゼルの対応する切り込みに合わせます。タブが所定の位置に収まるまで、カバーを押し込みます。図 3-3 を参照してください。
- 2 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。

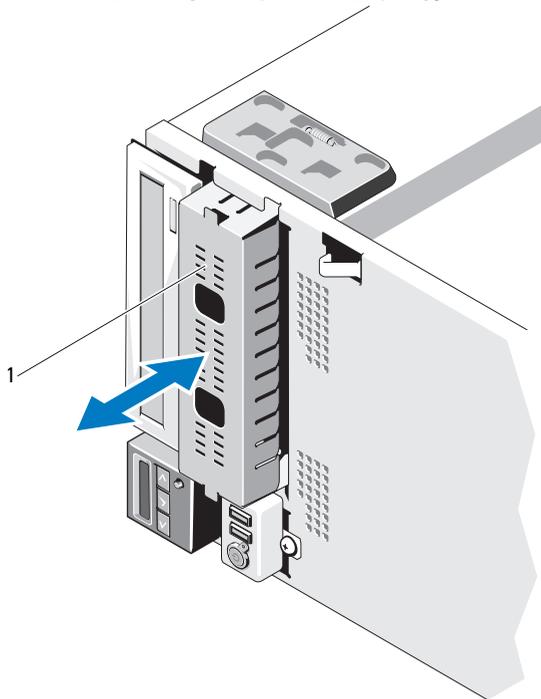
EMI フィラーパネル

お使いのシステムの構成により、システム前面の 5.25 インチオプティカルドライブベイに EMI（電磁波障害）フィラーパネルが取り付けられている場合があります。EMI フィラーパネルは、正常な通気を確保し、電磁波障害（EMI）を防止するために不可欠な部品です。オプティカルドライブを取り付けるには、対応する EMI フィラーパネルを先に取り外す必要があります。

EMI フィラーパネルの取り外し

- 1 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 2 EMI フィラーパネル中央の穴をしっかりと引いて、パネルをシャーシから取り外します。図 3-4 を参照してください。

図 3-4 EMI フィラーパネルの取り外しと取り付け



1 EMI フィラーパネル

EMI フィラーパネルの取り付け

- 1 所定の位置にロックされるまで、EMI フィラーパネルをシャーシ前面の空のドライブベイに押し込みます。図 3-4 を参照してください。
- 2 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。

システムカバーの開閉

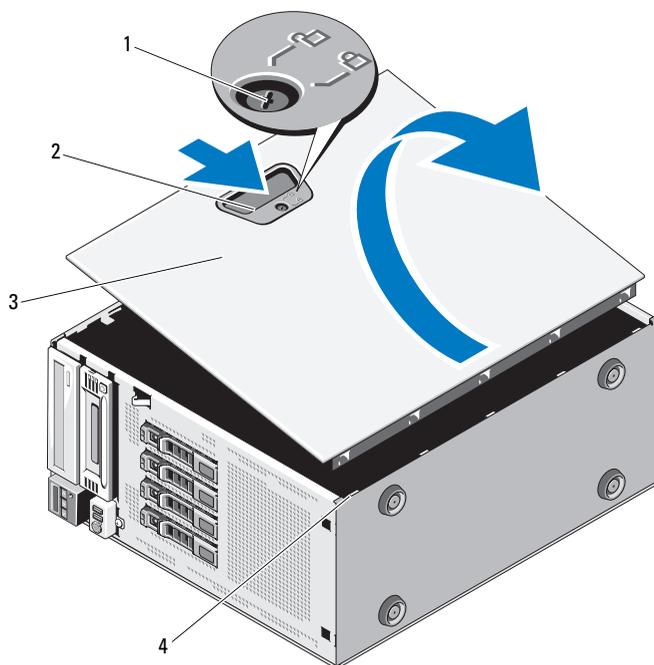
⚠ 警告： システムを持ち上げる必要がある場合は、必ずだれかの手を借りてください。けがを防ぐために、決してシステムを一人で持ち上げようとしないでください。

△ 注意： 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

システムカバーの取り外し

- 1 ハードドライブや電源ユニットなどのホットスワップ対応コンポーネントを取り外す場合を除き、システムとシステムに接続されている周辺機器の電源を切ります。システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
- 2 システムを平らな面に置きます。
- 3 カバーリリースラッチのロックを反時計方向に回してアンロック位置にします。図 3-5 を参照してください。
- 4 カバーリリースラッチを押し、カバーのラッチがある側を回転させてシステムから外します。図 3-5 を参照してください。
- 5 カバーの両側をつかんで、カバーをシステムから慎重に持ち上げて、取り外します。図 3-5 を参照してください。

図 3-5 システムカバーの開閉



- | | | | |
|---|---------------|---|------------|
| 1 | カバーリリースラッチロック | 2 | カバーリリースラッチ |
| 3 | システムカバー | 4 | シャーシスロット |

システムカバーの取り付け

- 1 すべての内部ケーブルが確実に接続され、ケーブルが邪魔にならないように束ねられているか確認します。
- 2 システム内部に工具や余分な部品が残っていないことを確認します。
- 3 カバーの下端（カバーリリースラッチがない側）をシステムシャーシのスロットに挿入します。図 3-5 を参照してください。
- 4 カバーをシャーシに被せます。
- 5 ラッチが所定の位置にロックされるまで、カバーのラッチがある側をシャーシに押し込みます。

- 6 カバーリリースラッチのロックを時計方向に回してロック位置にします。図 3-5 を参照してください。
- 7 システムを平らな面に縦置きにします。
- 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

拡張カードスタビライザ

拡張カードスタビライザの取り外し

- 1 システムと周辺機器の電源を切ります。システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザのタッチポイントを内側へ押し込み、スタビライザを持ち上げてシステムから取り外します。図 3-6 を参照してください。

拡張カードスタビライザの取り付け

- 1 拡張カードスタビライザをシャーシと冷却用エアフローカバーのスロットに合わせます。
- 2 タッチポイントを持って拡張カードスタビライザを下ろします。図 3-6 を参照してください。
- 3 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 4 システムを平らな面に縦置きにします。
- 5 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 6 システムと周辺機器の電源を入れます。

冷却用エアフローカバー

冷却用エアフローカバーは、プロセッサ、ヒートシンク、およびメモリモジュールをカバーし、これらのコンポーネントを通気によって冷却します。冷却用エアフローカバーは、通気によってシステムプロセッサとメモリモジュールを冷却する仕組みになっています。

⚠ 警告： システム稼動中は、メモリモジュールおよびヒートシンクが非常に高温になることがあります。メモリモジュールとヒートシンクに触れる前に十分に時間をかけ、温度が下がっていることを確認してください。

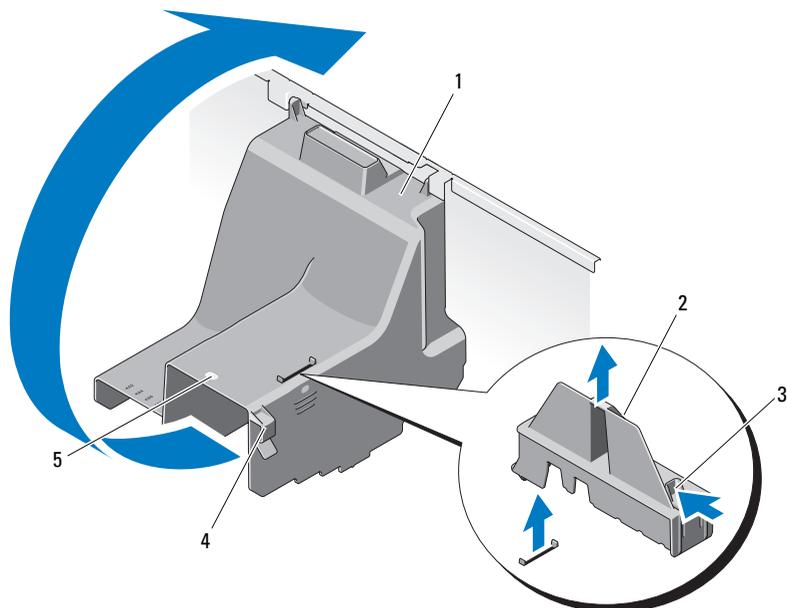
△ 注意： 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

△ 注意： 冷却用エアフローカバーを取り外した状態でシステムを使用しないでください。システムがすぐにオーバーヒートしてシャットダウンし、データが失われるおそれがあります。

冷却用エアフローカバーの取り外し

- 1 システムと周辺機器の電源を切ります。システムを電源コンセントと周辺機器から外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 冷却用エアフローカバー側面のブラケットにストレージコントローラカードのケーブルが接続されている場合は、これを取り外します。図 3-6 を参照してください。
- 5 タッチポイントを持って、冷却用エアフローカバーをシャーシから離れる方向に 180 度傾けます。

図 3-6 エアフローカバーの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|-------------------------|---|-------------|
| 1 | 冷却用エアフローカバー | 2 | 拡張カードスタビライザ |
| 3 | 拡張カードスタビライザのタッチポイント (2) | 4 | ケーブルブラケット |
| 5 | 冷却用エアフローカバータッチポイント | | |

冷却用エアフローカバーの取り付け

- 1 タッチポイントを持って、冷却用エアフローカバーを慎重にシステム内に下ろします。
- 2 冷却用エアフローカバーの端にケーブルが挟まれていないことを確認してください。
- 3 ストレージコントローラカードがある場合は、そのケーブルを冷却用エアフローカバー側面のブラケットに固定します。
- 4 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。

- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムを平らな面に縦置きにします。
- 7 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 8 システムと周辺機器の電源を入れます。

ハードドライブ

お使いのシステムには、3.5 インチホットスワップ対応ハードドライブキャリアに、ホットスワップ対応の 3.5 インチ（SAS または SATA）内蔵ハードドライブ、またはホットスワップ対応の 2.5 インチ（SAS または SSD）内蔵ハードドライブを 4 台まで取り付けることができます。また、ケーブル接続式 3.5 インチ SAS または SATA 内蔵ハードドライブも 4 台まで取り付け可能です。シャーシに応じて、ハードドライブはシステムの内部（図 3-10 を参照）または前面（図 3-8 を参照）に取り付けられています。

内蔵ハードドライブは、システム基板またはオプションのコントローラカードに接続されています。前面に取り付けるタイプのハードドライブは、ハードドライブキャリアを介して SAS バックプレーンに接続されており、ホットスワップドライブとして設定できます。

 **注意：**システムの動作中にドライブを取り付けたり取り外したりする前に、SAS コントローラカードのマニュアルを参照して、ホットスワップ対応ドライブの取り外しと挿入をサポートするように、ホストアダプタが正しく設定されていることを確認します。

 **注意：**ドライブのフォーマット中にシステムの電源を切ったり、再起動を行ったりしないでください。ドライブの故障の原因となります。

 **メモ：**SAS/SATA バックプレーンボード用として使用が認められているテスト済みのドライブのみを使用してください。

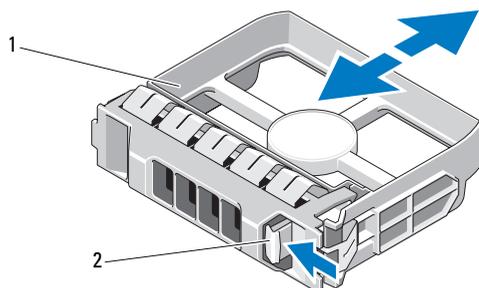
 **メモ：**ハードドライブをフォーマットする場合は、フォーマットの完了までに十分な時間の余裕をみておいてください。大容量のハードドライブはフォーマットに数時間を要する場合があります。

ハードドライブダミーの取り外し

△ **注意**：システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブベイには必ずドライブのダミーを取り付ける必要があります。

- 1 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 2 ハードドライブダミーの前面を持ち、リリースハンドルを押しながら、ドライブベイから外れるまでダミーを手前に引き出します。図 3-7 を参照してください。
- 3 ドライブベイから外れるまで、ドライブダミーを手前に引き出します。

図 3-7 ハードドライブダミーの取り外しまたは取り付け



1 ハードドライブのダミー 2 リリースハンドル

ハードドライブダミーの取り付け

ハードドライブダミーをドライブベイに合わせ、リリースレバーがカチッとロックするまでドライブベイに挿入します。

ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し

△ **注意:** データの損失を防ぐために、お使いの OS がホットスワップによるドライブの取り外しと取り付けに対応していることを確認してください。詳細については、OS に付属のマニュアルを参照してください。

- 1 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 2 RAID 管理ソフトウェアから、ドライブを取り外す準備をします。ドライブキャリアのハードドライブインジケータが、ドライブを安全に取り外すことができるという信号を発するまで待ちます。ホットスワップ対応ドライブを取り外す手順の詳細については、コントローラのマニュアルを参照してください。
ドライブがオンラインだった場合は、ドライブがパワーダウンする際に、緑色のアクティビティ / 障害インジケータが点滅します。ドライブインジケータが消灯したら、ドライブを安全に取り外すことができます。19 ページの「ハードドライブインジケータのパターン」を参照してください。
- 3 ドライブキャリア前面のボタンを押して、キャリアハンドルのロックを解除します。図 3-8 を参照してください。
- 4 ハードドライブキャリアのリリースハンドルを開いて、ドライブを取り出せる状態にします。図 3-8 を参照してください。
- 5 ドライブベイから外れるまで、ハードドライブを手前に引き出します。
- 6 ハードドライブをキャリアから取り出します。99 ページの「ホットスワップ対応ハードドライブをハードドライブキャリアから取り外す方法」を参照してください。
- 7 ドライブダミーを空いたドライブベイに挿入します。96 ページの「ハードドライブダミーの取り付け」を参照してください。

△ **注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブベイには必ずドライブのダミーを取り付ける必要があります。

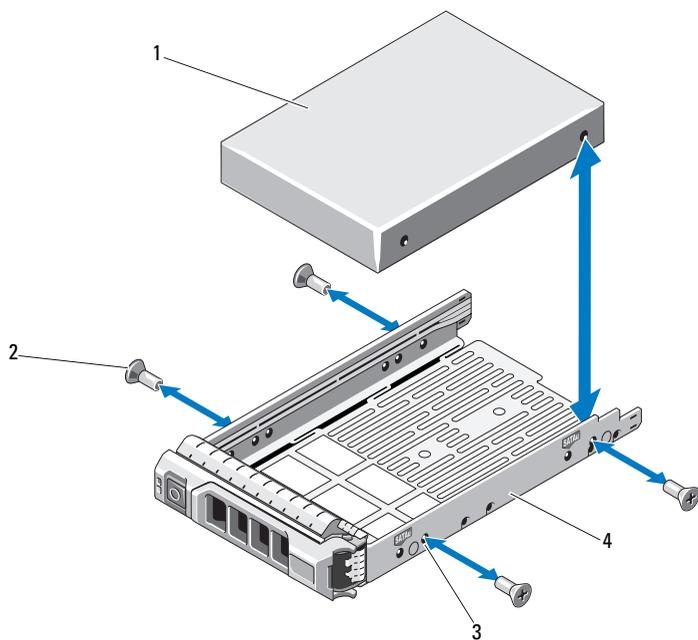
- 8 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。

- 3 ホットスワップ対応ハードドライブをハードドライブキャリアに取り付けます。101 ページの「ホットスワップ対応ハードドライブをドライブキャリアに取り付ける方法」を参照してください。
- 4 ハードドライブキャリアのハンドルを開き、キャリアがバックプレーンに接触するまで、ハードドライブをドライブベイに挿入します。
- 5 ハードドライブキャリアを押し込み、所定の位置に固定されるまでハンドルを上げます。
- 6 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。

ホットスワップ対応ハードドライブをハードドライブキャリアから取り外す方法

ハードドライブキャリアのスライドレールからネジを外し、ハードドライブをキャリアから離します。図 3-9 を参照してください。

図 3-9 ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|---------------|---|-------------|
| 1 | ハードドライブ | 2 | ネジ (4) |
| 3 | SAS/SATA のネジ穴 | 4 | ハードドライブキャリア |

ホットスワップ対応ハードドライブをドライブキャリアに取り付ける方法

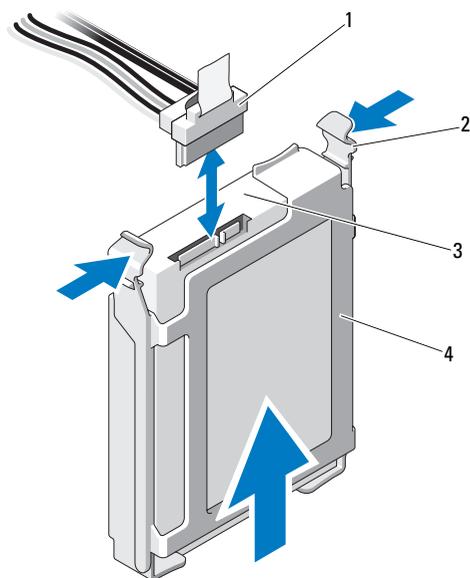
- 1 ドライブのコネクタの端が後部に来るようにして、ハードドライブをハードドライブキャリアに挿入します。図 3-9 を参照してください。
 **メモ**：2.5 インチハードドライブの場合は、ハードドライブをインサート内に固定してから、ドライブキャリアに挿入します。
- 2 ハードドライブのネジ穴をハードドライブキャリアの後部の穴に合わせます。
正しく揃うと、ハードドライブの背面がハードドライブキャリアの背面と同一面に揃います。
- 3 ネジを取り付けて、ハードドライブをハードドライブキャリアに固定します。

ケーブル接続式ハードドライブの取り外し

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 電源 / データケーブルをドライブベイ内のハードドライブから外します。
- 4 ハードドライブブラケットの両側にある青色のタブを内側に押しながら、ドライブを上方向にスライドさせてベイから取り出します。図 3-10 を参照してください。

図 3-10 ケーブル接続式ハードドライブの取り外しまたは取り付け



- | | | | |
|---|------------|---|--------------|
| 1 | 電源/データケーブル | 2 | タブ (2) |
| 3 | ハードドライブ | 4 | ハードドライブブラケット |

- 5 ハードドライブブラケットの側面を左右に開いてブラケットをハードドライブから外し、ハードドライブを取り出します。

メモ：ハードドライブを取り付けない場合は、ドライブブラケットからドライブを取り外し（図 3-11 を参照）、空のブラケットをドライブベイに挿入します。

- 6 システムカバーを取り付けます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 7 システムを平らな面に縦置きにします。
- 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

ケーブル接続式ハードドライブの取り付け

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

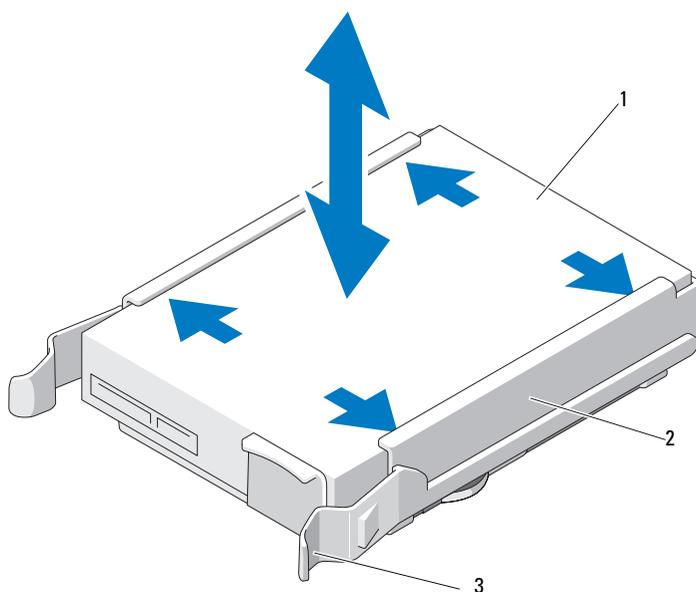
- 1 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 既存のハードドライブブラケットを取り外すには、ブラケットの両側にある青色のタブを内側に押しながら、ブラケットを上方向にスライドさせてシステムから取り出します。図 3-11 を参照してください。
- 4 ハードドライブブラケットをハードドライブにカチッとはめ込みます。図 3-11 を参照してください。
- 5 ハードドライブをドライブベイに挿入し、所定の位置にカチッと収まるまで押し込みます。
- 6 電源 / データケーブルをハードドライブに接続します。
 **メモ**：内蔵 SATA コントローラ（SATA ハードドライブの場合のみ）に接続する場合は、SATA データケーブルをシステム基板上の SATA_A コネクタに接続します。図 6-1 を参照してください。
 **メモ**：SAS RAID コントローラカード（SAS または SATA ハードドライブ）に接続する場合は、データケーブルをカードのコネクタに接続します。SAS コントローラカードの取り付けについては、124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
- 7 システムカバーを取り付けます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 8 システムを平らな面に縦置きにします。
- 9 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。

- 10 セットアップユーティリティを起動し、ハードドライブのコントローラが有効になっていることを確認します。58 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。
- 11 セットアップユーティリティを終了し、システムを再起動します。
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ハードドライブ付属のマニュアルを参照してください。

ケーブル接続式ハードドライブをハードドライブブラケットから取り外す方法

ハードドライブブラケットの側面を左右に開いてブラケットをハードドライブから外し、ハードドライブを取り出します。図 3-11 を参照してください。

図 3-11 ケーブル接続式ハードドライブのハードドライブブラケットからの取り外しまたは取り付け



- | | | | |
|---|---------|---|--------------|
| 1 | ハードドライブ | 2 | ハードドライブブラケット |
| 3 | タブ (2) | | |

オプティカルドライブとテープドライブ

システム前面の 5.25 インチドライブベイには、オプティカルドライブ 1 台、およびオプションのテープドライブ 1 台またはセカンドオプティカルドライブを取り付けることができます。

オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外し

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

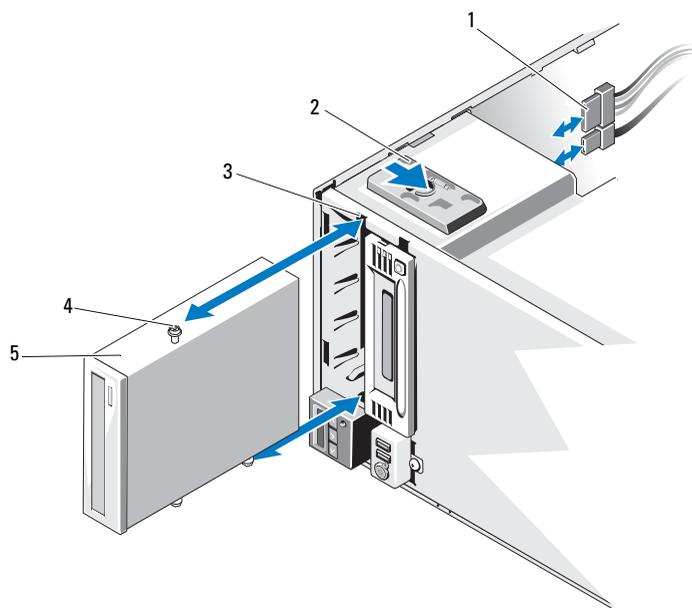
- 1 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- 2 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 電源ケーブルとデータケーブルをドライブの背面から取り外します。図 3-12 を参照してください。
- 5 ドライブリリースラッチを矢印の方向にスライドさせて肩付きネジを外し、ドライブをベイから引き出します。図 3-12 を参照してください。
- 6 ベイに別のドライブを取り付ける場合は、107 ページの「オプティカルドライブまたはテープドライブの取り付け」を参照してください。

ドライブを取り外したままにする場合は、次のいずれかを行います。

- a EMI フィラーパネルを空のドライブベイに取り付けます。89 ページの「EMI フィラーパネルの取り付け」を参照してください。
- b 前面ベゼルカバーを前面ベゼルに取り付けます。87 ページの「前面ベゼルカバーの取り付け」を参照してください。

- 7 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 8 システムを平らな面に縦置きにします。
- 9 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 10 システムと周辺機器の電源を入れます。

図 3-12 オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外しと取り付け



- | | |
|------------------|---------------|
| 1 電源ケーブルとデータケーブル | 2 ドライブリリースラッチ |
| 3 ドライブベイネジスロット | 4 肩付きネジ (3) |
| 5 オプティカルドライブ | |

オプティカルドライブまたはテープドライブの取り付け

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 ドライブをパッケージから取り出して、取り付けの準備をします。手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

SAS テープドライブを取り付けるには、内蔵 SAS ストレージコントローラカードを取り付ける必要があります。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。

SCSI テープドライブを取り付けるには、SCSI コントローラカードを取り付ける必要があります。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。

テープドライブに付属のマニュアルと次のガイドラインに従ってテープドライブを設定してください。

 **メモ**：SCSI ホストアダプタに接続する各デバイスには、一意の SCSI ID 番号が必要です（ナロー SCSI デバイスは 0～7、ワイド SCSI デバイスは 0～15 の ID を使用します）。SCSI バスに接続している他のデバイスとの競合を避けるために、ドライブの SCSI ID を設定します。SCSI ID のデフォルト設定については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

 **メモ**：SCSI ID 番号を順番に割り当てたり、ID 番号順にデバイスをケーブルに接続したりする必要はありません。

 **メモ**：SCSI ロジックにより、ターミネータは SCSI チェーンの両端の 2 台のデバイスに対しては有効に、その間のすべてのデバイスに対しては無効に設定する必要があります。テープドライブが SCSI コントローラに接続されたデバイスチェーンの最後にくる（またはほかにデバイスがない）場合は、テープドライブのターミネータを有効に設定してください。

- 2 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

- 4 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 5 ドライブを空のベイに取り付けるには、次の手順を実行します。
 - a EMI フィラーパネルを取り外します。88 ページの「EMI フィラーパネルの取り外し」を参照してください。
 - b 前面ベゼルカバーを取り外します。86 ページの「前面ベゼルカバーの取り外し」を参照してください。

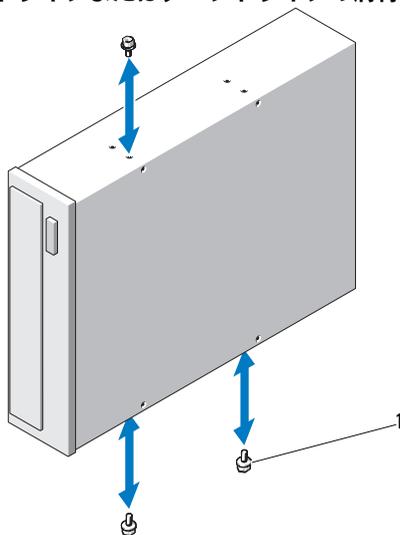
オプティカルドライブまたはテープドライブが装着されているベイに新しいドライブを取り付ける場合は、105 ページの「オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外し」を参照してください。

- 6 ドライブに 3 本の肩付きネジを取り付けます。1 本は右側下の前面ネジ穴に、2 本は左側下のネジ穴に取り付けてください。
図 3-13 を参照してください。



メモ：取り付けるオプティカルドライブまたはテープドライブに肩付きネジがない場合は、5.25 インチ前面ベゼルカバーの背面、またはこれまで使用していたドライブから 3 本の肩付きネジを外して使用します。

図 3-13 オプティカルドライブまたはテープドライブの肩付きネジの取り付け



1 肩付きネジ (3)

- 7 システムの前面で、肩付きネジをシャーシ内のスロットに合わせ、肩付きネジが所定の位置に収まるまで、ドライブをドライブベイに挿入します。図 3-12 を参照してください。
- 8 電源ケーブルとデータケーブルをドライブに接続します。
- 9 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。
- 10 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 11 システムを平らな面に縦置きにします。
- 12 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 13 システムと周辺機器の電源を入れます。
- 14 システム診断プログラム（オプション）を実行して、ドライブをテストします。185 ページの「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

電源ユニット

お使いのシステムは次の電源ユニットモジュールをサポートしています。

- 375 W（非冗長電源ユニット）
- 400 W（冗長電源ユニット）

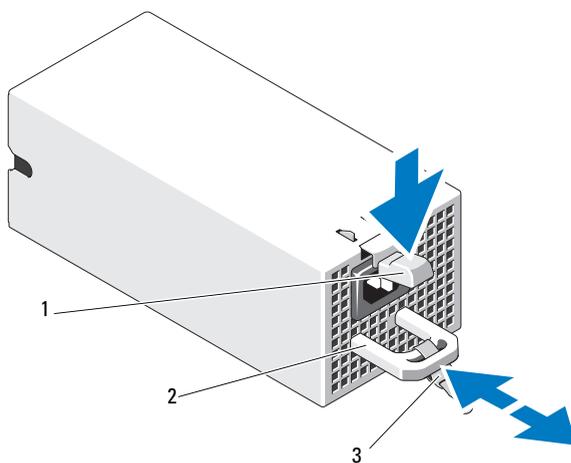
電源ユニットを2台取り付ける場合、2台目の電源ユニットはホットスワップ対応の冗長電源となります。冗長モードでは、効率を最大限に高めるために両方の電源ユニットに電力負荷が分散されます。システムの電源が入った状態で1台の電源ユニットを取り外すと、もう1台の電源ユニットが電力負荷をすべて引き受けます。

冗長電源ユニットの取り外し

 **注意**：システムが正常に動作するには、電源ユニットが1台は必要です。冗長電源が装備されたシステムでも、電源が入った状態で一度に取り外し、取り付けができる電源ユニットは、1台だけです。

- 1 電源ユニットから電源ケーブルを外します。
- 2 リリースラッチを押し、電源ユニットをシャーシから引き出します。
図 3-14 を参照してください。

図 3-14 冗長電源ユニットの取り外しと取り付け



- 1 リリースラッチ
- 2 電源ユニットのハンドル
- 3 ベルクロストラップ

冗長電源ユニットの取り付け

- 1 両方の電源ユニットのタイプと最大出力電力が同じであることを確認します。
 - **メモ**：最大出力電力（ワット数で表記）は電源ユニットラベルに記載されています。
- 2 電源ユニットが取り付けられているベイに別の電源ユニットを取り付ける場合は、110 ページの「冗長電源ユニットの取り外し」を参照してください。
- 3 新しい電源ユニットをシャーシに挿入し、完全に固定されてリリースラッチがカチッとロックするまで押し込みます。

- 4 電源ケーブルを電源ユニットに接続し、電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。

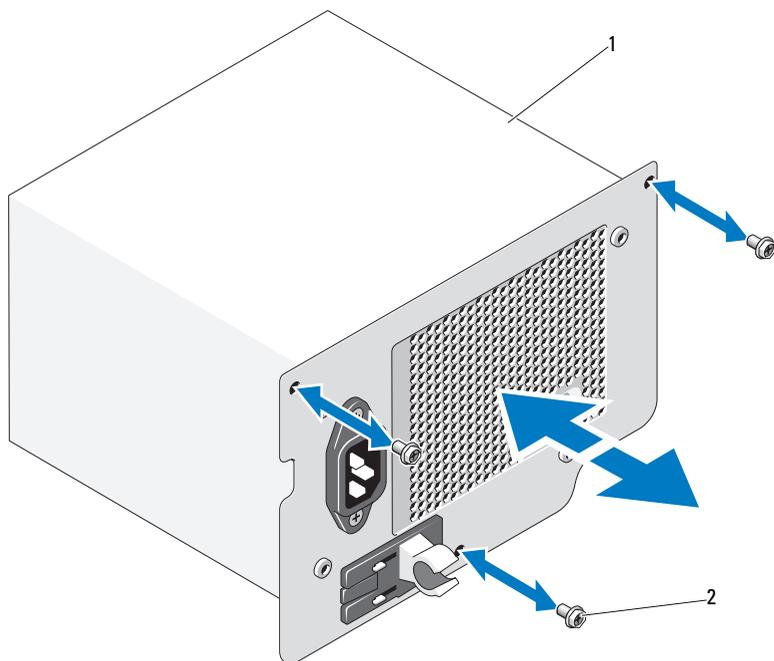
 **注意**：電源ケーブルを接続する際には、ケーブルをベルクロストラップで固定してください。

 **メモ**：2台の電源ユニットがあるシステムに新しい電源ユニットの通常の取り付けや、ホットスワップまたはホットアッドによって交換または取り付けを行う際には、システムが電源を認識して状態を判断するまで数秒待ちます。電源ユニットのステータスインジケータが緑色に点灯して、電源ユニットが正常に機能していることを示します（図 1-4 を参照）。

非冗長電源ユニットの取り外し

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切ります。
- 2 電源ユニットから電源ケーブルを外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 電源ユニットからシステム基板、ハードドライブ、オプティカルドライブに接続されているケーブルをすべて外します。
- 5 電源ユニットをシャーシに固定している 3 本のネジを緩め、電源ユニットを持ち上げてシャーシから取り外します。図 3-15 を参照してください。

図 3-15 非冗長電源ユニットの取り外しと取り付け



1 非冗長電源ユニット 2 ネジ (3)

非冗長電源ユニットの取り付け

- 1 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 2 電源ユニットをシャーシ内に置きます。3 本のネジを締めて電源ユニットをシャーシに固定します。
- 3 すべてのケーブルをシステム基板とドライブに接続します。
- 4 システムカバーを取り付けます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 5 システムを平らな面に縦置きにします。
- 6 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 7 システムと周辺機器の電源を入れます。

システムファン

システムファンの取り外し

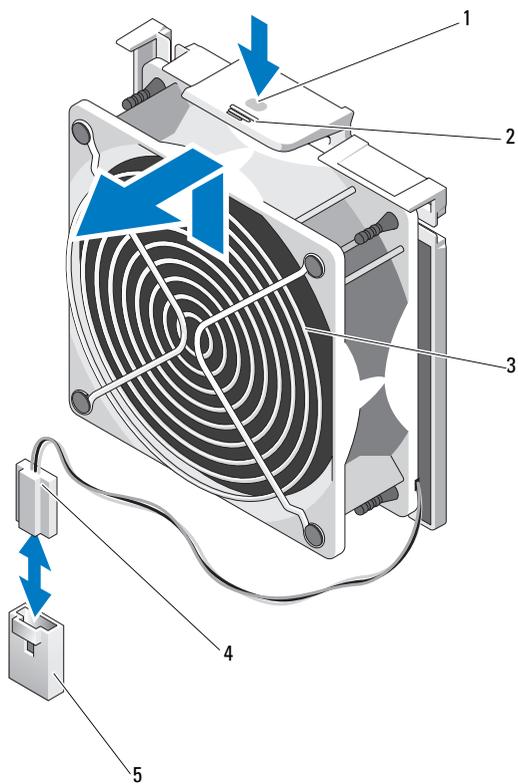
 **警告：** システムファンは、システムの電源を切った後もしばらくは回転し続けることがあります。システムからの取り外し作業は、ファンの回転が止まるのを待ってから行ってください。

 **警告：** システムファンを取り外した状態でシステムを使用しないでください。

 **注意：** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 システムファン電源ケーブルをシステム基板から外します。
図 3-16 を参照してください。
- 6 ファンリリースタブを押して、ファンをシャーシの固定スロットから引き出します。図 3-16 を参照してください。

図 3-16 システムファンの取り外し



- | | | | |
|---|-------------------|---|--------|
| 1 | タッチポイント | 2 | リリースタブ |
| 3 | システムファン | 4 | 電源ケーブル |
| 5 | システム基板上的 FAN コネクタ | | |

システムファンの取り付け

- 1 システムファンのタブをシャーシの固定スロットに合わせます。
- 2 リリースタブが所定の位置にロックされるまで、システムファンを固定スロットに挿入します。
- 3 システムファンの電源ケーブルをシステム基板に接続します。
- 4 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 5 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 6 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 7 システムを平らな面に縦置きにします。
- 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

システムメモリ

お使いのシステムは、DDR3 レジスタ DIMM (RDIMM) またはバッファなし ECC DIMM (UDIMM) をサポートしています。シングルランクとデュアルランクの DIMM は 1067 MHz または 1333 MHz、クアドランクの DIMM は 800 MHz または 1067 MHz のものが使用できます。

お使いのシステムは、シングルチャンネルモードとデュアルチャンネルモードに対応しています。

お使いのシステムには合計 6 個のメモリソケットが装備されています。UDIMM はシングルランクとデュアルランクの DIMM をサポートしています。クアドランクの DIMM をサポートしているのは RDIMM のみです。

お使いのシステムでサポートされる最大メモリは、使用するメモリモジュールのタイプとサイズによって左右されます。

- サイズが 2 GB、4 GB、8 GB のシングルランクおよびデュアルランクの RDIMM で、合計 64 GB まで。
- クアドランクの RDIMM で、合計 32 GB まで。
- 1 GB および 2 GB の UDIMM で、合計 8 GB まで。

メモリモジュール取り付けのガイドライン

システムの最適なパフォーマンスを実現するには、システムメモリを構成する際に以下の一般的なガイドラインに従ってください。



メモ：ガイドラインから外れたメモリ構成では、システムが起動しなかったり、ビデオが出力されない場合があります。

- RDIMM と UDIMM を混在させることはできません。
- 使用しないメモリチャンネルを除いて、メモリモジュールを装着するメモリチャンネルは、すべて同一の構成にする必要があります。
- A1 ～ A3 または B1 ～ B3 の中に異なるサイズのメモリモジュール（たとえば 2 GB と 4 GB）を混在させることはできますが、メモリモジュールを装着するチャンネルはすべて同一の構成にする必要があります。
- 各チャンネルのメモリ速度は、メモリ構成によって左右されます。
 - シングルまたはデュアルランクのメモリモジュールの場合は、次のとおりです。
 - 各チャンネルの 1 枚のメモリモジュールは 1333 MHz までをサポートします。
 - 各チャンネルの 2 枚のメモリモジュールは 1333 MHz までをサポートします。
 - 各チャンネルの 3 枚のメモリモジュールは 800 MHz までをサポートします。
 - クアッドランクのメモリモジュールの場合は、次のとおりです。
 - 各チャンネルの 1 枚のメモリモジュールは 1067 MHz までをサポートします。
 - チャンネルごとの 2 枚のメモリモジュールは、メモリモジュール自体の速度に関係なく、800 MHz までに制限されます。
- クアッドランクのメモリモジュールをシングルまたはデュアルランクのモジュールと混在させる場合、クアッドランクのモジュールは白色のリリースレバーが付いたソケットに取り付ける必要があります。
- 速度の異なるメモリモジュールを取り付けた場合は、取り付けられているメモリモジュールのうちで最も遅いものの速度で動作します。

モードごとのガイドライン

各チャンネルが最大 3 枚の RDIMM と 2 枚の UDIMM をサポートする 2 つのメモリチャンネルがあります。

本項で説明したメモリのガイドラインに則したメモリの構成例を表 3-1 および表 3-2 に示します。表中には、同一のメモリモジュール構成およびその物理メモリと使用可能なメモリの合計が示されています。混在構成やクアドランクメモリモジュールの構成については記載されておらず、どの構成についても、メモリ速度に関する注意点は取り扱われていません。

表 3-1 RDIMM メモリ構成の例

| メモリ モジュールのサイズ | メモリソケット | | | | | | プロセッサ | |
|---------------|---------|---|---|---|---|---|------------|---------------|
| | 1 | 3 | 5 | 2 | 4 | 6 | 物理メモリ (GB) | 使用可能なメモリ (GB) |
| 1 GB | ✓ | | | | | | 1 | すべて |
| | ✓ | | | ✓ | | | 2 | |
| | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 4 | |
| | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 6 | |
| 2 GB | ✓ | | | | | | 2 | すべて |
| | ✓ | | | ✓ | | | 4 | |
| | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 8 | |
| | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | 12 | |
| 4 GB | ✓ | | | ✓ | | | 8 | すべて |
| | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 16 | |
| 8 GB | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 32 | すべて |

表 3-2 UDIMM メモリ構成の例

| メモリモジュールのサイズ | メモリソケット | | | | | | プロセッサ | |
|--------------|---------|---|---|---|---|---|------------|---------------|
| | 1 | 3 | 5 | 2 | 4 | 6 | 物理メモリ (GB) | 使用可能なメモリ (GB) |
| 1 GB | ✓ | | | | | | 1 | すべて |
| | ✓ | | | ✓ | | | 2 | |
| | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 4 | |
| 2 GB | | | | | | | | すべて |
| | ✓ | | | ✓ | | | 4 | |
| | ✓ | ✓ | | ✓ | ✓ | | 8 | |

メモリモジュールの取り付け

⚠ 警告：メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持ちます。メモリモジュールのコンポーネントには指を触れないでください。

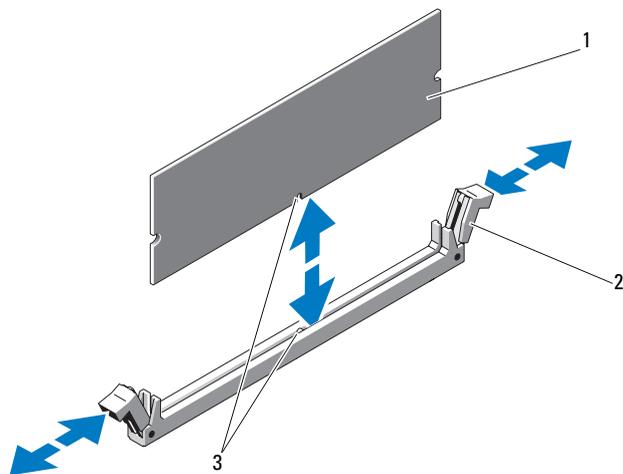
△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

△ 注意：システムの正常な冷却状態を維持するために、メモリモジュールを取り付けないメモリソケットには必ずメモリモジュールのダミーカードを取り付ける必要があります。メモリモジュールのダミーカードは、それらのソケットにメモリを取り付ける場合にのみ取り外してください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。

- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 メモリモジュールソケットの位置を確認します。図 6-1 を参照してください。
- 6 メモリモジュールを取り付ける予定のソケットからメモリモジュールのダミーカードを取り外します。
- 7 メモリモジュールのダミーカードがソケットから飛び出して外れるまで、ソケットの両側にあるイジェクタを押し開きます。図 3-17 を参照してください。
メモ：取り外したメモリモジュールのダミーカードは、将来使用するために必ず取っておきます。
- 8 図 3-17 に示すように、メモリモジュールソケットのイジェクタを押し開くと、ソケットにメモリモジュールを挿入できます。
- 9 メモリモジュールはカードの端のみを持ちます。端以外の部分には絶対に触れないでください。

図 3-17 メモリモジュールの取り付けと取り外し



- | | | | |
|---|----------|---|------------------------|
| 1 | メモリモジュール | 2 | メモリモジュールソケットのイジェクタ (2) |
| 3 | 位置合わせキー | | |

- 10 メモリモジュールソケットの位置合わせキーにメモリモジュールのエッジコネクタを合わせ、ソケットにメモリモジュールを差し込みます。



メモ：メモリモジュールソケットには位置合わせキーがあり、メモリモジュールは一方方向にしか取り付けられません。

- 11 親指でメモリモジュールを押し下げて、メモリモジュールをソケットにしっかりとはめ込みます。

メモリモジュールがソケットに適切に取り付けられると、メモリモジュールソケットのイジェクトがメモリモジュールが装着されている別のソケットのイジェクトと同じ位置に揃います。

- 12 手順 8 ～ 手順 11 を繰り返して、残りのメモリモジュールを取り付けます。表 3-1 および 表 3-2 を参照してください。
- 13 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 14 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 15 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 16 システムを平らな面に縦置きにします。
- 17 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 18 システムを起動し、<F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、メインのシステムセットアップ画面の **System Memory** (システムメモリ) 設定を確認します。
システムは新しく増設したメモリを認識して値を変更済みです。
- 19 値が正しくない場合、1 枚または複数のメモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。手順の手順 2 から手順 18 を繰り返して、メモリモジュールがソケットにしっかりと装着されていることを確認します。
- 20 システム診断プログラムでシステムメモリのテストを実行します。185 ページの「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

メモリモジュールの取り外し

 **警告：**メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持ちます。メモリモジュールのコンポーネントには指を触れないでください。

 **注意：**修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意：**システムの正常な冷却状態を維持するために、メモリモジュールを取り付けないメモリソケットには必ずメモリモジュールのダミーカードを取り付ける必要があります。メモリモジュールのダミーカードは、それらのソケットにメモリを取り付ける場合のみ取り外してください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 メモリモジュールソケットの位置を確認します。図 6-1 を参照してください。
- 6 メモリモジュールがソケットから飛び出して外れるまで、ソケットの両側にあるイジェクトアームを押し開きます。図 3-17 を参照してください。

メモリモジュールはカードの端のみを持ちます。端以外の部分には絶対に触れないでください。

 **メモ：**メモリモジュールを取り付けない場合は、ソケットにメモリモジュールのダミーカードを挿入します。

- 7 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。

- 8 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 9 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 10 システムを平らな面に縦置きにします。
- 11 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 12 システムと周辺機器の電源を入れます。

拡張カード

拡張カードの取り付けガイドライン

お使いのシステムには PCIe Generation 2 拡張カードを 5 枚取り付けることができます。拡張スロットの位置を確認するには、図 6-1 を参照してください。

- 拡張スロットには、フルレングス 1 枚、ハーフレングス 4 枚のカードを取り付けることができます。
- 拡張カードスロットはホットスワップには対応していません。

△ 注意：冷却効果を確保するには、2 枚の拡張カードのうち、消費電力が 15 W を超えるものは 1 枚のみ (25 W まで) としてください。

- サイズが適合して冷却効果が確保されるように拡張カードを取り付けるためのガイドを表 3-3 に示します。表に示すスロットの優先順位に従って、優先度の最も高い拡張カードを最初に取り付ける必要があります。その他すべての拡張カードは、カードの優先順位とスロットの優先順位に従って取り付けてください。

表 3-3 拡張カードの取り付けの優先順位

| カードの優先順位 | カードのタイプ | スロットの優先順位 | 可能な枚数 | 25 W のカード |
|----------|---------------------------------------|-----------|-------|-----------|
| 1 | PERC 6/i アダプタ | 1 | 1 | 可 |
| 2 | S300 アダプタ | 1, 2 | 1 | 可 |
| 3 | SAS 6/iR | 1, 2 | 1 | 可 |
| 4 | SAS 5/iR | 3, 1 | 1 | 可 |
| 5 | PERC 6/E 256 | 1, 2, 3 | 2 | 可 |
| 6 | PERC 6/E 512 | 1, 2, 3 | 2 | 可 |
| 7 | SAS 5/E | 1, 2, 3 | 2 | 可 |
| 8 | その他すべての NIC | 3, 1, 2 | 3 | 不可* |
| 9 | Dell 以外のストレージカード | 1 | 1 | 不可* |
| 10 | Intel PRO/1000PT 1G Cu シングルポート NIC | 4, 5, 3 | 3 | 不可* |

* 拡張カードのマニュアルを参照して、最大電力が 15 W を超えないことを確認してください。15 W を超えるカードはすべて、1 枚に制限されている 25 W カードとしてカウントされます。

拡張カードの取り付け

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ:** 拡張カードの取り付けは、必ず「拡張カードの取り付けガイドライン」を参照してから行ってください。

- 1 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 新たにカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外します。

- 5 スロットに隣接する拡張カードラッチを開きます。図 3-18 を参照してください。



メモ：このブラケットは、拡張カードを取り外す場合に備えて保管しておいてください。FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空の拡張カードスロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける働きもあります。

- 6 取り付けるカードを準備します。

カードの設定、内部の接続、またはシステムに合わせたカスタマイズなどの情報については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

- 7 フルレングスの拡張カードを取り付ける場合は（スロット 2）、カードの端を拡張カードガイドに通します。

- 8 カードをシステム基板の拡張カードコネクタに挿入し、しっかりと押し下げます。カードの金属製タブが拡張カードのタブスロットに挿入されていることを確認します。図 3-18 を参照してください。

- 9 拡張カードラッチを閉じて、カードをシステム内で固定します。



注意：カードケーブルは、カードの上や後ろ側に配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、システムカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与えたりするおそれがあります。

- 10 新しいカードの拡張カードケーブルをすべて接続します。

ケーブルの接続については、拡張カードに付属のマニュアルを参照してください。

- 11 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。

- 12 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。

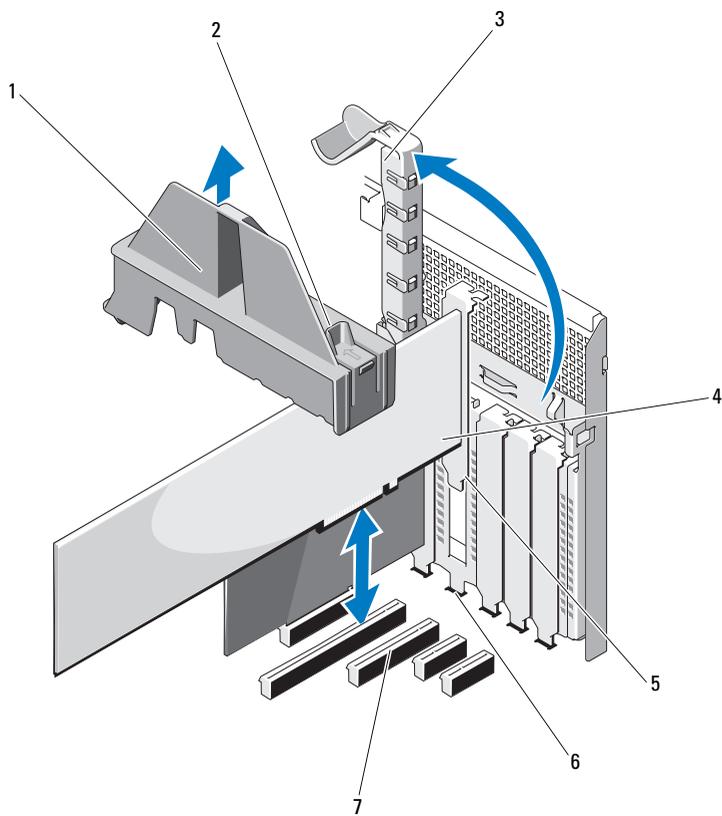
- 13 システムを平らな面に縦置きにします。

- 14 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。

- 15 システムと周辺機器の電源を入れます。

- 16 カードのマニュアルに従って、必要なすべてのデバイスドライバをインストールします。

図 3-18 拡張カードの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|-------------|---|-------------------------|
| 1 | 拡張カードスタビライザ | 2 | 拡張カードスタビライザのタッチポイント (2) |
| 3 | 拡張カードラッチ | 4 | 拡張カード |
| 5 | 拡張カードタブ | 6 | 拡張カードのタブスロット |
| 7 | 拡張カードコネクタ | | |

拡張カードの取り外し

 **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 拡張カードに接続されているケーブルをすべて外します。
- 5 スロットに隣接する拡張カードラッチを開きます。図 3-18 を参照してください。
- 6 拡張カードの上の角をつまんで、拡張カードコネクタから慎重に取り外します。
- 7 カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィルターブラケットを取り付けます。

 **メモ**：FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空の拡張カードスロットにフィルターブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける働きもあります。

- 8 スロットに隣接する拡張カードラッチを閉じます。図 3-18 を参照してください。
- 9 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 10 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 11 システムを平らな面に縦置きにします。
- 12 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 13 システムと周辺機器の電源を入れます。
- 14 カードのデバイスドライバを OS から削除します。

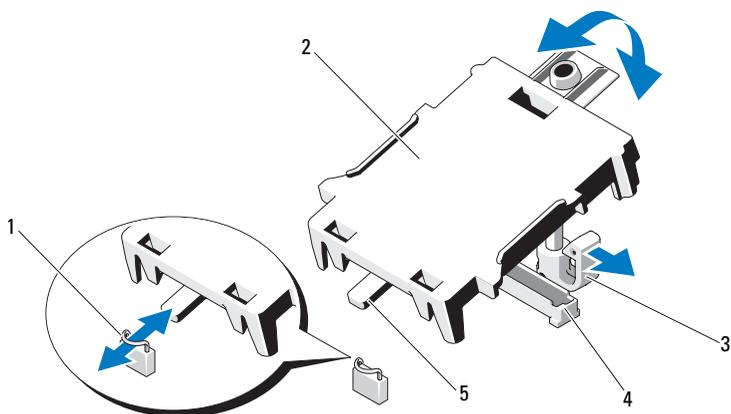
iDRAC6 Express カード（オプション）

iDRAC6 Express カードの取り付け

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 iDRAC6（Integrated Dell Remote Access Controller 6）Express カードの切り込みをシステム基板上のクリップに挿入します。
- 4 カードの前端をシステム基板上のコネクタに合わせます。コネクタの位置については、図 3-19 を参照してください。
- 5 完全に装着されるまで、カードを押し下げます。図 3-19 を参照してください。カードの前端が所定の位置に収まると、プラスチック製の突起タブがホルダの前端部にカチッとハマります。

図 3-19 iDRAC6 Express カード (オプション) の取り付けまたは取り外し



- | | | | |
|---|-------------|---|------------------------|
| 1 | クリップ | 2 | iDRAC6 Express カード |
| 3 | 保持突起タブのクリップ | 4 | iDRAC6 Express カードコネクタ |
| 5 | 切り込み | | |
- 6 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
 - 7 システムを安定した平面に縦置きにします。
 - 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
 - 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

iDRAC6 Express カードの取り外し（オプション）

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 カードの前端にある保持突起タブをわずかに後方へ引き、カードを保持突起から注意深く外します。図 3-19 を参照してください。ホルダが突起から外れると、カードの下のコネクタがシステム基板コネクタから外れます。
- 4 カードの切り込みがシステム基板上のクリップに入るような角度にカードを傾けます。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムを平らな面に縦置きにします。
- 7 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 8 システムと周辺機器の電源を入れます。

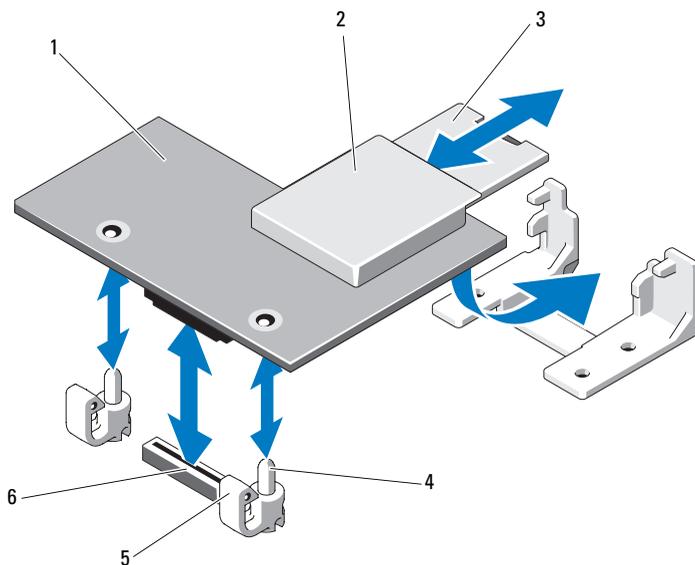
iDRAC6 Enterprise カード（オプション）

iDRAC6 Enterprise カードの取り付け

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 iDRAC6 Enterprise ポートのプラスチック製フィルタープラグをシステムの背面パネルから取り外します。
- 6 RJ-45 コネクタが背面パネルの開口部に入る角度にカードを傾けます。図 3-20 を参照してください。
- 7 システム基板上の iDRAC6 Enterprise コネクタの横にある前側のプラスチック製保持突起（2 つ）にカードの前端を合わせ、カードを挿入します。図 3-20 を参照してください。
- 8 カードの前端が所定の位置に収まると、プラスチック製の突起がカードの前端部にカチッとハマります。

図 3-20 iDRAC6 Enterprise カード (オプション) の取り付けまたは取り外し



- | | | | |
|---|-----------------------|---|---------------------------|
| 1 | iDRAC6 Enterprise カード | 2 | VFlash メディアスロット |
| 3 | VFlash SD カード | 4 | 保持突起ポスト (2) |
| 5 | 保持突起タブ (2) | 6 | iDRAC6 Enterprise カードコネクタ |

- 9 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 10 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 11 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 12 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 13 システムと周辺機器の電源を入れます。

iDRAC6 Enterprise カードの取り外し

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システム背面パネルの iDRAC6 Enterprise カードコネクタにイーサネットケーブルが接続されている場合は、外します。図 1-3 を参照してください。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 5 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 6 VFlash メディアカードが取り付けられている場合は、iDRAC6 Enterprise カードから取り外します。
- 7 カードの前端にある 2 つのタブをわずかに後方へ引き、カードの前端を保持突起から慎重に外します。
- 8 カードが突起から外れると、カードの下のコネクタがシステム基板コネクタから外れます。RJ-45 コネクタが背面パネルから完全に離れるまで、システムの背面からカードを引き抜き、システムから取り出します。
- 9 システムの背面パネルのポートにプラスチック製フィルタープラグを取り付けます。ポートの位置については、20 ページの「背面パネルの機能およびインジケータ」を参照してください。
- 10 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 11 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。

- 12 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 13 システムを平らな面に縦置きにします。
- 14 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 15 システムと周辺機器の電源を入れます。

VFlash メディア（オプション）

VFlash メディアは、オプションの iDRAC6 Enterprise カードと併用して使用できる SD カードです。

VFlash メディアの取り付け

- 1 システム背面にある VFlash メディアスロットの位置を確認します。メディアスロットの位置については、20 ページの「背面パネルの機能およびインジケータ」を参照してください。
- 2 ラベル側を上に向けて、SD カードの接続ピン側をモジュールのカードスロットに挿入します。
 **メモ：**スロットは正しい方向にしかカードを挿入できないように設計されています。
- 3 カードを押し込んでスロットに固定します。

VFlash メディアの取り外し

VFlash メディアを取り出すには、カードを押し込んでロックを解除し、カードスロットから引き出します。

内蔵 USB メモリキー

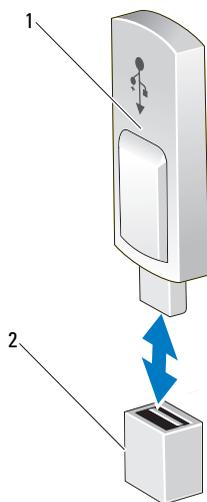
システム内部に取り付けられている USB メモリキーは、起動デバイス、セキュリティキー、または大容量ストレージデバイスとして使用できます。USB コネクタは、セットアップユーティリティの **Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面にある **Internal USB Port** (内蔵 USB ポート) オプションで有効にする必要があります。

USB メモリキーから起動するには、起動イメージを使用して USB メモリキーを設定し、セットアップユーティリティの起動順序で USB メモリキーを指定してください。

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 システム基板上の USB コネクタの位置を確認します。図 6-1 を参照してください。
- 4 USB コネクタに USB メモリキーを挿入します。図 3-21 を参照してください。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムを平らな面に縦置きにします。
- 7 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 8 システムと周辺機器の電源を入れます。
- 9 セットアップユーティリティを起動し、USB キーがシステムによって検出されたことを確認します。58 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。

図 3-21 USB メモリキーの取り外しまたは取り付け



1 USB メモリキー

2 USB メモリキーコネクタ

プロセッサ

プロセッサの取り外し

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムをアップグレードする前に、**support.dell.com** から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。
- 2 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。システムを AC 電源から外したら、電源ボタンを 3 秒間押し続け、残っている電気を排出してからカバーを取り外します。



メモ: システム内部のコンポーネントの取り外しや取り付けを行う際には、静電マットと静電ストラップを常に使用することをお勧めします。

- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 5 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。



警告: ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。

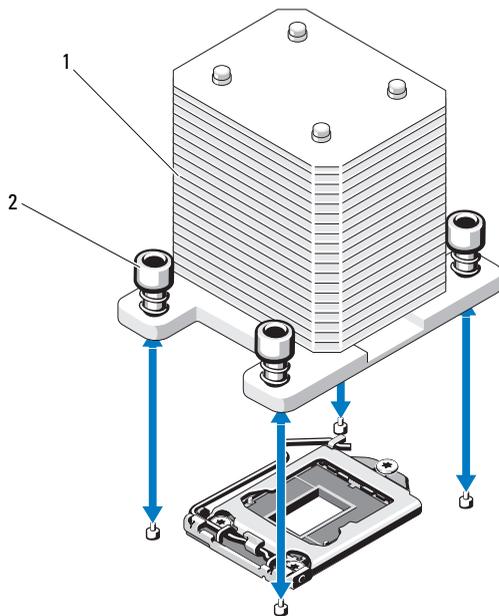


注意: プロセッサを取り外すこと以外の目的で、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要な部品です。

- 6 #2 プラスドライバを使用して、ヒートシンク固定ネジのうち 1 本を緩めます。図 3-22 を参照してください。
- 7 ヒートシンクとプロセッサの接続が緩むまで、30 秒ほど待ちます。

- 8 手順 6 および 手順 7 を繰り返して、3 本のヒートシンク固定ネジを緩めます。
- 9 ヒートシンクをプロセッサから注意深く持ち上げ、サーマルグリースが付いた側を上にして脇に置いておきます。

図 3-22 ヒートシンクの取り付けと取り外し

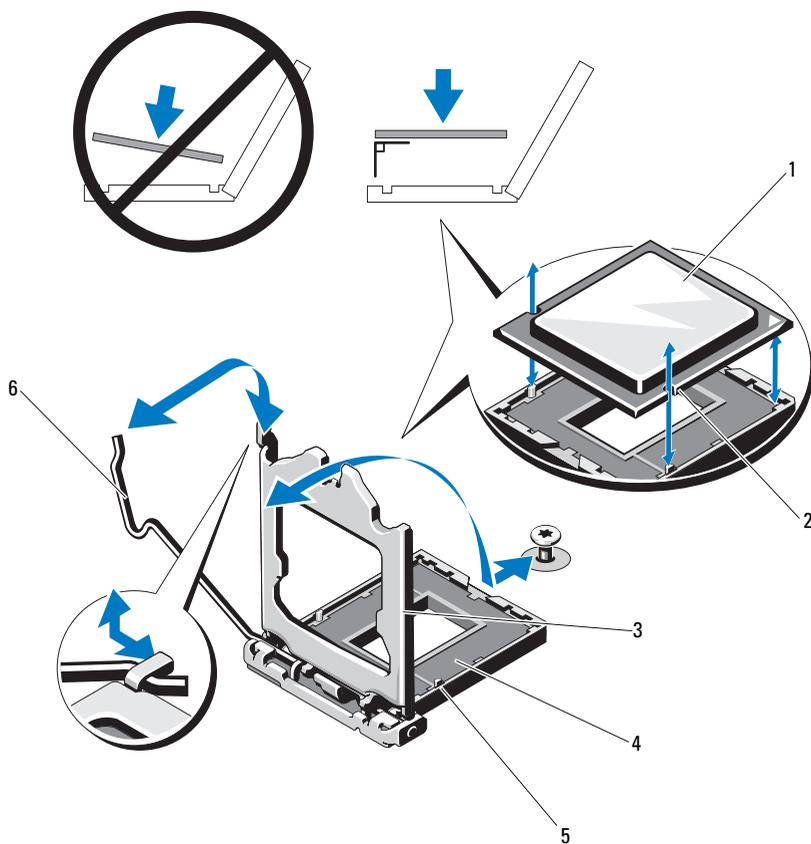


1 ヒートシンク 2 ヒートシンク固定ネジ (4)

△ **注意:** プロセッサは強い圧力でソケットに固定されています。リリースレバーはしっかりつかんでいないと突然跳ね上がるおそれがありますので、ご注意ください。

- 10 プロセッサのソケットリリースレバーを親指で押し下げてタブの下から引き出し、レバーをロック位置から外します。レバーを上方向に 90 度持ち上げて、プロセッサをソケットから外します。図 3-23 を参照してください。
- 11 プロセッサシールドのタブを持ち、シールドを上方向に開いて、プロセッサが取り出せる状態にします。図 3-23 を参照してください。

図 3-23 プロセッサの取り外し



- | | | | |
|---|------------|---|----------------|
| 1 | プロセッサ | 2 | プロセッサの切り込み (2) |
| 3 | プロセッサシールド | 4 | ZIF ソケット |
| 5 | ソケットキー (2) | 6 | ソケットリリースレバー |

△ 注意：プロセッサを取り外す際には、ZIFソケットのピンを曲げないように気をつけてください。ピンを曲げるとシステム基板が破損して修復できない場合があります。

- 12 プロセッサをソケットから慎重に取り外し、ソケットに新しいプロセッサを取り付けられるように、リリースレバーは立てたままにしておきます。
- 13 プロセッサを取り外したら、再利用、返品、または一時的な保管のために、静電気防止パッケージに入れます。
 **メモ：**プロセッサの底部に触れないでください。プロセッサは側面の端以外に触れないでください。プロセッサを取り外したままにする場合は、システムの正常な冷却状態を維持するために、プロセッサのダミーとヒートシンクのダミーを CPU ソケットに取り付ける必要があります。
- 14 ダミーの取り付け方は、プロセッサの取り付けと同様です。
140 ページの「プロセッサの取り付け」を参照してください。

プロセッサの取り付け

- 1 新しいプロセッサをパッケージから取り出します。
- 2 プロセッサを ZIF ソケットのソケットキーに合わせます。
図 3-23 を参照してください。
- 3 プロセッサをソケットに取り付けます。

 **注意：**プロセッサの取り付け位置が間違っていると、システム基板またはプロセッサが完全に損傷してしまうおそれがあります。ソケットのピンを曲げないように注意してください。

- 4 プロセッサソケットのリリースレバーを開いた状態にして、プロセッサをソケットキーに合わせて、ソケットに軽く置きます。

 **注意：**プロセッサは強く押し込まないでください。プロセッサの位置が合っていれば、簡単にソケットに入ります。

- 5 プロセッサシールドを閉じます。
- 6 所定の位置に収まるまで、ソケットリリースレバーを下ろします。
- 7 糸くずの出ないきれいな布で、ヒートシンクからサーマルグリースを拭き取ります。
- 8 プロセッサキットに含まれているグリースパケットを開き、新しいプロセッサの上部にサーマルグリースを均等に塗布します。
- 9 ヒートシンクをプロセッサの上に置きます。図 3-23 を参照してください。

- 10 #2 プラスドライバを使用して、ヒートシンク固定ネジを締めます。
図 3-22 を参照してください。
- 11 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 12 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 13 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 14 システムを平らな面に縦置きにします。
- 15 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 16 システムと周辺機器の電源を入れます。
- 17 <F2> を押し、セットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム設定と一致していることを確認します。58 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。
- 18 システム診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。システム診断プログラムの実行の詳細については、187 ページの「内蔵されたシステム診断プログラムの実行」を参照してください。

システムバッテリー

システムバッテリーは 3.0 V コイン型バッテリーです。

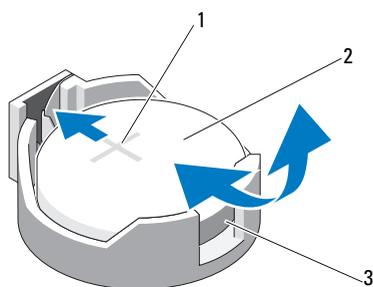
システムバッテリーの交換

 **警告：** バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂するおそれがあります。交換用のバッテリーには、製造元が推奨する型、またはそれと同等の製品を使用してください。詳細については、安全に関する注意事項を参照してください。

 **注意：** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みにし、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。

図 3-24 システムバッテリーの交換



- 1 バッテリーコネクタのプラス (+) 側 2 システムバッテリー
3 バッテリーコネクタのマイナス (-) 側

- 4 スロット 1 から PCIe 拡張カードを取り外します。127 ページの「拡張カードの取り外し」を参照してください。
- 5 バッテリーソケットの位置を確認します。192 ページの「システム基板のコネクタ」を参照してください。

△ **注意:** バッテリーの取り付け、取り外しの際には、バッテリーコネクタが破損しないようにしっかり支えてください。

- 6 コネクタのプラス側をしっかり下に押し、バッテリーコネクタを支えます。
- 7 バッテリーをコネクタのプラス側へ押し、コネクタのマイナス側の固定タブから外します。
- 8 コネクタのプラス側をしっかり押し、新しいバッテリーを取り付けます。

- 9 プラス側を上にしてバッテリーを持ち、コネクタのプラス側にある固定タブの下にスライドさせます。
- 10 所定の位置にカチッと収まるまでバッテリーをコネクタに押し込みます。
- 11 拡張カードを取り付けます。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
- 12 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 13 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 14 システムを平らな面に縦置きにします。
- 15 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 16 システムと周辺機器の電源を入れます。
- 17 セットアップユーティリティを起動して、バッテリーが正常に動作していることを確認します。58 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。
- 18 セットアップユーティリティの **Time** (時刻) および **Date** (日付) フィールドで正しい時刻と日付を入力します。
- 19 セットアップユーティリティを終了します。

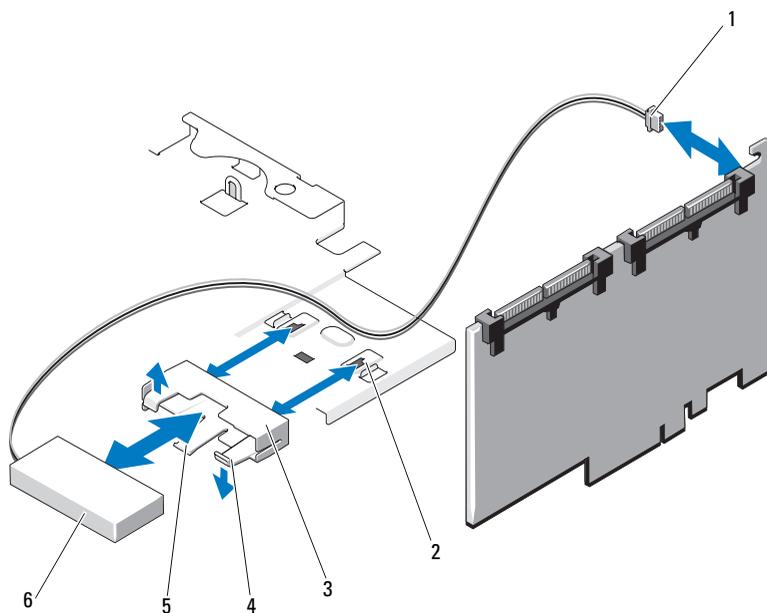
RAID バッテリー（オプション）

RAID バッテリーの取り外し

本項の情報は、オプションの PERC コントローラカードが搭載されたシステムにのみ適用されます。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 ストレージコントローラカードを取り外します。127 ページの「拡張カードの取り外し」を参照してください。
- 5 RAID バッテリーケーブルをストレージカードのコネクタから外すには、RAID バッテリーケーブルコネクタのタブを押し、ケーブルコネクタをストレージカードのコネクタから注意深く引き抜きます。図 3-25 を参照してください。
- 6 バッテリーキャリアリリースタブを引き、バッテリーキャリアを引き上げて、シャーシのバッテリーキャリアスロットから外します。図 3-25 を参照してください。
- 7 RAID バッテリーを固定している 2 つのタブを軽く引いて、RAID バッテリーをバッテリーキャリアから取り出します。図 3-25 を参照してください。

図 3-25 RAID バッテリーの取り付けと取り外し



- | | | | |
|---|-----------------|---|-------------------|
| 1 | バッテリーケーブルコネクタ | 2 | バッテリーキャリアスロット (2) |
| 3 | バッテリーキャリア | 4 | バッテリーキャリアタブ |
| 5 | バッテリーキャリアリリースタブ | 6 | RAID バッテリー |

RAID バッテリーの取り付け

- 1 RAID バッテリーをバッテリーキャリアに挿入します。
図 3-25 を参照してください。
- 2 バッテリーキャリアのタブをシャーシのバッテリーキャリアスロットに合わせます。
- 3 バッテリーキャリアを所定の位置にロックされるまでバッテリーキャリアスロットに挿入します。図 3-25 を参照してください。
- 4 バッテリーケーブルをストレージカードのコネクタに接続し、ストレージコントローラカードを取り付けます。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
- 5 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
- 6 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 7 システムを平らな面に縦置きにします。
- 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

シャーシイントルージョンスイッチ

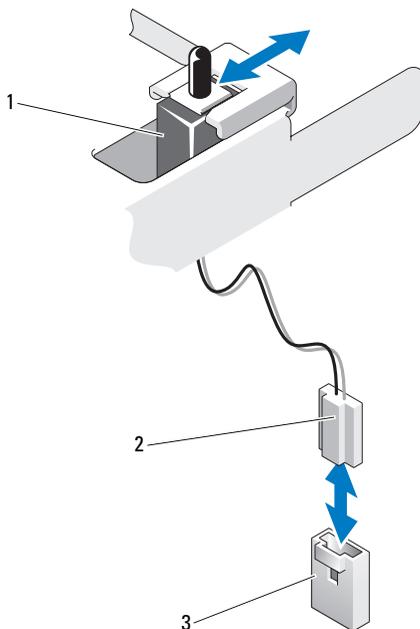
シャーシイントルージョンスイッチの取り外し

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムの電源とシステムに接続されている周辺機器の電源を切って、システムの電源ケーブルをコンセントから抜き、周辺機器に接続されているケーブルも外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

- 3 システム基板上的のネクタからシャーシイントルージョンスイッチケーブルを外します。図 3-26 を参照してください。
- 4 固定ブラケットの切り込みからシャーシイントルージョンスイッチをスライドさせて外します。

図 3-26 シャーシイントルージョンスイッチの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|-----------------------|---|----------------------|
| 1 | シャーシイントルージョンスイッチ | 2 | シャーシイントルージョンスイッチケーブル |
| 3 | システム基板上的のイントルージョンコネクタ | | |

シャーシントラジションスイッチの取り付け

- 1 シャーシントラジションスイッチを固定ブラケットの切り込みに合わせます。図 3-26 を参照してください。
- 2 スイッチを固定ブラケットの切り込みにはめ込みます。図 3-26 を参照してください。
- 3 シャーシントラジションスイッチケーブルをシステム基板上のコネクタに接続します。
- 4 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 5 システムを平らな面に縦置きにします。
- 6 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 7 システムと周辺機器の電源を入れます。

コントロールパネルアセンブリ

コントロールパネルアセンブリの取り外し

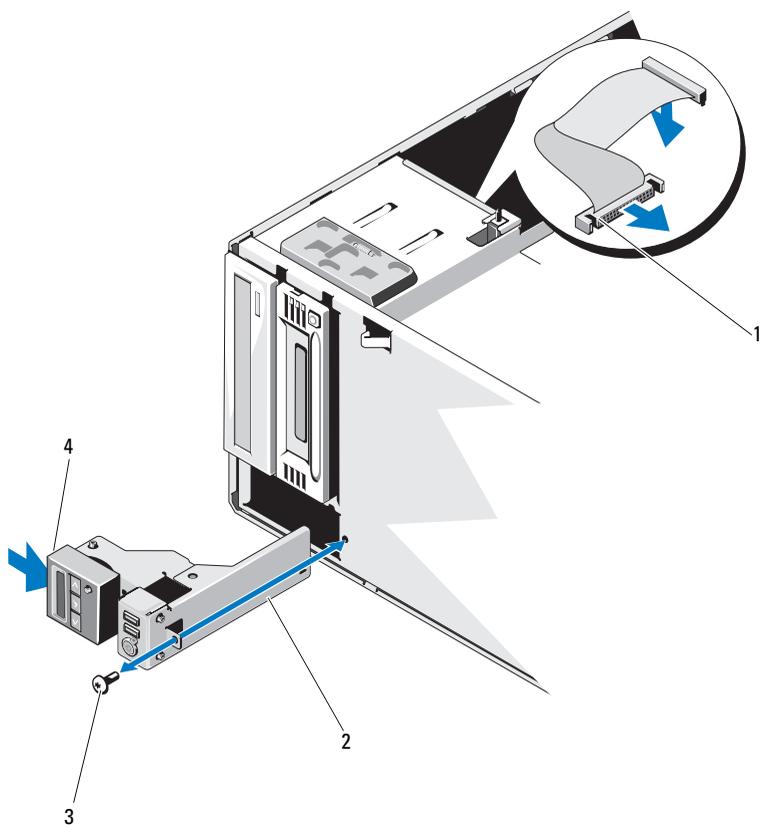
△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 2 システムの電源とシステムに接続されている周辺機器の電源を切って、システムの電源ケーブルをコンセントから抜き、周辺機器に接続されているケーブルも外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

△ **注意**：コネクタを取り外す際にケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが損傷するおそれがあります。

- 4 コントロールパネルアセンブリケーブルをシステム基板上のコネクタから外すには、ケーブルコネクタの両端の金属製タブを押します。図 3-27 を参照してください。
 - 5 コネクタを慎重にソケットから外します。
 - 6 プラスドライバを使用して、コントロールパネルアセンブリをシャーシに固定しているネジを外します。図 3-27 を参照してください。
 - 7 リリースラッチを押し、コントロールパネルをシャーシから引き出します。
- △ **注意：コネクタを取り外す際にケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが損傷するおそれがあります。**
- 8 コントロールパネルケーブルをシステム基板上のコネクタから外すには、ケーブルコネクタの両端の金属製タブを挟むように押します。図 3-27 を参照してください。
 - 9 コネクタを慎重にソケットから外します。

図 3-27 コントロールパネルの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | コントロールパネルケーブル | 2 | コントロールパネルアセンブリ |
| 3 | コントロールパネルネジ | 4 | リリースラッチ |

コントロールパネルアセンブリの取り付け

- 1 コントロールパネルを注意深くシャーシに挿入します。
- 2 コントロールパネルケーブルをコントロールパネルボードに接続します。
- 3 プラスドライバを使用して、コントロールパネルアセンブリをシャーシに固定するネジを取り付けます。
- 4 コントロールパネルアセンブリケーブルをシステム基板に接続します。図 3-27 を参照してください。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムを平らな面に縦置きにします。
- 7 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。
- 8 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 9 システムと周辺機器の電源を入れます。

SAS バックプレーン

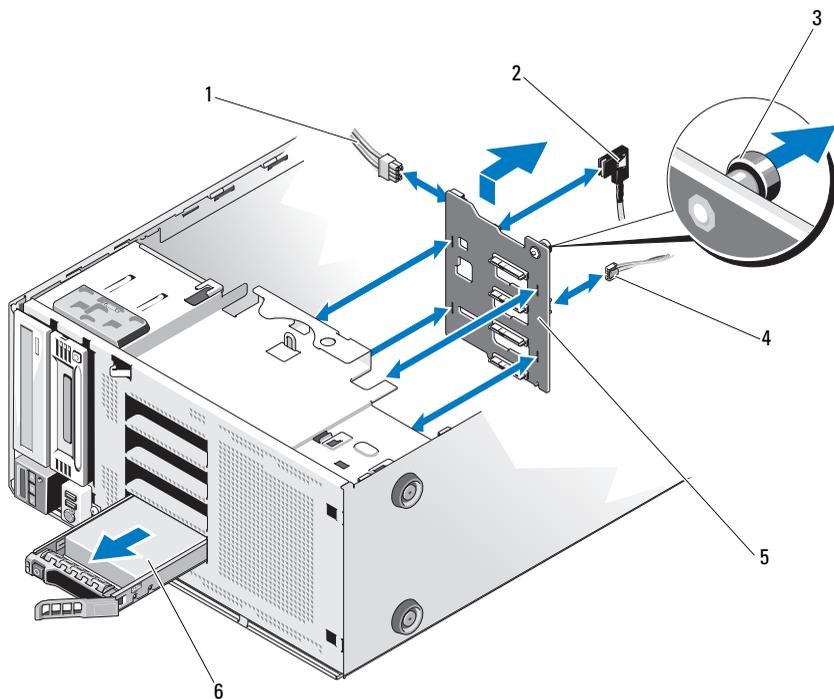
SAS バックプレーンの取り外し

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 前面ベゼルを取り外します。85 ページの「前面ベゼルの取り外し」を参照してください。
- 2 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

- △ 注意：ドライブおよびバックプレーンの損傷を防ぐため、バックプレーンを取り外す前にハードドライブをシステムから取り外す必要があります。
- △ 注意：後で同じ場所に取り付けることができるように、取り外す前に各ハードドライブの番号を書き留め、一時的にラベルを貼っておく必要があります。
- 4 すべてのハードドライブを取り外します。95 ページの「ハードドライブ」を参照してください。
 - 5 3.5 インチハードドライブ用の SAS A ケーブル、SAS B ケーブル、バックプレーン電源ケーブル、およびデータケーブルを含め、SAS バックプレーンに接続されているすべてのケーブルを外します。
図 3-28 を参照してください。
 - 6 SAS バックプレーンを取り外すには、青色のリリースピンを引いてバックプレーンを上方方向にスライドさせます。
 - 7 バックプレーンをシステムの前面から取り外します。固定スロットがシャーシ上のタブから外れるまでバックプレーンを引いてください。

図 3-28 SAS バックプレーンの取り外しと取り付け



- | | | | |
|---|-------------|---|---------------|
| 1 | 電源ケーブル | 2 | SAS A ケーブル |
| 3 | 青色のリリースピン | 4 | J_Planar ケーブル |
| 5 | SAS バックプレーン | 6 | ハードドライブ |

SAS バックプレーンの取り付け

- 1 バックプレーンボード上のコンポーネントに損傷を与えないように注意しながら、バックプレーンをシステムの中に入れます。
- 2 SAS バックプレーン上のスロットをシャーシ上のタブに合わせます。
- 3 リリースピンが所定の位置に固定されるまで、SAS バックプレーンを下方方向にスライドさせます。図 3-28 を参照してください。
- 4 SAS バックプレーンに SAS、データ、および電源ケーブルを接続します。
- 5 SAS、データ、および電源ケーブルをそれぞれのコネクタに接続します。図 3-28 を参照してください。
- 6 ハードドライブを元の場所に取り付けます。98 ページの「ホットスワップ対応ハードドライブの取り付け」を参照してください。
- 7 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 8 前面ベゼルを取り付けます。86 ページの「前面ベゼルの取り付け」を参照してください。
- 9 システムを平らな面に縦置きにします。
- 10 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 11 システムと周辺機器の電源を入れます。

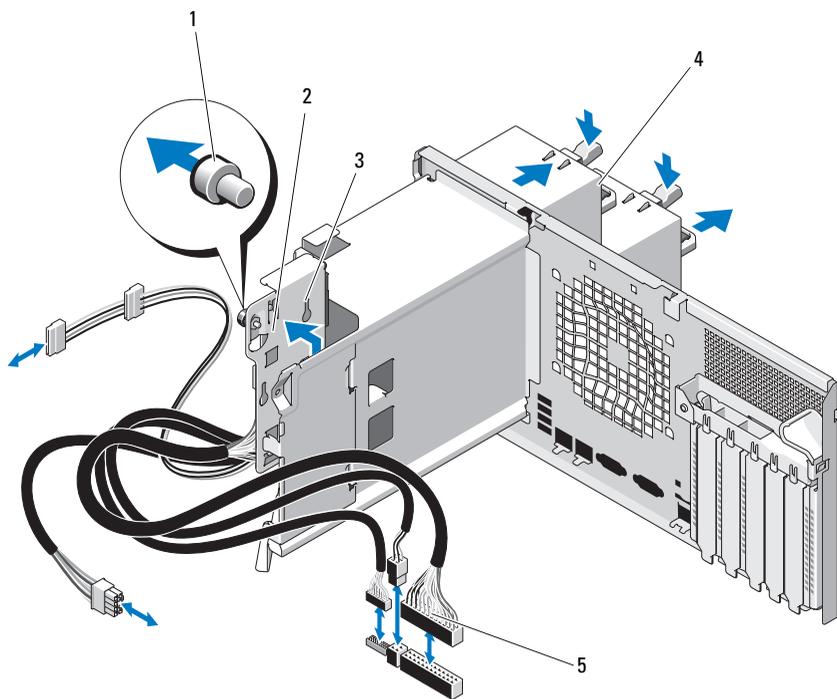
配電基板

配電基板の取り外し

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 電源ユニットを取り外します。110 ページの「冗長電源ユニットの取り外し」および 112 ページの「非冗長電源ユニットの取り外し」を参照してください。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 システム基板に接続されているすべての電源ケーブルを外します。
- 5 配電基板に配線されているケーブルを外します。
- 6 配電基板を取り外すには、青色のリリースピンを引いて配電基板を上方向にスライドさせます。
- 7 配電基板をシャーシから取り外します。配電基板の固定スロットがシャーシ上のタブから外れるまで配電基板を引いてください。

図 3-29 配電基板



- | | | | |
|---|--------------|---|--------------|
| 1 | 青色のリリースピン | 2 | 配電基板 |
| 3 | 固定スロット | 4 | 冗長電源ユニット (2) |
| 5 | 配電基板ケーブル (5) | | |

配電基板の取り付け

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 配電基板上の固定スロットをシャーシ上のタブに合わせます。
- 2 青色のリリースピンが所定の位置にロックされるまで、基板を押し下げます。
- 3 すべての電源ケーブルをシステム基板に接続します。
- 4 電源ユニットを取り付けます。111 ページの「冗長電源ユニットの取り付け」を参照してください。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムを平らな面に縦置きにします。
- 7 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
- 8 システムと周辺機器の電源を入れます。

システム基板

システム基板の取り外し

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

△ 注意：暗号化キーと共に TPM（信頼済みプログラムモジュール）を使用している場合は、プログラムまたはシステムのセットアップ中にリカバリキーの作成を求められることがあります。このリカバリキーは必ず作成し、安全に保管しておいてください。このシステム基板を交換した場合は、システムまたはプログラムの再起動時にリカバリキーを入力しないと、ハードドライブ上の暗号化されたデータにアクセスできません。

- 1 システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 拡張カードスタビライザを取り外します。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り外し」を参照してください。
- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 システム基板からすべてのケーブルを外します。
- 6 取り付けられている場合は、すべての拡張カードおよび接続されているケーブルを取り外します。127 ページの「拡張カードの取り外し」を参照してください。
- 7 iDRAC6 Express カードがある場合は、これを取り外します。130 ページの「iDRAC6 Express カードの取り外し（オプション）」を参照してください。
- 8 iDRAC6 Enterprise カードがある場合は、これを取り外します。133 ページの「iDRAC6 Enterprise カードの取り外し」を参照してください。
- 9 必要に応じて、SAS バックプレーンからケーブルを外します。

- 10 メモリモジュールとメモリのダミーカードをすべて取り外します。122 ページの「メモリモジュールの取り外し」を参照してください。



メモ：メモリモジュールを正しく取り付けなおすことができるように、メモリモジュールソケットの位置を記録しておきます。

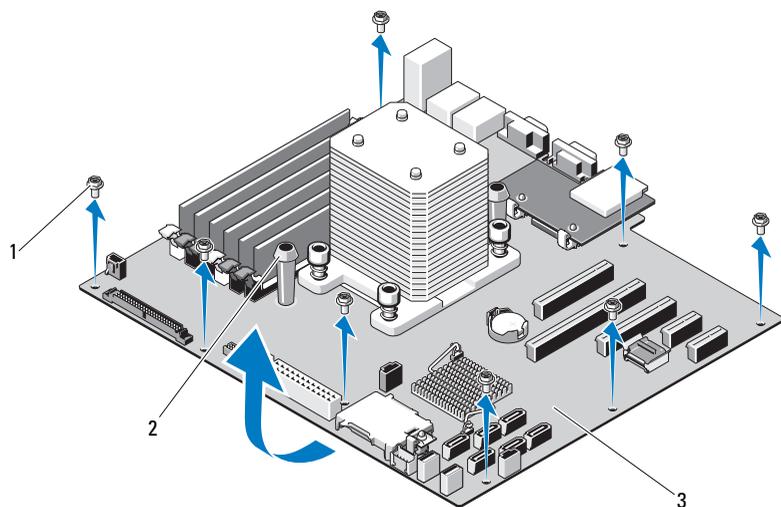
- 11 システムファンを取り外します。114 ページの「システムファンの取り外し」を参照してください。



警告：動作中はヒートシンクが高温になることがあります。やけどをしないように、システムが十分に冷えるのを待ってからシステム基板を取り外してください。

- 12 ヒートシンクとプロセッサを取り外します。137 ページの「プロセッサの取り外し」を参照してください。
- 13 緩んでいるケーブルをシステム基板の端から慎重に外します。
- 14 システム基板を取り外すには、プラスドライバを使用してシステム基板のすべてのネジを外します。図 3-30 を参照してください。
- 15 システム基板の 2 つのタッチポイントを持ち、システム基板をシステムの前面方向にスライドさせます。図 3-30 を参照してください。
- 16 システム基板を持ち上げてシャーシから取り出します。

図 3-30 システム基板の取り外しと取り付け



1 ネジ (8)

2 青色のタッチポイント (2)

3 システム基板

システム基板の取り付け

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 新しいシステム基板を開梱し、プロセッサシールドに貼られているラベルを剥がします。
- 2 剥がしたラベルは、シャーシの前面に貼り付けます。
- 3 システム基板を取り付けるには、システム基板にある青色のタッチポイントを持ちます。
- 4 システム基板のネジ穴をシャーシのネジ穴に合わせ、システム基板をシャーシ内に下ろします。

- 5 システム基板をシステムの後方にスライドさせ、コネクタをシャーシ内の切り欠きに挿入します。
 - 6 プラスドライバーを使用してネジを締めます。
 - 7 必要に応じて、SAS バックプレーンを取り付けます。154 ページの「SAS バックプレーンの取り付け」を参照してください。
 - 8 ヒートシンクとプロセッサを取り付けます。140 ページの「プロセッサの取り付け」を参照してください。
 - 9 システムファンを取り付けます。116 ページの「システムファンの取り付け」を参照してください。
 - 10 メモリモジュールとメモリのダミーカードをすべて取り付けます。119 ページの「メモリモジュールの取り付け」を参照してください。
 - 11 iDRAC6 Express カードを取り外した場合は、これを取り付けます。128 ページの「iDRAC6 Express カードの取り付け」を参照してください。
 - 12 iDRAC6 Enterprise カードを取り外した場合は、これを取り付けます。131 ページの「iDRAC6 Enterprise カードの取り付け」を参照してください。
 - 13 拡張カードを取り外した場合は、ここですべて取り付けます。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
 - 14 すべてのケーブルをシステム基板に接続します。
 - 15 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
 - 16 拡張カードスタビライザを取り付けます。92 ページの「拡張カードスタビライザの取り付け」を参照してください。
 - 17 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
 - 18 システムを平らな面に縦置きにします。
 - 19 すべての周辺機器を取り付け、システムを電源コンセントに接続します。
 - 20 システムと周辺機器の電源を入れます。
-  **メモ**：新しいプロセッサが正常に動作することを検証するには、185 ページの「システム診断プログラムの実行」を参照してください。システム診断プログラムの実行の詳細については、187 ページの「内蔵されたシステム診断プログラムの実行」を参照してください。

システムのトラブルシューティング

作業にあたっての注意

△ 注意：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

システム起動エラーのトラブルシューティング

起動中、ビデオイメージングまたは LCD メッセージの前にシステムが停止する場合（特に、OS のインストールやシステムのハードウェアの再構成を行った後である場合）、次の条件が該当しないかチェックしてください。

- OS を UEFI ブートマネージャからインストールした後にシステムを BIOS 起動モードで起動すると、システムがハングします。この逆についても同じです。OS をインストールしたのと同じ起動モードで起動する必要があります。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。
- メモリ構成が無効な場合は、ビデオ出力がなく、起動時にシステムが停止することがあります。123 ページの「拡張カード」を参照してください。

起動時に発生するその他すべての問題については、LCD パネルメッセージと画面に表示されるシステムメッセージを書きとめておきます。詳細については、27 ページの「LCD ステータスメッセージ」および 40 ページの「システムメッセージ」を参照してください。

外部接続のトラブルシューティング

外付けデバイスのトラブルシューティングを行う前に、すべての外部ケーブルがシステムの外部コネクタにしっかりと接続されていることを確認します。システムの前面および背面パネルのコネクタについては 図 1-1、および 図 1-3 を参照してください。

ビデオサブシステムのトラブルシューティング

- 1 モニターとシステム、およびモニターと電源の接続を確認します。
- 2 システムとモニターの間でのビデオインタフェースのケーブル接続を確認します。
- 3 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。

テストが正常に終了したら、問題はビデオハードウェアに関連するものではありません。

テストが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

USB デバイスのトラブルシューティング

- 1 USB キーボードおよび / またはマウスのトラブルシューティングは、次の手順で行います。その他の USB デバイスの場合は、手順 2 に進みます。
 - a システムからキーボードとマウスのケーブルを短時間外し、再接続します。
 - b キーボード / マウスをシステムの反対側の USB ポートに接続します。これで問題が解決した場合は、システムを再起動し、セットアップユーティリティを起動して、機能していない USB ポートが有効になっているかどうかを確認します。

- c キーボード / マウスを動作確認済みの別のキーボード / マウスと交換します。

これで問題が解決した場合は、障害のあるキーボード / マウスを交換します。

問題が解決しない場合は、次の手順に進んで、システムに取り付けられているその他の USB デバイスのトラブルシューティングを開始します。

- 2 取り付けられているすべての USB デバイスの電源を切り、システムから外します。
- 3 システムを再起動し、キーボードが機能している場合は、セットアップユーティリティを起動します。すべての USB ポートが有効になっていることを確認します。65 ページの「Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面」を参照してください。

キーボードが機能していない場合は、リモートアクセスも使えます。システムにアクセスできない場合は、197 ページの「パスワードを忘れたとき」で、システム内の NVRAM_CLR ジャンパを設定し、BIOS をデフォルト設定に復元する手順を参照してください。

- 4 各 USB デバイスを一度に 1 台ずつ再接続し、電源を入れます。
- 5 同じ問題が発生するデバイスがあれば、そのデバイスの電源を切り、USB ケーブルを交換し、デバイスの電源を入れます。

問題が解決しない場合は、デバイスを交換します。

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング

- 1 システムおよびシリアルポートに接続された周辺機器すべての電源を切ります。
- 2 シリアルインタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと取り替え、システムとシリアルデバイスの電源を入れます。
これで問題が解決した場合は、インタフェースケーブルを交換します。
- 3 システムとシリアルデバイスの電源を切り、デバイスを同じタイプのデバイスと取り替えます。
- 4 システムとシリアルデバイスの電源を入れます。
これで問題が解決した場合は、シリアルデバイスを交換します。
問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

NIC のトラブルシューティング

- 1 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
- 2 システムを再起動し、NIC コントローラに関するシステムメッセージがないかチェックします。
- 3 NIC コネクタの該当するインジケータを確認します。22 ページの「NIC インジケータコード」を参照してください。
 - リンクインジケータが点灯しない場合は、すべてのケーブル接続を確認します。
 - アクティビティインジケータが点灯しない場合は、ネットワークドライバファイルが損傷しているか、削除された可能性があります。
該当するドライバを削除してから、再インストールします。
NIC のマニュアルを参照してください。
 - 可能であれば、オートネゴシエーション設定を変更します。
 - スイッチまたはハブの別のコネクタを使用します。内蔵 NIC の代わりに NIC カードを使用している場合は、NIC カードのマニュアルを参照してください。

- 4 適切なドライバがインストールされ、プロトコルが組み込まれていることを確認します。NIC のマニュアルを参照してください。
- 5 セットアップユーティリティを起動し、NIC ポートが有効になっていることを確認します。65 ページの「Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面」を参照してください。
- 6 ネットワーク上の NIC、ハブ、およびスイッチが、すべて同じデータ転送速度と二重モードに設定されていることを確認します。各ネットワークデバイスのマニュアルを参照してください。
- 7 すべてのネットワークケーブルのタイプが適切で、最大長を超えていないことを確認します。

すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システムが濡れた場合のトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 コンポーネントをシステムから取り外します。83 ページの「システム部品の取り付け」を参照してください。
 - ハードドライブ
 - SD カード
 - USB メモリキー
 - 拡張カード
 - iDRAC6 Express カード
 - iDRAC6 Enterprise カード

- 拡張カード
 - 電源ユニット
 - システムファン
 - プロセッサとヒートシンク
 - メモリモジュール
- 4 システムを完全に乾燥させます（少なくとも 24 時間）。
 - 5 手順 3 で取り外したコンポーネントを取り付けます。
 - 6 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
 - 7 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。

システムが正常に起動しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。
 - 8 システムが正常に起動する場合は、システムをシャットダウンして、取り外した拡張カードを取り付けます。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
 - 9 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。

テストが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システムが損傷した場合のトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 以下のコンポーネントが正しく取り付けられていることを確認します。
 - 拡張カード
 - 電源ユニット
 - ファン
 - プロセッサとヒートシンク
 - メモリモジュール
 - ハードドライブキャリア
- 4 すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システム診断プログラムでシステム基板のテストを実行します。185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
テストが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システムバッテリーのトラブルシューティング

 **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ**：長い期間（数週間から数か月）システムの電源が切られていると、NVRAM からシステム設定情報が失われる場合があります。これはバッテリーの不良が原因です。

- 1 セットアップユーティリティで時刻と日付を再入力します。
57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。
- 2 システムの電源を切り、少なくとも 1 時間は電源ケーブルをコンセントから抜いておきます。
- 3 電源ケーブルをコンセントに接続し、システムの電源を入れます。
- 4 セットアップユーティリティを起動します。

セットアップユーティリティの日付と時刻が正しくない場合は、バッテリーを交換します。141 ページの「システムバッテリーの交換」を参照してください。

 **メモ**：一部のソフトウェアには、システムの時刻を進めたり遅らせたりするものがあります。セットアップユーティリティ内に保持されている時刻以外はシステムが正常に動作している場合、問題の原因はバッテリーの不良ではなく、ソフトウェアにあると考えられます。

バッテリーを交換しても問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

電源ユニットのトラブルシューティング

- 1 電源ユニットの障害インジケータで故障した電源ユニットを特定します。23 ページの「電源インジケータコード」を参照してください。

△ **注意**：システムが動作するには、電源ユニットを必ず1台は取り付けておく必要があります。電源ユニットが1台しか取り付けられていないシステムを長時間使用すると、システムがオーバーヒートするおそれがあります。

- 2 電源ユニットをいったん取り外して取り付けなおします。146 ページの「シャーシントルージョンスイッチ」を参照してください。

 **メモ**：電源ユニットを取り付けたら、システムが電源ユニットを認識して動作状態を確認するまで数秒待ちます。電源インジケータが緑色に点灯すれば、電源ユニットは正常に機能しています。

問題が解決しない場合は、障害のある電源ユニットを交換します。

- 3 問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システム冷却問題のトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

以下のことを確認してください。

- システムカバー、冷却用エアフローカバー、ドライブダミー、メモリモジュールのダミーカード、電源ユニットダミー、または背面フィルターブラケットが取り外されていないこと。
- ヒートシンクダミーが取り外されていないこと（シングルプロセッサ構成の場合）
- 室温が高すぎないこと。動作時の温度要件については、お使いのシステムの『はじめに』を参照してください。
- 周辺の空気の流れが遮断されていないこと。

- システム内部のケーブルが空気の流れを遮断していないこと。
- 冷却ファンが取り外されていたり、故障したりしていないこと。
172 ページの「ファンのトラブルシューティング」を参照してください。
- 拡張カードの取り付けガイドラインが守られていること。123 ページの「拡張カードの取り付けガイドライン」を参照してください。

ファンのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切ります。
- 2 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 3 LCD パネルまたは Diagnostics（診断）ソフトウェアが障害を指摘しているファンの位置を確認します。
- 4 ファンの電源ケーブルを抜き差しします。
- 5 システムを起動します。

ファンが正常に動作する場合は、システムカバーを閉じます。
91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。

- 6 ファンが動作しない場合は、システムの電源を切り、新しいファンを取り付けます。114 ページの「システムファンの取り外し」および 116 ページの「システムファンの取り付け」を参照してください。
- 7 システムを起動します。

これで問題が解決した場合は、システムカバーを閉じます。
91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。

交換したファンが動作しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システムメモリのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。



メモ：メモリ構成が無効な場合は、ビデオ出力がなく、起動時にシステムが停止することがあります。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照し、メモリ構成が該当するすべてのガイドラインに従っていることを確認します。

- 1 システムが機能している場合は、適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
Diagnostics（診断）で問題が示された場合は、Diagnostics（診断）プログラムによって示される対応処置を行います。
- 2 システムが動作していない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムを電源コンセントから外します。10 秒以上待ってから、システムを電源コンセントに接続します。
- 3 システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、画面のメッセージをメモします。
特定のメモリモジュールに障害があることを示すエラーメッセージが表示された場合は、手順 15 に進みます。
- 4 セットアップユーティリティを起動して、システムメモリの設定を確認します。61 ページの「Memory Settings（メモリ設定）画面」を参照してください。必要に応じて、メモリの設定を変更します。
メモリの設定が取り付けられているメモリと一致しているにもかかわらず、エラーメッセージの表示が続く場合は、手順 15 に進みます。
- 5 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 6 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

- 7 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 8 メモリバンクをチェックし、正しく装着されていることを確認します。117 ページの「メモリモジュール取り付けのガイドライン」を参照してください。
- 9 ソケットに装着されている各メモリモジュールを抜き差しします。119 ページの「メモリモジュールの取り付け」を参照してください。
- 10 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 11 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 12 システムをまっすぐに立てて置きます。
- 13 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
- 14 セットアップユーティリティを起動して、システムメモリの設定を確認します。61 ページの「Memory Settings (メモリ設定) 画面」を参照してください。問題が解決しない場合は、次の手順に進みます。
- 15 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムを電源コンセントから外します。
- 16 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 17 Diagnostics (診断) テストまたはエラーメッセージで、特定のメモリモジュールに障害があることが示された場合は、メモリモジュールを取り替えるか、または交換します。
- 18 障害が発生している特定されていないメモリモジュールのトラブルシューティングを行うには、1 番目の DIMM ソケットに装着されているメモリモジュールを同種で同容量のものと交換します。119 ページの「メモリモジュールの取り付け」を参照してください。
- 19 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 20 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。

- 21 システムの起動中に表示されるエラーメッセージ、およびシステム前面の Diagnostics（診断）インジケータを観察します。
- 22 メモリの問題が引き続き示される場合は、取り付けられている各メモリモジュールについて手順 15～手順 21 を繰り返します。
すべてのメモリモジュールをチェックしても問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

内蔵 USB キーのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 セットアップユーティリティを起動し、SD カードポートが有効になっていることを確認します。65 ページの「Integrated Devices（内蔵デバイス）画面」を参照してください。
- 2 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 USB キーの位置を確認し、抜き差しします。146 ページの「シャールシントレーションスイッチ」を参照してください。
- 5 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 6 システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、USB キーが機能しているかどうかチェックします。
- 7 問題が解決しない場合は、手順 2 および手順 3 を繰り返します。
- 8 動作確認済みの別の USB キーを挿入します。
- 9 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。

- 10 システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、USB キーが機能しているかどうかチェックします。
- 11 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

オプティカルドライブのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 別の DVD を使用してみます。
- 2 セットアップユーティリティを起動し、内蔵 SATA コントローラとドライブの SATA ポートが有効になっていることを確認します。
57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。
- 3 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
- 4 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 5 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 6 インタフェースケーブルがオプティカルドライブおよびコントローラにしっかり接続されていることを確認します。
- 7 電源ケーブルがドライブに正しく接続されていることを確認します。
- 8 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 9 システムをまっすぐに立てて置きます。

- 10 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。

問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

テープバックアップユニットのトラブルシューティング

- 1 別のテープカートリッジを使用してみます。
- 2 テープドライブ用のデバイスドライバがインストールされ、正しく設定されていることを確認します。デバイスドライバの詳細については、テープドライブのマニュアルを参照してください。
- 3 テープバックアップソフトウェアのマニュアルの説明に従って、テープバックアップソフトウェアを再インストールします。
- 4 外付けテープドライブの場合は、テープドライブのインタフェースケーブルがコントローラカードの外部ポートにしっかり接続されていることを確認します。内蔵テープドライブの場合は、以下の手順でケーブル接続をチェックします。
 - a システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
 - b システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
 - c 拡張カードスロットのコントローラカードを抜き差しします。
 - d テープドライブのインタフェースケーブルが、テープドライブおよびコントローラカード（SAS または SCSI）のコネクタまたはシステム基板の SATA コネクタにしっかり接続されていることを確認します。
 - e 電源ケーブルがドライブと配電基板に正しく接続されていることを確認します。
 - f システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
 - g 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。

- 5 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。

問題を解決できない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

ハードドライブのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意**：このトラブルシューティング手順を実行すると、ハードドライブに保存されたデータが損傷するおそれがあります。以下の手順を実施する前に、ハードドライブ上のすべてのファイルをバックアップしてください。

- 1 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。

Diagnostics（診断）テストの結果に応じて、必要に応じて以下の手順に進みます。
- 2 システムに RAID コントローラが搭載され、ハードドライブが RAID アレイに構成されている場合は、以下の手順を実行します。
 - a システムを再起動し、ホストアダプタ設定ユーティリティプログラムを起動します。PERC コントローラの場合は <Ctrl><R> を、SAS コントローラの場合は <Ctrl><C> を押してください。
設定ユーティリティの詳細については、ホストアダプタに付属のマニュアルを参照してください。
 - b ハードドライブが RAID アレイ用に正しく設定されていることを確認します。
 - c ハードドライブをオフラインにして抜き差しします。97 ページの「ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し」を参照してください。
 - d 設定ユーティリティを終了し、OS を起動します。

- 3 お使いのコントローラカードに必要なデバイスドライバがインストールされ、正しく設定されていることを確認します。詳細については、OS のマニュアルを参照してください。
- 4 システムを再起動し、セットアップユーティリティを起動して、コントローラが有効になっていてドライブが表示されていることを確認します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。

SAS または SAS RAID コントローラのトラブルシューティング

 **メモ**：SAS または PERC コントローラのトラブルシューティングを行う際には、OS のマニュアルとコントローラのマニュアルも参照してください。

- 1 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
- 2 セットアップユーティリティを起動し、SAS または PERC コントローラが有効になっていることを確認します。57 ページの「セットアップユーティリティと UEFI ブートマネージャの使い方」を参照してください。
- 3 システムを再起動し、次のうちで該当するキーシーケンスを押して設定ユーティリティプログラムを起動します。
 - SAS コントローラの場合は <Ctrl><C>
 - PERC コントローラの場合は <Ctrl><R>設定内容については、コントローラのマニュアルを参照してください。

- 4 設定内容を確認し、必要な修正を行い、システムを再起動します。

 **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 5 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムを電源コンセントから外します。

- 6 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 7 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 8 コントローラカードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されていることを確認します。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
- 9 バッテリーキャッシュ付き PERC コントローラを使用している場合は、RAID バッテリーが正しく接続されており、該当する場合は、PERC カード上のメモリモジュールが正しく装着されていることを確認します。
- 10 SAS バックプレーンを使用している場合は、SAS バックプレーンと SAS コントローラの間のカابل接続が正しいことを確認します。ケーブルが、SAS コントローラおよび SAS バックプレーンボードにしっかりと接続されていることを確認します。
- 11 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 12 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

拡張カードのトラブルシューティング

 **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

 **メモ**：拡張カードのトラブルシューティングを行う際には、OS と拡張カードのマニュアルを参照してください。

- 1 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
- 2 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 4 拡張カードの取り付けガイドラインに従って拡張カードが取り付けられていることを確認します。123 ページの「拡張カードの取り付けガイドライン」を参照してください。
- 5 各拡張カードがコネクタに確実に装着されていることを確認します。124 ページの「拡張カードの取り付け」を参照してください。
- 6 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 7 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
- 8 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 9 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
- 10 システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。127 ページの「拡張カードの取り外し」を参照してください。
- 11 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。

- 12 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
- 13 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
テストが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。
- 14 手順 10 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
 - a システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
 - b システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。
 - c 拡張カードの 1 枚を取り付けなおします。
 - d システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
 - e 適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。
テストが失敗した場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

プロセッサのトラブルシューティング

△ **注意**：修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。お客様は、製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくはテレホンサービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うことができます。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属のマニュアルに書かれている安全にお使いいただくための注意をお読みになり、指示に従ってください。

- 1 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
185 ページの「オンライン Diagnostics（診断）の使い方」を参照してください。
- 2 システムおよび接続されている周辺機器の電源を切って、システムを電源コンセントから外します。
- 3 システムカバーを開きます。90 ページの「システムカバーの取り外し」を参照してください。

- 4 冷却用エアフローカバーを取り外します。93 ページの「冷却用エアフローカバーの取り外し」を参照してください。
- 5 各プロセッサとヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。140 ページの「プロセッサの取り付け」を参照してください。
- 6 冷却用エアフローカバーを取り付けます。94 ページの「冷却用エアフローカバーの取り付け」を参照してください。
- 7 システムカバーを閉じます。91 ページの「システムカバーの取り付け」を参照してください。
- 8 電源ケーブルをコンセントに差し込んで、システムと周辺機器の電源を入れます。
- 9 適切なオンライン Diagnostics（診断）テストを実行します。
問題が解決しない場合は、199 ページの「困ったときは」を参照してください。

システム診断プログラムの実行

システムに問題が発生した場合、テクニカルサポートに電話される前に診断プログラムを実行してください。診断プログラムを使うと、特別な装置を使用せずにシステムのハードウェアをテストでき、データが失われる心配もありません。ご自身で問題を解決できない場合でも、サービスおよびサポート担当者が診断プログラムのテスト結果を使って問題解決の手助けを行うことができます。

オンライン Diagnostics（診断）の使い方

システムの問題を分析するには、オンライン Diagnostics（診断）を最初に使用します。オンライン Diagnostics（診断）は、診断プログラムまたはテストモジュールの一式であり、ハードドライブ、物理メモリ、通信ポート、プリンタポート、NIC、CMOS など、シャーシやストレージコンポーネントを対象とする診断テストを実行します。オンライン Diagnostics（診断）を使用して問題を識別できない場合は、内蔵されたシステム診断プログラムを使用します。

サポートされている Microsoft® Windows® OS および Linux® OS を実行しているシステムでオンライン Diagnostics（診断）を実行するために必要なファイルは、システムに付属の CD に収録されています。または、**support.dell.com** から入手することもできます。Diagnostics（診断）の使い方については、Dell オンライン Diagnostics（診断）の『ユーザーズガイド』を参照してください。

内蔵されたシステム診断プログラムの機能

システム診断プログラムは、特定のデバイスグループや各デバイス用の一連のテストメニューとオプションで構成されています。システム診断プログラムのメニューとオプションを使って、以下のことが行えます。

- テストを個別または全体的に実行
- テストの順番を制御
- テストの繰り返し
- テスト結果の表示、印刷、または保存
- エラーが検出された場合にテストを一時的に中断、またはユーザーが指定する最大エラー数に達したときにテストを終了
- 各テストとそのパラメータを簡潔に説明するヘルプメッセージを表示
- テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

内蔵されたシステム診断プログラムの実行が必要な場合

システム内の主要コンポーネントまたはデバイスが正しく動作していない場合、コンポーネントの障害が表示されることがあります。マイクロプロセッサとシステムの I/O デバイスが動作していれば、問題の識別に内蔵されたシステム診断プログラムを使用することができます。

内蔵されたシステム診断プログラムの実行

内蔵されたシステム診断プログラムは、USC（Unified Server Configurator）画面から実行します。

△ **注意**：内蔵されたシステム診断プログラムは、お使いのシステムをテストする場合にのみ使用してください。このプログラムを他のシステムで使用すると、無効な結果やエラーメッセージが発生する場合があります。

- 1 システム起動中に <F10> を押します。
- 2 左ペインで **Diagnostics**（診断）をクリックし、右ペインで **Launch Diagnostics**（Diagnostics（診断）の起動）をクリックします。

Diagnostics（診断）メニューは、すべてまたは特定の診断テストの実行や、診断プログラムの終了に使用します。

システム診断プログラムのテストオプション

Main Menu（メインメニュー）ウィンドウでテストオプションをクリックします。

| テストオプション | 機能 |
|---------------|--|
| Express Test | システムのクイックチェックを実行します。このオプションでは、ユーザーの応答を必要としないデバイステストを実行します。 |
| Extended Test | システムを詳細にチェックします。このテストの実行には1時間以上かかる場合もあります。 |
| Custom Test | 特定のデバイスをテストします。 |
| Information | テスト結果が表示されます。 |

カスタムテストオプションの使い方

Main Menu（メインメニュー）ウィンドウで **Custom Test**（カスタムテスト）を選択すると、**Customize**（カスタマイズ）ウィンドウでテストするデバイスを選択できます。希望のテストオプションを選択して、テスト結果を表示します。

テストするデバイスの選択

Customize（カスタマイズ）ウィンドウの左側にはテスト可能なデバイスのリストが表示されます。デバイスまたはモジュールの横にある **(+)** をクリックすると、各コンポーネントが表示されます。各コンポーネントの横にある **(+)** をクリックすると、利用可能なテストが表示されます。コンポーネントではなくデバイスをクリックすると、テストするデバイスのすべてのコンポーネントが選択できます。



メモ：テストするすべてのデバイスとコンポーネントを選択したら、**All Devices**（すべてのデバイス）をハイライト表示し、**Run Tests**（テストの実行）をクリックします。

診断オプションの選択

Diagnostics Options（診断オプション）領域で、デバイスに対して実行するテストを選択します。

- **Non-Interactive Tests Only**（非インタラクティブテストのみ）
— ユーザーの操作を必要としないテストだけが実行されます。
- **Quick Tests Only**（クイックテストのみ）
— デバイスのクイックテストだけが実行されます。
- **Show Ending Timestamp**（終了タイムスタンプの表示）
— テストの記録に時刻が記載されます。
- **Test Iterations**（テスト回数）
— テストの実行回数を選択できます。
- **Log output file pathname**（ログ出力ファイルのパス名）
— テストを記録したログファイルを保存するディスクドライブまたは USB メモリキーを指定できます。このファイルをハードドライブに保存することはできません。

情報および結果の表示

Customize（カスタマイズ）ウィンドウの以下のタブを使って、テストとテスト結果についての情報を表示することができます。

- **Results**（結果） — 実行されたテストとその結果が表示されます。
- **Errors**（エラー） — テスト中に起こったエラーが表示されます。
- **Help**（ヘルプ） — 現在選択されているデバイス、コンポーネント、またはテストに関する情報が表示されます。
- **Configuration**（設定） — 現在選択されているデバイスの基本設定に関する情報が表示されます。
- **Parameters**（パラメータ） — そのテストで設定可能なパラメータが表示されます。

ジャンパおよびコネクタ

⚠ 警告： システムのカバーを取り外して内部の部品に手を触れる作業は、トレーニングを受けたサービス技術者のみが行ってください。システムに付属のマニュアルの「安全にお使いいただくために」を参照してから、本項の作業を開始してください。

システム基板のジャンパ

パスワードジャンパをリセットしてパスワードを無効にする方法については、197 ページの「パスワードを忘れたとき」を参照してください。

表 6-1 システム基板のジャンパ設定

| ジャンパ | 設定 | 説明 |
|-----------|---|--|
| PWRD_EN |  (デフォルト) | パスワード機能は有効です。(ピン 2-4) |
| |  | パスワード機能が無効になり、iDRAC6 のローカルアクセスは次の AC 電源サイクルでロック解除されます。(ピン 4-6) |
| NVRAM_CLR |  (デフォルト) | 構成設定がシステム起動時に保持されます。(ピン 3-5) |
| |  | 構成設定は、次のシステム起動時にクリアされます。(ピン 1-3) |

システム基板のコネクタ

図 6-1 システム基板のジャンパとコネクタ

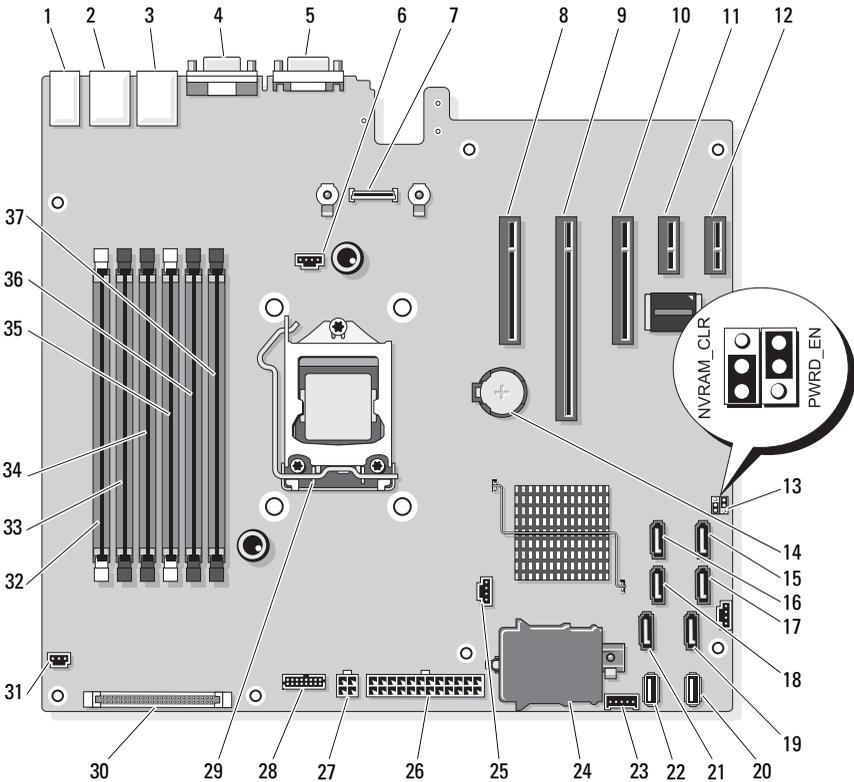


表 6-2 システム基板のジャンパとコネクタ

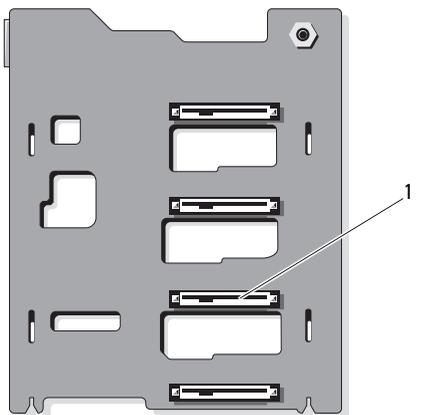
| 項目 | コネクタ | 説明 |
|----|-------------------|---------------------------|
| 1 | USB1 | 外付け USB コネクタ 1 |
| | USB2 | 外付け USB コネクタ 2 |
| | USB3 | 外付け USB コネクタ 3 |
| | USB4 | 外付け USB コネクタ 4 |
| 2 | NIC1 | 外付け NIC コネクタ 1 |
| 3 | NIC2 | 外付け NIC コネクタ 2 |
| 4 | VGA | 外付けビデオコネクタ |
| 5 | COM | 外付けシリアルコネクタ |
| 6 | FAN | ファンコネクタ |
| 7 | iDRAC6 Enterprise | iDRAC6 Enterprise カードコネクタ |
| 8 | PCIE_X8 | PCIe コネクタ x8(スロット 1) |
| 9 | PCIE_X16 | PCIe コネクタ x16(スロット 2) |
| 10 | PCIE_X8 | PCIe コネクタ x8(スロット 3) |
| 11 | PCIE_X1 | PCIe コネクタ x1(スロット 4) |
| 12 | PCIE_X1 | PCIe コネクタ x1(スロット 5) |
| 13 | PWRD_EN | パスワード有効ジャンパ |
| | NVRM_CLR | NVRAM クリアジャンパ |
| 14 | BATTERY | システムバッテリー |
| 15 | SATA_D | SATA コネクタ D |
| 16 | SATA_C | SATA コネクタ C |
| 17 | SATA_B | SATA コネクタ B |
| 18 | SATA_A | SATA コネクタ A |
| 19 | SATA_F | SATA コネクタ F |
| 20 | INT_USB 2 | 内蔵 USB モジュールコネクタ 2 |
| 21 | SATA_E | SATA コネクタ E |
| 22 | INT_USB 1 | 内蔵 USB モジュールコネクタ 1 |
| 23 | BP_I2C | バックプレーン I2C コネクタ |

表 6-2 システム基板のジャンパとコネクタ

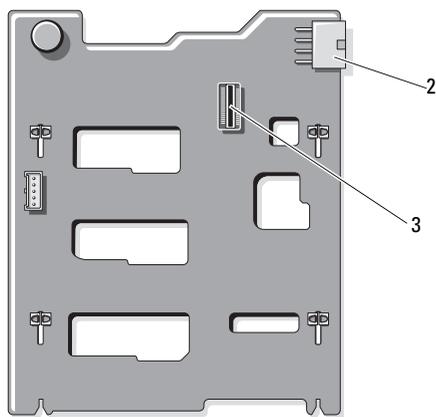
| 項目 | コネクタ | 説明 |
|----|----------------|---------------------------------|
| 24 | iDRAC6 Express | iDRAC6 Express カードコネクタ |
| 25 | HD_ACT_CARD | ハードドライブ動作コネクタ |
| 26 | PWR_CONN | 24 ピン電源コネクタ |
| 27 | 12V | 4 ピン電源コネクタ |
| 28 | PDB_CONN | 配電基板電源コネクタ |
| 29 | CPU | プロセッサ |
| 30 | CTRL_PNL | コントロールパネルコネクタ |
| 31 | INTRUSION | シャーシイントルージョンスイッチコネクタ |
| 32 | 2 | メモリモジュールスロット B1 (白色のリリースレバー) |
| 33 | 4 | メモリモジュールスロット B2 |
| 34 | 6 | メモリモジュールスロット B3 |
| 35 | 1 | メモリモジュールスロット A1 (白色のリリースレバー) |
| 36 | 3 | メモリモジュールスロット A2 |
| 37 | 5 | メモリモジュールスロット A3 |

SAS バックプレーンボードコネクタ

図 6-2 SAS バックプレーンボードコネクタ



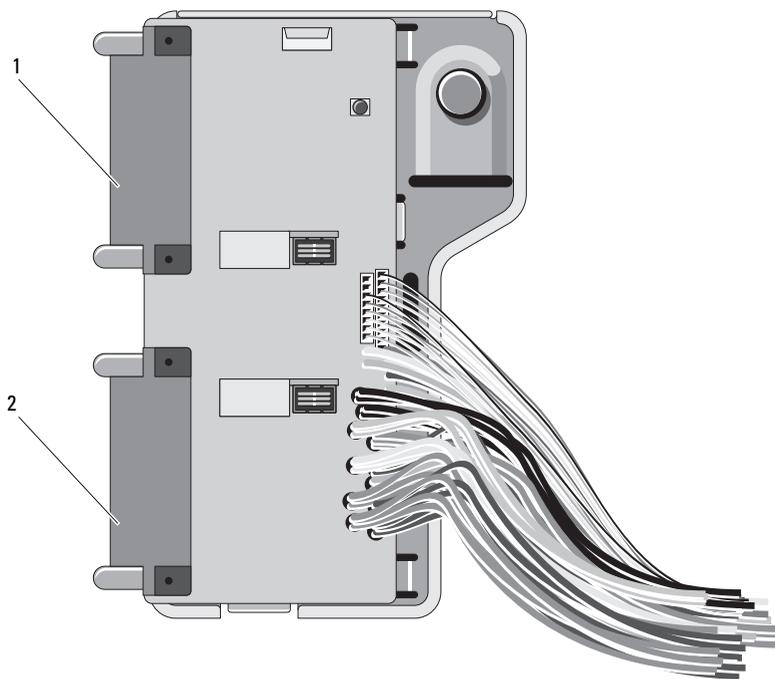
前面



背面

- 1 ハードドライブコネクタ 0～3
- 2 バックプレーン電源 (BKPLN)
- 3 SAS A コネクタ

配電基板コネクタ



1 J_PWR1 コネクタ

2 J_PWR2 コネクタ

パスワードを忘れたとき

システムのソフトウェアセキュリティ機能として、システムパスワードとセットアップパスワードを設定することができます。これらのパスワードについては、「セットアップユーティリティの使い方」で詳しく説明されています。パスワードジャンパを使って、これらのパスワード機能を有効または無効に設定できるので、現在どのようなパスワードが使用されていてもクリアすることができます。

△ 注意：システムに付属のマニュアルで、安全にお使いいただくための注意事項の「静電気障害への対処」を参照してください。

- 1 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 2 システムカバーを開きます。「システムカバーの開閉」を参照してください。
- 3 パスワードジャンパからジャンパプラグを取り外します。
システム基板上のパスワードジャンパ（「PWRD_EN」のラベル表示）の位置は、図 6-1 を参照してください。
- 4 システムカバーを閉じます。
- 5 システムおよび周辺機器を電源コンセントに接続し、システムの電源をオンにします。

既存のパスワードは、パスワードジャンパプラグを取り外した状態でシステムを再起動するまで無効（消去）になりません。ただし、新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはどちらか一方を設定する前に、ジャンパプラグを取り付ける必要があります。

メモ：ジャンパプラグを取り外した状態のままシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはどちらか一方を設定すると、システムは次回の起動時に新しいパスワードを無効にします。

- 6 システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、電源コンセントから外します。
- 7 システムカバーを開きます。「システムカバーの開閉」を参照してください。
- 8 パスワードジャンパにジャンパプラグを取り付けます。
- 9 メモリモジュールエアフローカバーを取り付けます。
- 10 システムカバーを閉じます。
- 11 システムおよび周辺機器を電源コンセントに接続し、システムの電源をオンにします。
- 12 新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはそのどちらか一方を設定します。
セットアップユーティリティを使用して新しいパスワードを設定するには、「システムパスワードの設定」を参照してください。

困ったときは

デルへのお問い合わせ

米国にお住まいの方は、800-WWW-DELL（800-999-3355）までお電話ください。



メモ：お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

- 1 **support.dell.com** にアクセスします。
- 2 ページ下の **国・地域の選択** ドロップダウンメニューで、お住まいの国または地域を確認します。
- 3 ページの左側の **お問い合わせ** をクリックします。
- 4 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。
- 5 ご都合の良いお問い合わせの方法を選択します。

用語集

A — Ampere (アンペア)。

AC — Alternating current (交流電流)。

ACPI — Advanced Configuration and Power Interface。OS で設定と電力管理を実行するための標準インタフェースです。

ANSI — American National Standards Institute (米国規格協会)。米国の主要技術標準開発機関です。

Asset Tag — 通常はシステム管理者がセキュリティやトラッキングのためにコンピュータごとに割り当てるコード。

BMC — Baseboard management controller (ベースボード管理コントローラ)。

BTU — British thermal unit (英国熱量単位)。

C — (セルシウス、摂氏)。

cm — (センチメートル)。

COM n — コンピュータのシリアルポートに対するデバイス名 (n は整数値)。

CPU — Central processing unit (中央演算処理装置)。「プロセッサ」を参照してください。

DC — Direct current (直流)。

DDR — Double-data rate (ダブルデータ速度)。クロックサイクルの上昇パルスと下降パルスの両方でデータを転送することでデータ速度を理論上 2 倍にするメモリモジュール内のテクノロジーです。

DHCP — Dynamic Host Configuration Protocol (ダイナミックホスト設定プロトコル)。クライアントシステムに自動的に IP アドレスを割り当てるための方法です。

Diagnostics (診断) — システム用の総合テストセット。

DIMM — Dual in-line Memory Module(デュアルインラインメモリモジュール)。「メモリモジュール」も参照してください。

DNS — Domain Name System (ドメインネームシステム)。たとえば **www.example.com** のようなインターネットのドメインネームを 208.77.188.166 のような IP アドレスに変換する方法です。

DRAM — Dynamic random-access memory (ダイナミック RAM)。通常、システムの RAM は DRAM チップのみで構成されます。

DVD — Digital Versatile Disc または Digital Video Disc。

ECC — Error checking and correction (エラーチェックおよび訂正)。

EMI — Electromagnetic interference (電磁波障害)。

ERA — Embedded remote access (組み込み型リモートアクセス)。ERA により、リモートアクセスコントローラを使用してネットワークサーバをリモート管理 (帯域外管理) できます。

ESD — Electrostatic discharge (静電気放電)。

ESM — Embedded server management (組み込み型サーバ管理)。

F — Fahrenheit (華氏)。

FAT — File allocation table (ファイルアロケーションテーブル)。FAT はファイル保存の記録と管理のために MS-DOS で使用されるファイルシステム構造です。Microsoft® Windows® OS では、オプションとして FAT ファイルシステムを使用できます。

FSB — Front-Side Bus (フロントサイドバス)。プロセッサとメインメモリ (RAM) 間のデータ伝送路および物理インタフェースです。

FTP — File transfer protocol (ファイル転送プロトコル)。

g — Gram (グラム)。

G — Gravity (重力加速度)。

Gb — Gigabit (ギガビット)。1 Gb = 1024 Mb = 1,073,741,824 ビット。

GB — Gigabyte (ギガバイト)。1 GB = 1024 MB = 1,073,741,824 バイト。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、1000 MB (10 億バイト) を意味する場合があります。

Hz — Hertz (ヘルツ)。

I/O — Input/output (入出力)。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 処理は計算処理とは区別されます。

IDE — Integrated drive electronics。システム基板とストレージデバイスの間の標準インタフェースです。

iDRAC — Internet Dell Remote Access Controller。インターネット SCSI プロトコルを使用するリモートアクセスコントローラ。

IP — Internet Protocol (インターネットプロトコル)。

IPv6 — Internet Protocol version 6。

IPX — Internet package exchange (インターネットパケット交換)。

IRQ — Interrupt request (割り込み要求)。周辺機器がデータを送信または受信しようとする場合、必要な処理をプロセッサに要求する信号が IRQ 信号線を介して送られます。コンピュータに接続する各周辺機器には IRQ 番号を割り当てる必要があります。2 つの機器が同じ IRQ 番号を共有することはできますが、両方の機器を同時に動作させることはできません。

iSCSI — インターネット SCSI (「SCSI」を参照)。ネットワークまたはインターネット経由の SCSI デバイス通信を可能にするプロトコル。

K — Kilo (キロ)。1000 を表します。

Kb — Kilobit (キロビット)。1 Kb = 1024 ビット。

KB — Kilobyte (キロバイト)。1 KB = 1024 バイト。

Kbps — Kilobits per second (キロビット / 秒)。

KBps — Kilobytes per second (キロバイト / 秒)。

kg — Kilogram (キログラム)。1 kg = 1000 グラム。

kHz — Kilohertz (キロヘルツ)。

KVM — Keyboard/video/mouse (キーボード / ビデオ / マウス)。KVM は、キーボード、マウス、ディスプレイを共有する複数のコンピュータを切り替えて使用するための装置です。

LAN — Local area network (ローカルエリアネットワーク)。通常、LAN のシステム構成は同じ建物内部または隣接した少数の建物に限定され、すべての装置が LAN 専用のケーブルで接続されます。

LCD — Liquid crystal display (液晶ディスプレイ)。

LED — Light-emitting diode (発光ダイオード)。電流が流れると点灯する電子部品です。

LGA — Land Grid Array (ランドグリッドアレイ)。

LOM — LAN on motherboard。

LVD — Low voltage differential (低電圧ディファレンシャル)。

m — Meter (メートル)。

mA — Milliampere (ミリアンペア)。

MAC アドレス — Media Access Control (メディアアクセスコントロール) アドレス。ネットワーク上のシステムのハードウェアに付けられた固有の番号です。

mAh — Milliampere-hour (ミリアンペア時)。

Mb — Megabit (メガビット)。1 Mb = 1,048,576 ビット。

MB — Megabyte (メガバイト)。1 MB = 1,048,576 バイト。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合もあります。

Mbps — Megabits per second (メガビット / 秒)。

MBps — Megabytes per second (メガバイト / 秒)。

MBR — Master boot record (マスターブートレコード)。

MHz — Megahertz (メガヘルツ)。

mm — Millimeter (ミリメートル)。

ms — Millisecond (ミリ秒)。

NAS — Network Attached Storage (ネットワーク接続ストレージ)。ネットワーク上に共有ストレージを実現するのに使用される概念です。NAS システムには、ファイルサーバー専用最適化された OS、内蔵ハードウェア、およびソフトウェアが搭載されています。

NIC — Network Interface Controller (ネットワークインタフェースコントローラ)。コンピュータに取り付けられたネットワーク接続用のデバイスです。

NMI — Nonmaskable interrupt (マスク不能割り込み)。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラーをプロセッサに通知します。

ns — Nanosecond (ナノ秒)。

NVRAM — Nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ)。コンピュータの電源を切っても情報が失われないメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

PCI — Peripheral Component Interconnect。標準のローカルバス規格です。

PDU — Power distribution unit (配電ユニット)。PDU は、複数のコンセントの付いた電源で、ラック内のサーバーやストレージシステムに電力を供給します。

POST — Power-on self-test (電源投入時の自己診断)。コンピュータの電源を入れると、OS がロードされる前に、RAM やハードドライブなどのさまざまなシステムコンポーネントがテストされます。

PXE — Preboot eXecution Environment。ハードドライブや起動用ディスクを使用せずに、LAN を介してシステムを起動する方法です。

RAC — Remote access controller (リモートアクセスコントローラ)。

RAID — Redundant array of independent disks。データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装される RAID には、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。「ミラーリング」および「ストライピング」も参照してください。

RAM — Random-access memory (ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域です。コンピュータの電源を切ると、RAM に保存されている情報はすべて失われます。

R-DIMM — レジスタ DDR3 メモリモジュール。

readme — **ファイル** — ソフトウェアやハードウェアの製品に付属しているテキストファイル。製品に関する補足情報やマニュアルのアップデート情報などが入っています。

ROM — Read-only memory (読み取り専用メモリ)。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例には、コンピュータの起動ルーチンと POST を起動するプログラムなどがあります。

ROMB — RAID on motherboard (オンボードの RAID)。

SAN — Storage Area Network (ストレージエリアネットワーク)。ネットワークに接続されたリモートのストレージデバイスをサーバーから見るとローカル接続されているように認識させるネットワークアーキテクチャ。

SAS — Serial-attached SCSI (シリアル接続 SCSI)。

SATA — Serial Advanced Technology Attachment。システム基板とストレージデバイスの間の標準インタフェースです。

SCSI — Small computer system interface。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つ I/O バスインタフェース。

SD カード — SD フラッシュメモリカード。

SDRAM — Synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)。

sec — Second (秒)。

SMART — Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology (システムの自己監視分析および報告テクノロジー)。システム BIOS にエラーや障害があった場合に、ハードディスクドライブが報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。

SMP — Symmetric multiprocessing (対称型マルチプロセッシング)。高帯域幅のリンクを介して複数のプロセッサを接続し、各プロセッサが同等な立場で I/O 処理を行うように OS によって管理する技法です。

SNMP — Simple Network Management Protocol。ネットワーク管理者がリモートでワークステーションの監視および管理を行うための標準インタフェースです。

SVGA — Super video graphics array (スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも優れた解像度と色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

TCP/IP — Transmission Control Protocol/Internet Protocol (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル)。

TOE — TCP/IP オフロードエンジン。

U-DIMM — Unregistered (バッファなし) DDR3 メモリモジュール。

UPS — Uninterruptible power supply (無停電電源装置)。電氣的な障害が発生した場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー電源ユニットです。

USB — Universal Serial Bus (ユニバーサルシリアルバス)。USB コネクタは、マウス、キーボードなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。USB デバイスはシステムの実行中でも取り付け、取り外しが可能です。

USB メモリキー — 「メモリキー」を参照してください。

V — Volt (ボルト)。

VAC — Volts alternating current (交流電圧)。

VDC — Volt direct current (直流電圧)。

VGA — Video graphics array (ビデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも優れた解像度と色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

W — Watt (ワット)。

WH — Watt-hour (ワット時)。

XML — Extensible Markup Language (拡張可能なマーク付け言語)。インターネット、イントラネット、その他のネットワークで形式とデータの両方を共有し、共通の情報形式を作成するための仕様です。

ZIF — Zero insertion force。力をかけずにプロセッサの着脱ができるソケットです。

アップリンクポート — 別のハブまたはスイッチに接続する際に使用するネットワークハブまたはスイッチ上のポート。クロスオーバーケーブルを必要としません。

仮想化 — ソフトウェアを介して 1 台のコンピュータのリソースを複数の環境で共有する機能。1 台の物理システムが、ユーザーからは複数の OS をホストできる複数の仮想システムに見えます。

拡張カード — NIC や SCSI アダプタなどの、システム基板上の拡張カードコネクタに差し込むアドインカード。拡張カードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースとして、システムに特別な機能を追加します。

拡張カードコネクタ — 拡張カードを差し込むシステム基板またはライザーボード上のコネクタ。

拡張バス — お使いのシステムには、プロセッサがネットワークカードなどの周辺機器のコントローラと通信できるようにするための拡張バスがあります。

環境温度 — システムが置かれている場所や部屋の温度。

起動可能なメディア — ハードドライブから起動できない場合に OS の起動に使用する CD、ディスク、または USB メモリキーです。

キャッシュ — データを高速検索できるように、データまたは命令のコピーを保持するための高速記憶領域。

グラフィックモード — x 水平画素数、 y 垂直画素数、および z 色数で表されるビデオモードです。

コプロセッサ — コンピュータのプロセッサを特定の処理タスクから解放するためのチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を行います。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサと周辺機器間のデータ転送を制御するチップまたは拡張カード。

コントロールパネル — 電源ボタン、電源インジケータなどの、ボタンやインジケータを収めたシステムの部品。

サービスタグ — 弊社カスタマーサポートまたはテクニカルサポートにお問い合わせになる際に、コンピュータを識別するためのバーコードラベル。

システム基板 — コンピュータの主要な回路ボードであるシステム基板には、プロセッサ、RAM、周辺機器用コントローラ、各種 ROM チップなど、大部分の重要なコンポーネントが搭載されています。

システム設定情報 — メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記録されています。

システムメモリ — 「RAM」を参照してください。

ジャンパ — 回路基板上の小さなブロック。2 本以上のピンが出ています。ピンにはワイヤを格納したプラスチック製のプラグが被せてあります。ワイヤはピン同士を接続して、回路を形成します。ジャンパを使用すれば、基板の回路構成を簡単に変更できます。

周辺機器 — コンピュータに接続される内蔵装置または外付け装置（ディスクドライブ、キーボードなど）。

シリアルポート — 一度に 1 ビットずつデータを転送する 9 ピンコネクタのレガシー I/O ポート。モデムとシステムの間接続に最もよく使用されます。

ストライピング — 3 台以上のハードドライブを並べて 1 台のディスクドライブ（= アレイ）のように使用して書き込みを行います。各ディスクの一部のスペースしか使用しません。ストライピングに使用される各ディスク内のスペース（ストライプ）は、各ディスクとも同じ容量です。仮想ディスクでは、ディスクアレイ内の一組のディスクのセットに対して複数のストライプを設定することもできます。「ガーディング」、「ミラーリング」、「RAID」も参照してください。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェア構成やパスワード保護などの機能を設定して、システムの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

ターミネータ — 一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、ケーブル内信号反射や不正信号を防止するための終端処理が必要です。このようなデバイスを連結する場合は、ジャンパまたはスイッチを変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更して、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

デバイスドライバ — OS やプログラムが周辺機器と正しくインタフェースできるようにするためのプログラム。

ドライバ — 「デバイスドライバ」を参照してください。

バス — コンピュータ内部の各コンポーネント間のデータ伝送経路。たとえば、拡張バスは、プロセッサがコンピュータに接続された周辺機器用のコントローラと通信するための経路です。また、アドレスバスとデータバスは、プロセッサと RAM 間の通信に使用されます。

バックアップ — プログラムやデータファイルのコピー。安全対策として、コンピュータのハードドライブは定期的にバックアップしてください。

パーティション — **fdisk** コマンドを使用すると、ハードドライブをパーティションと呼ばれる複数の物理セクションに分割できます。各パーティションには、複数の論理ドライブを設定することができます。各論理ドライブは **format** コマンドを使用してフォーマットする必要があります。

パリティ — データブロックに関連付けられた冗長情報。

パリティドライブ — RAID アレイにおいて、パリティデータが入っているドライブされたハードドライブ。

ピクセル — ビデオ画面上の単一の点。画像は、ピクセルを縦横に配置することで作成されます。ビデオの解像度（640 x 480 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ビデオアダプタ — モニターと組み合わせることで、コンピュータにビデオ機能を提供する論理回路。ビデオアダプタは、システム基板に組み込まれている場合や拡張スロットに装着する拡張カードの場合があります。

ビデオ解像度 — 800 x 600 などのビデオ解像度は、横のピクセル数 × 縦のピクセル数の形で示したものです。特定の解像度でプログラムの画面を表示するには、ディスプレイがその解像度をサポートしていて、適切なビデオドライバがインストールされていなければなりません。

ビデオメモリ — ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、システムの RAM とは別に、メモリチップが内蔵されています。プログラムで同時に表示できる色数は、主に取り付けられたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバとモニターの性能があります）。

ファイバーチャネル — 主にネットワークストレージデバイスに使用される高速ネットワークインタフェース。

フラッシュメモリ — ソフトウェアユーティリティを使用してプログラミングと再プログラミングができる電子チップの一種。

ブレード — プロセッサ、メモリ、ハードドライブを組み込んだモジュール。このモジュールは、電源ユニットとファンを搭載したシャーシに取り付けます。

プロセッサ — 演算機能と論理機能の解釈と実行を制御する、コンピュータ内部の主要な演算チップ。通常、特定のプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のプロセッサ上で実行するには、ソフトウェアの改訂が必要です。「CPU」はプロセッサの同義語です。

ホストアダプタ — システムのバスと周辺機器（通常はストレージデバイス）の間の通信を実現するコントローラ。

ホットスワップ — システムに電源が入って稼動している間にデバイス（通常はハードドライブまたは内蔵冷却ファン）をホストシステムに挿入する、または取り付けることができる機能。

ミラーリング — データ冗長性の一種。一組の複数の物理ドライブを使用してデータを格納し、さらに一組または複数組の追加のドライブに同じデータのコピーを格納します。ミラーリング機能はソフトウェアによって実現されます。「ストライピング」および「RAID」も参照してください。

メモリアドレス — コンピュータの RAM 内部にある特定の位置。通常、メモリアドレスは 16 進数で表します。

メモリモジュール — システム基板上に接続されている、DRAM チップを搭載した小型回路基板。

ユーティリティ — メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステム資源を管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル — 編集や削除が禁止されているファイルのことをいいます。

ローカルバス — ローカルバス拡張機能を持つコンピュータでは、特定の周辺デバイス（ビデオアダプタ回路など）を従来の拡張バスを使用する場合よりもかなり高速に動作するように設定できます。「バス」も参照してください。

メモリ — 基本的なシステムデータを記憶するハードドライブ以外の装置。コンピュータには、複数の異なるタイプのメモリを搭載できます。たとえば、内蔵メモリ（ROM と RAM）、増設メモリモジュール（DIMM）などです。

メモリキー — USB コネクタと一体化したポータブルフラッシュメモリストレージデバイス。

索引

B

BMC
設定, 79

C

CD ドライブ
トラブルシューティング, 176

D

Dell PowerEdge Diagnostics
使い方, 185

Diagnostics (診断)
Advanced Testing
オプション, 188
Dell PowerEdge Diagnostics
の使い方, 185
使用する状況, 186
テストオプション, 187

DIMM

「メモリモジュール (DIMM)」
を参照

I

iDRAC カード
取り付け, 128, 131
iDRAC 設定ユーティリティ, 80

L

LCD パネル
機能, 15
メニュー, 16

N

NIC
インジケータ, 22
トラブルシューティング, 166

P

POST
システムの機能へのア
クセス, 11

S

- SAS RAID コントローラードーターカード
トラブルシューティング, 179
- SAS コントローラードーターカード
トラブルシューティング, 179
- SAS バックプレーンボード
取り付け, 154
取り外し, 151
- SD カード
トラブルシューティング, 175

T

- TPM セキュリティ, 69

U

- UEFI ブートマネージャ
UEFI 起動設定画面, 72
起動, 71
システムユーティリティ画面, 73
メイン画面, 72
- USB
メモリー用の内部コネクタ, 135
前面パネルコネクタ, 12
- USB キー
トラブルシューティング, 175

あ

- アップグレード
プロセッサ, 137
- 安全について, 163

い

- インジケータ
NIC, 22
前面パネル, 12
電源, 12, 23

え

- エラーメッセージ, 58

お

- オプション
セットアップユーティリティ, 59

か

- 拡張カード
トラブルシューティング, 181
取り付け, 124
取り外し, 127
- 拡張スロット, 123
- カバー
閉じる, 91

ガイドライン

- 拡張カードの取り付け, 123
- 外付けデバイスの接続, 22
- メモリの取り付け, 117

き

起動時

- システムの機能へのアクセス, 11

キーボード

- トラブルシューティング, 164

け

- 警告メッセージ, 55

こ

交換

- システムバッテリー, 141

コネクタ

- USB, 12, 20
- ビデオ, 12, 20

コントロールパネルアセンブリ

- LCD パネルの機能, 15
- 機能, 12
- 取り付け, 151
- 取り外し, 148

さ

サポート

- デルへのお問い合わせ, 199

し

システム

- カバーの取り付け, 91

システムが損傷した場合

- トラブルシューティング, 169

システムが濡れた場合

- トラブルシューティング, 167

システム起動エラー, 163

システム機能

- アクセス, 11

システムの保護, 69, 76

システムパスワード, 74

システム冷却

- トラブルシューティング, 171

す

スロット

- 「拡張スロット」を参照

せ

- セットアップパスワード, 77
- セットアップユーティリティ
 - CPU のオプション, 62
 - オプション, 59
 - キーストローク, 58
 - 起動, 58
 - システムセキュリティのオプション, 69
 - シリアル通信のオプション, 66-68
 - メモリのオプション, 61, 63-64
- セットアップユーティリティの画面
 - メイン, 59
- 前面パネルの機能, 12

た

- ダミー
 - ハードドライブ, 96

て

- デルへのお問い合わせ, 199
- 電源インジケータ, 12, 23
- 電源ユニット
 - インジケータ, 23
 - トラブルシューティング, 171
 - 取り付け, 111, 113
 - 取り外し, 110, 112
- 電話番号, 199

と

- トラブルシューティング
 - CD ドライブ, 176
 - NIC, 166
 - SAS RAID コントローラードーターカード, 179
 - SD カード, 175
 - 拡張カード, 181
 - 外部接続, 164
 - キーボード, 164
 - システムが損傷した場合, 169
 - システムが濡れた場合, 167
 - システム起動エラー, 163
 - システム冷却, 171
 - 電源ユニット, 171
 - 内蔵 USB キー, 175
 - ハードドライブ, 178
 - バッテリー, 170
 - ビデオ, 164
 - マイクロプロセッサ, 182
 - メモリ, 173
 - 冷却ファン, 172
- 取り付け
 - iDRAC カード, 128, 131
 - SAS バックプレーンボード, 154
 - 拡張カード, 124
 - コントロールパネルアセンブリ, 151
 - 電源ユニット, 111, 113
 - ハードドライブ, 98
 - ハードドライブのダミー, 96
 - プロセッサ, 140
 - メモリモジュール, 119

取り外し

SAS バックプレーン
ボード, 151

拡張カード, 127

コントロールパネルア
センブリ, 148

電源ユニット, 110, 112

ハードドライブ, 97

ハードドライブ (ケーブル
接続済み), 101

ハードドライブのダミー, 96

ハードドライブをドライ
ブキャリアから, 99

プロセッサ, 137

メモリモジュール, 122

ドライブキャリア

ハードドライブ, 99

ドライブダミー

取り付け, 96

取り外し, 96

は

ハードドライブ

トラブルシューティング, 178

取り付け, 98

取り外し, 97

ドライブキャリア, 99

ハードドライブ

(ケーブル接続済み)

取り付け, 103

取り外し, 101

バッテリー

RAID カードバッテリーのトラ
ブルシューティング, 179

トラブルシューティング, 170

バッテリー (システム)

交換, 141

パスワード

システム, 74

セットアップ, 77

忘れたとき, 197

ひ

ヒートシンク, 138

ビデオ

前面パネルコネクタ, 12

トラブルシューティング, 164

ふ

プロセッサ

アップグレード, 137

取り付け, 140

取り外し, 137

ほ

保証, 56

ホットプラグ対応

ハードディスクドライブ, 95

ま

- マイクロプロセッサ
 - トラブルシューティング, 182
 - 「プロセッサ」を参照

め

- メッセージ
 - エラーメッセージ, 58
 - 警告, 55
 - ステータス LCD, 27
- メモリ
 - トラブルシューティング, 173
- メモリキーコネクタ (USB), 135
- メモリモジュール (DIMM)
 - 構成, 117
 - 取り付け, 119
 - 取り外し, 122

れ

- 冷却ファン
 - トラブルシューティング, 172